

令和五年 四月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一一五二号

川柳塔



日川協加盟

同人特集 私の好きな笑いの句

No.1151

四月号

「各地句会だより」募集

二月号から14年ぶりに「各地句会だより」を再開しています。

川柳塔社グループの川柳会は、ぜひご参加ください。原稿は川柳塔社事務所まで。

内容 — 会の特色・様子・行事・

今後の予定など自由

字数 — 19字×50行以内（本文のみ）

写真 — 会の様子や集合写真など1枚

締切 — 随時

なお、掲載月・文章の添削については編集部に一任願います。

「川柳雑誌」「川柳塔」通巻一〇〇〇号記念出版

『麻生路郎読本』



麻生路郎
読本

A5版

514頁

頒価 三〇〇〇円

（郵送料共）

目次

麻生路郎アルバム

麻生路郎作品「旅人」「旅人その後の作品」

麻生路郎文集・麻生路郎語録

麻生路郎物語（東野大八）

麻生路郎の人と作品

麻生路郎作品「福寿草」

麻生路郎著作解題・麻生路郎年譜

麻生路郎・葎乃作品索引

ご希望の方は左記の事務所までお申し込みください。

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号

花野ビル201号

電話 06-6779-3490

振替 〇〇九八〇一四一二九八四七九番

川柳塔社

エキストラ

小島 蘭 幸

もう30年になるでしょうか、竹原市役所の観光課から電話がかかってきました。火曜サスペンス劇場の撮影を竹原市するので竹原川柳会からエキストラとして男性ばかり15名出演して欲しいという依頼でした。私は二つ返事で引き受けることにしました。ところがどうしても15名にならないのです。そこで私は三原市のやさ川柳会にお願いしてやっと15名にすることが出来ました。

タイトルは、「安芸奥の細道殺人事件」。日本一の俳句結社が竹原市で吟行中、殺人事件に巻き込まれるというストーリーです。

エキストラの出演は、二日間でした。一日目は、ホテルロビーでの撮影後、バスで移動して吟行場所の町並へ、古い町並と、寺へ続く石段を歩きながらの作句風景、私は、竹原市内が一望できる普明閣での撮影に参加しました。更にバスで移動して竹原市郊外のパンブー公園、竹林での作句風景を撮影しま

した。

竹原が大好き普明閣に立つ

蘭 幸

二日目は、竹原の古刹、長善寺での句会風景でした。撮影前に、俳句だけ読んで下さいと短冊を受け取っていたのですが、本番で私は、「私の選んだ一句は」と言ってしまったのです。俳句を読み終わると、カットカットカット!!、一瞬なにがあつたのか分かりませんでした。次の方は、俳句だけお読み下さいとのことでした。

エキストラ演技をしてはいけません 蘭 幸

犯人逮捕の重要シーンも撮影され、無事、エキストラとしての大役を果たすことが出来ました。撮影後、竹原川柳会へ金一封をいただきましたので、私の判断で15名の皆さまに、出演料と書いて渡しました。

放映後、我が家の電話が鳴り続けました。川柳界からの反響も凄かったです。中でも京都の奥山晴生氏からは、うちの大木晤郎でも、セリフのある役はなかなか貰えないのに……と長いお便りをいただきました。

BSで再再再放送がありますように!!

座右の句

俺に似よ俺に似るなと子を思ひ

(麻生 路郎)

私の句

信用と言う財産を子に譲る

平田 実男

川柳塔 四月号 目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「大和・長谷寺」

■巻頭言 エキストラ

1948年

小島 蘭 幸 ……(1)

居谷 真理子 ……(2)

川柳塔 (同人吟)

小島 蘭 幸 選 ……(4)

菠薐草の花 ④

野 沢 省 悟 ……(36)

英語 de Senryu ⑤

吉村 脩 久 代 ……(37)

俳風柳多留 一三篇研究 32

自選集

岸 桂 子 ……(40)

句集の森

岸 桂 子 ……(43)

温故知新

木本 朱 夏 選 ……(43)

水煙抄

木本 朱 夏 選 ……(44)

橘高薫風句集『肉眼』

新家 完 司 選 ……(61)

愛染帖

新家 完 司 選 ……(62)

檸檬抄「穴」

江島谷勝弘・永見心咲共選 ……(66)

1948年

居 谷 真 理 子

この欄をお読み下さる方々に1947(昭和22)～1949(昭和24)年生まれは、何人くらいおられるでしょうか。いわゆる第一次ベビーブーム時代です。

かく申す私は1948(昭和23)年、プームの真ん中に生を受けました。インフレペビーと呼ばれ、現代っ子と揶揄され、団塊の世代と位置づけられた私も、今年めでたく後期高齢者の仲間入りです。(先輩の皆様方、どうぞよろしく)。

さて、1948年。どんな年だったか手元の資料で振り返ってみますと――。

帝国銀行椎名町支店で行員ら12人が毒殺された「帝銀事件」が発生。NHKの「のど自慢全国コンクール」第1回開催。戦後の復興を妨げるかのような福井大地震(M7.1)。横浜国際劇場で10歳の美空ひばりがプロデビュ。太宰治入水自殺。警視庁と大阪府警による一一〇番設置。日本画家

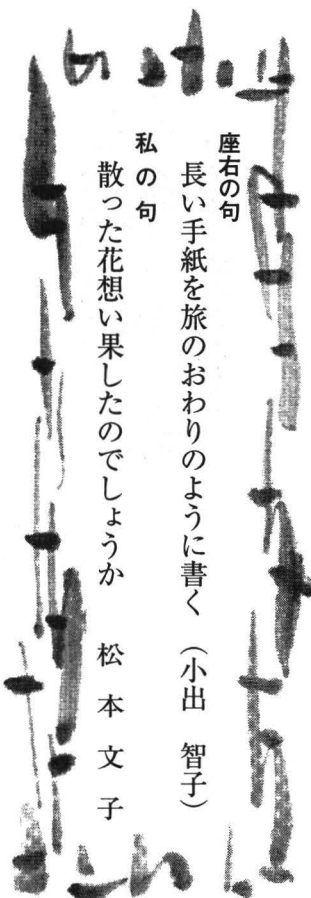
一路集「一番」	高瀬漱石選	(70)
「輪」	金子美千代選	(71)
初歩教室「近い」	平井美智子	(72)
同人特集 私の好きな笑いの句		(74)
川柳塔鑑賞	久保田千代	(84)
水煙抄鑑賞	山下凱柳	(86)
せりりゅう飛行船 [㊤]	新家完司	(87)
インスピレーション・ナビ	大西泰世	(88)
『麻生路郎読本』余滴 ⁽⁷⁵⁾	乗原道夫	(90)
三月本社句会		(92)
各地柳壇（佳句地十選／大羽雄大・徳山みつこ）		(97)
柳界展望		(110)
四月各地句会案内		(112)
■編集後記（ひとこと／太田 昭）	道夫・勝弘・じゅん子	(114)

座右の句

長い手紙を旅のおわりのように書く（小出 智子）

私の句

散った花想い果したのでしょうか 松本文子



上村松園が女性初の文化勲章受章。うんと身近なことでは日緋工業（現ニチバン）によるセロテープ製造、と明暗とりまぜ様々なできごとがありました。

そうそう、私の20代前半には（戦争が終わってぼくらは生まれた）と歌う「戦争を知らない子供たち」が軽快なギターの色々とともに流れ、またも「戦無派」などと呼ばれることに。

何はともあれ戦争を体験せずに75年間過ごしてきたことは、決して当たり前と思ってはならない大きな幸せです。この幸せを次の世代に、世界中にいついつまでもと折るばかりです。

さて、資料の引用で行数を埋めた雑文、最後もやはり講談社発行『昭和万葉集』から昭和23年に発表された短歌を二首。

両手ある一人はアコオデオン弾く

風吹けば見ゆ鉄の片脚 村上 芳雄

いたましく夫と妻を引き裂きて

戦ふ国は滅べと思ふ 前田志津子



小島蘭幸選

枚方市 栃尾奏子

こもればは神さまからのプレゼント
待っていた春にあなたが足りません

怨みたくなれば祈れば良いのです

大丈夫来世で会えるかくれんぼ

直伝の母のレシピは九人前

夕飯はカレーがいいなケンケンパ

倉吉市 牧野芳光

センダンの名が出ず五千歩を終える

剪定の仕方教わる散歩道

いつ落ちて来るかも知れぬ冬の空

滑舌が悪くて反論も出来ぬ

ほろ苦い思い甘さに変わります

曇天の晴れ間晴れ間に鬱を干す

大阪市 古今堂蕉子

大阪弁ここにも崩れいく文化

健康オタクなぜだろ早く死なはった

十代が凄いい聡太君に董ちゃん

木蓮の好きなあなたの季節です

間違わぬように行かねば極楽へ

池波を読むそうだ今日は鴨なべ

越谷市 久保田千代

ポケットのニトロ生きたいわたし居る

夫病み狂いはじめた四分音符

身障者手帖申請ああこの日

これからひとりて老いてゆく寒さ

日に三度笑い薬を舐めている

負けん気をバネに余生を駆けている

西予市 西田美恵子

逆さにして見れば私も美しい

これで良いの何も無い日の梅茶漬け

泣き笑い耐えて来たのも台所

きつと来ると待っていた日もこんな雨

待っててねもうすぐ雨も上がるから

四コマ目きつと私を抱きしめる

尼崎市 森 菊江

入学祝用意はちゃんとしてあるが
免許返納妻と最後のドライブす

父逝つて貧乏神がやつて来た

売れ残りのチワワ買ったが吠えません

菜園のキャベツ野鳥にさしあげる

父ちゃんが仕切りすぎ焼きにぎやかに

横浜市 川 島 良子

派手を着て後期高齢楽しもう

歩き方転び方学ぶ老いの脚

犯罪という自覚ない闇バイト

亡夫の字懐かしく読むラブレター

比較などしなくていいよ君はキミ

強いわたしと弱い私が同居する

大阪市 谷 口 義

悠々と流れる長生きの時間

晩年はどんでん返しがあるようだ

それは何やのんと聞くこと多くなり

頃合いを見計らつておばあさん

さくらさくら家族揃つて見た桜

一人暮らしの姉が一番元氣

黒石市 北 山 まみどり

音信不通さほど大したことじゃない

気になっているのはきつと私だけ

ひよっこりと現れるかも春だもの

ねえねえねえ今までどこに隠れてた
明日には忘れてしまふことだけど
あいづちの温度を保つようにして

鳥取市 岸 本 宏 章

カレンダーに令和五年を書き入れる

老いた脳に記憶をさせるトイレ地図

諭吉より位が高い松葉蟹

級友の稼ぎ頭は中学出

ばあちゃんが主役のような雛祭り

五類移行になつても怖いオミクロン

箕面市 中 山 春 代

ややこしい話は一つずつにして

薄氷の轍を踏んでポストまで

ふる里の山が恋しい流し雛

鍵かけた かけた かけた口に出す

人込みで足を踏まれて「あつゴメン」

積ん読の山がだんだん高くなる

堺市 今 井 万 紗 子

老いて知るひとりぼつちは淋しすぎ

まだこの世きりりと紐を締め直す

マスク越しでも妻のご機嫌すぐわかる

はちばちともまだとも思う墓仕舞い

マスクに慣れてお肌の手入れつい忘れ

空元氣出して何とか生きてます

東大阪市 佐々木 満 作

朝寝坊の孫にちよつかい出す子猫

義理チョコはたつたひとつになりました

葉の花に囲まれ司馬さんを偲ぶ

やり直し利かぬ傘寿のルーティーン

フレイルの境界にいる老い二人

コロナ禍の運動不足諸に出る

三田市 上 田 ひとみ

あかちゃんはたつぷり抱いてあげなさい

やわらかな風で光であれたなら

待っていてくれたのですね最後まで

胸張って私は私なんだから

深呼吸いいこときつとあるだろう

ほらここに君を信じる椅子がある

神戸市 能 勢 利 子

チューリップ咲いたら母は老健に

スタツフは若く元気なケアハウス

それまでは老老介護頑張るネ

愚痴はもう言わなくなった百二歳

時時は他人行儀になる認知

そのうちに私も歩く終の章

尼崎市 羽 奈 和 子

贅沢に半額じゃない刺身買う

平和が欲しいだから戦闘機が欲しい

壁のシミまでおばけに見えた田舎の夜

孫の帽子編みかけのまま逝った母

応援でいてこませなど叫ぶ妻

レジの娘のするんと白い手に見はれ

朝霞市 前 田 洋 子

食品の買い出し寒波やって来る

動物は進化人間様退化

載ってない自信なら有る闇名簿

かと言ってピンポーンには警戒す

ヒカンザクラ北は流水春の使者

花の名を聞けるスマホとする散歩

奈良市 山 本 昌 代

駄菓子屋へ孫の両手が絡み付く

する事もせずにコーヒー四杯目

思ひ出し笑いひとりの箱の中

「ありがとう」「いいえ」と温い声が出る

人が寄るふわりふわふわ若返る

寝ぼうしても願いでくれる人いない

松山市 宮 尾 み の り

BSの字幕で過去が甦り

思ひ出の中の元気で前を向く

冬に咲く花が殊更においしい

右へ倣えするには歳がいき過ぎた

「万歳」の言葉に過去が付きまとう

以心伝心独りよがりと思ひ知り

黒石市 石澤 はる子

そこかしこ故障が目立ち老い順調

この冬を乗り切る手立てガンバラない

上げ膳据え膳秘かに期待した老後

物価高世の荒波が押し寄せる

恐る恐るカーテン開ける今朝の雪

弘前市 稲見 則彦

亡父母の愛を子等へと渡せたか

縄文へ還りたい血が騒いでる

冬の五能線 命に感謝する

がたんごとん一人遊びの縄電車

ひょいと消え唐突に顔出す鍵だ

弘前市 今 愁女

お隣が遠くなる杖の回覧板

加齢に依る医院通いが多いと聞く

待合室顔馴染みでき友となる

だが関心は世界中の戦争・コロナ

窓辺に置いたピンクのシクラメンが咲く

塩竈市 木田 比呂朗

交差点きりり卯月の顔になり

本番の春に息切れスニーカー

ぶらぶらと揺れるストラップも妻も

記憶力テストのようなバスワード

ほうれい線を濃く深くしたマスク

男鹿市 伊藤 のぶよし

ホワイトアウト冬の心を見せつける

雪晴れ間やつとハミング洩れてくる

春の種いまかいまかと乱反射

会話にも物価高騰たしておく

しよせんヒト気負ってみても一馬力

上尾市 中村 伸子

寂しくて少し大きく独り言

りんごむく自分一人で食べるため

久しぶりの雨です私出掛ける日

今日何故か八十路が闊歩する柳誌

忘れてた鑑賞ページにある名前

東京都 川本 真理子

遠い日のおごりの春もなつかしく

窓開けてどこか悲しい春らんまん

楽しくて余計寂しくなってくる

あやまりたいこと あやまつてほしいこと

今一度レシビ通りに立ち返る

八王子市 川名 洋子

たらればで詮無い夢を追っている

戯れに本音を入れて締めくくる

美味い筈夫の料理予算なし

向いているそんな気がする主夫の業

団欒を盛り上げている裏話

横浜市 菊地政勝

愛知県 早川遯行

大鍋の出番が来ない核家族
叱ったり褒めたり孫と笑い合う
更年期自覚せぬまま老年期
いかんともしがたい妻のものの忘れ
健気にも空き家の庭に花芽見せ

可児市 板山まみ子

コロナ禍に田舎暮らしの有難さ
年齢は忘れて暮らす八十四
買っておきのサバ缶開けて独り飯
気がねなく暮らせる良さもある独居
衣食住全て判断する独居

名古屋市中区 山本三樹夫

コロナ禍で五時間待機救急車
着ぶくれで光熱費節約をする
ミサイルに追われて暮らす雪の夜も
登山道ひと息ついた二輪草
雪を踏む音厳かに朝参り

大山市 関本かつ子

地方には一度も来ない知事候補
につこりがとても大事な朝の顔
長所だと思うどこでも直ぐ眠れ
平成のような平和を守りたい
発散を押さえ込んでるひとり言

見えぬもの見るために目を閉じてみる
別れ際握り返した手の強さ
好き嫌いいえぬ貧しい生まれつき
幸せにするとあの時若かった
仏前の父に習った経を読む

大山市 金子美千代

築五十年終の住処と決めてるが
クロッカスつんつん春と早とちり
孤独死がよぎる誤嚥一歩手前
おしりぴよこんと上げて水鳥の狩り
鬼は外平和祈っているんです

大阪市 東敏郎

おせちにも世代の波が押し寄せる
新米を食べた事ない小作人
ポチ袋枕の下に寝る娘
年賀状届き生存確かめる
へそくりはもしもの時の手切れ金

大阪市 石田孝純

つま先で道を探ってまず一歩
悲しみ捨て喜び拾う四捨五入
胸中に強い味方の六地藏
浅き春青柳の七転八起
摺り足で今日一日の足るを知る

大阪市 磯島 福貴子

向い風を追い風に変え八十路行く

トルコの地震いつ我が身にとと思う今日

無力の私救う手立ては募金しか

マスク緩和個人判断悩ましい

ピンクの靴下ろす日数え春を待つ

大阪市 井丸 昌紀

ふくらんで破れてるのが私です

音立てず歩く男で嘘付きで

前向いて進んでいると信じてた

練るほどに名案かびが生えてきた

出会いの予感途中の駅で降りたけど

大阪市 岩崎 玲子

心配を毎年してる温暖化

鼻歌が次から次と今日は吉

紅を引く気力あるからがんばれる

信号を渡り切る為鍛えてる

時々絵本の中で生きてみる

大阪市 内田 志津子

たつぷりとお喋りしたい春だもの

五年ぶり動物園で兎に還る

芝生でゴロゴロスッピンの一人旅

一軒家人に訳あり歴史あり

新芽ムクムク畦道が騒がしい

大阪市 宇都 満知子

ばあばの小宇宙 孫の大宇宙

妊婦さんへ眼差してエールを贈る

夕陽よりもっと眩しい子等の声

日曜午後いつも観ているのど自慢

怖くない自分に期待しなければ

大阪市 江島谷 勝弘

頑として成績表を見せぬ孫

準備万端ととのいました桜たち

理由などどうでもええの好きは好き

やらしいなポイントに期限つけ

外交で仲良くしよう隣国と

大阪市 榎本 舞夢

骨折の悪夢から抜け初日の出

主婦の座を娘取り持つお正月

今年からゆつくりでいい元気でね

初句会初会合と出かけてる

初曾孫誕生祝招かれて

大阪市 大川 桃花

自国の空さ迷う気球はほっとけぬ

老いて病み子の手助けに日々感謝

ふと赤いマニキュアを塗る気の弱り

最強寒波厚着とカイロでのり越える

瞬発力咄嗟にかわす鳥のフン

大阪市 大沢 のり子

免許返納洗車している夫がいる
ガソリンの残したままで車去る
手放した車の写真見えています
ガレージのスペアタイヤは置いたまま
きれいな字今でも好きな夫です

大阪市 奥村 五月

金星が取れぬ横網いない場所
蹟かぬ宇宙へ住所移したい
帯締めた諭吉が話すぐ付ける
昇給は値上げ分ほどない夫
遺産なし運と知恵とはいただいた

大阪市 小野 雅美

春が来る明るい服を買いに行く
髪カット君は気づいてくれました
上質な眠りにスマホ遠ざける
久しぶりプランコ槽げば泣けてくる
夢までも母に楯突き目が覚める

大阪市 折田 あきこ

窓あける昨夜の悩み放り出す
かっぱう着着て輝いた若き日々
故里の土手にいっぱい友の笑み
また明日いつもの場所で光ります
暖色に染まり四月の中にいる

大阪市 笠嶋 恵美

幸せのお茶の一服身にしみる
生駒山きれいに見える午後3時
古い自転車見つかり私元気になる
ゆめのようなたんじょうびなるありがとう
何もせず今日はしずかな息遣い

大阪市 川端 一步

句会にはまずは直木賞読んで出る
妻入院忘れてドアをたたいてる
お迎えは川柳うまくなってから
世界の戦費なくし難民救わんか
ひ孫五人囲まれ初春のいい景色

大阪市 坂 裕之

無理せずに仲間の力借りてます
先生とかくれんぼする一年生
失敗も経験として次へ行く
楽しんで生きていきたいこれからも
美味しいなみんなで食べたすき焼きは

大阪市 高杉 力

カピバラはきつとまあいい月が好き
バラードをつまらなそうな顔で聴く
陽だまりを避けているのですか わざと
やさしさがひとつ入っていた袋
それならば書けるきれいなだけの詩

大阪市 高杉千歩

深呼吸朝一番の仕事です

うるさいがやさしいイケメン介護士さん

飢えている国ありご飯残さずに

極楽から準備中との知らせあり

朝昼晩お腹減ります生きてます

大阪市 田中廣子

恵方巻皆な揃って辛願う

豆まいて邪気を払って無事祈る

バレンタイン孫の手づくりチョコうれし

春が来て二人手をととり出かけた

水仙にさそわれ歩く土手の道

大阪市 田中ゆみ子

春はあけぼの独りの旅もいいものだ

仰山の絵馬引き受けて梅の花

嬉しそうあ忙しい忙しい

傷ついて傷つけやとと七合目

淋しいな口喧嘩する夫のなく

大阪市 津村志華子

いたずらがとっても好きな猫じやらし

すみれが咲いた母かも知れぬ里の墓地

忍耐を論すが如し木守柿

木々芽吹く第九合唱するように

華やかに衣替えした花時計

大阪市 寺本実

徘徊時とりあえず持つエコバッグ

頼りない人が総理で気が重い

ミサイルを増やし平和の為と言う

宇宙からみると境はありません

誓詞読む読み間違えて読む

大阪市 中井萌

落ちぶれて座った席が心地良い

孫達の持て余しそう長い脚

運良けりや赤い花咲く芽が生えた

不器用で世間の波に乗りきれず

マグカップ今朝の目覚めに感謝して

大阪市 原田すみ子

要所では正座当り前の昭和

お医者さんわたしの予定変えさせる

縮んでた心身太陽に晒す

美味しくて誘わなかったこと悔いる

旅の空何時もの家事を思い出し

大阪市 平井美智子

バス停の少し傾いでいるベンチ

行先が決まらぬままで昼のバス

寒明けて紅差し指のひとり言

眉尻に少し残している未練

言い訳を重ねる足を組み替える

大阪市 平賀 国和

闘病五年肺ガンの兄ついに逝く
亡父の歳超せずに逝った兄無念
八十の壁の高さを思い知る
長期間の介護に姉は疲れ果て
兄送る教会葬でバツハ聴く

大阪市 降幡 弘美

三代代受け継がれてる裁縫箱
ありがとう言われるたびにする貯金
ケガすると続けてケガをする不思議
今の子はプロマイドなど知らんやろ
洗濯を干すころ変わる空模様

大阪市 山本 加お里

検査結果大きな丸でお出迎え
公園でマスク外して深呼吸吸
初めから不良になる子産んでない
健康は若い時には気付かない
辛せと思う人には福が舞う

大阪市 横山 里子

梅便り寒さに負けた好奇心
義理チョコもやめて自分だけのチョコ
反骨精神楽しく老いるコッ
欲が出て現状維持を望む日々
独りは寒い心にカイロ貼る

堺市 柿花 和夫

転んだら頭の調子良くなった
一番の敵で味方のひとり酒
バラ色を信じちゃ駄目と子に教え
ミサイルが性善説を吹っ飛ばす
本棚に私の旅が並んでる

堺市 栞原 道夫

見知らぬ駅へ風が案内してくれた
信号待ちで永遠を踏んづけていた
車窓から家のオレンジ色の灯よ
消しゴムをたまに綺麗にしてあげる
心地よく頭冷やしてくれる本

堺市 源田 八千代

丸かぶり南南東に丸い月
立春へ喜び跳ねる兎年
親友と電話で喋る一時間
音を上げる年金からの引き落とし
戦争コロナ老後安泰思いきや

堺市 齋藤 さくら

もう老後鍛える足が頼り無い
久し振りにマスク外してこんな顔
朝ドラに二十歳の頃を懐かしむ
梅見ごろ友の誘いに胸弾む
はらはらもどきどきも無い平和な日

堺市坂上淳司

貝塚市 石田 ひろ子

戦争と平和昭和の泣き笑い
若者に是非見て欲しい無言館
専守防衛が戦後日本の売りだった
盾から矛に武器積み変える日本丸
国連の非力を嘆く世界の目

堺市澤井敏治

皆スマホ叫び届かぬ都市砂漠
肘タツチよりもおじぎという礼儀
寒椿きみもコロナに耐えている
ホモサピエンス進化してると言えるのか
子は伸びるでっかい夢を持つ限り

堺市内藤憲彦

ああうれし母が亡父の歳こえる
迷ったらずに來た道引き返す
定位置と決めたメガネが見つからず
税金返せ殺人兵器買うのなら
虫食いの脳にクスリの五七五

池田市太田省三

メルカリの品で揃えたハネムーン
枯山水石に絵ごころ詩ごころ
撮り鉄の車が並ぶ無人駅
神鹿と害獣分ける道一本
美容室タカラジェンヌの隣席

まだ生きるしつかり恥をかきながら
予約して待たせる医者へ通つてる
ウォーキング句会に備え足馴らし
雑用が生きるリズムを弾ませる
左肩の痛み両手の恩を知る

河内長野市大島 ともこ

手探りの闇の中まだ生きている
恵みの雨五日続いて心身症
ちっぽけな嘘でお腹が空きません
ずばらでも出来ると誘うダイエツト
色白になりたい思春期のカラス

河内長野市梶原 弘光

荒波に向かつて行けば沈まない
少子化を急に言い出す政
遊行期は無口ぐらいが丁度いい
朝ドラのハッピーエンド見えて来た
ロスタイム一番多いのは野球

河内長野市木見谷 孝代

君と共に泣いた怒った楽しんだ
さみしさを脱いだり着たり春を待つ
のほほんと生きのほほんと今日が過ぎ
微力だが生きてることが子の支え
難しい合唱曲が背を押す

河内長野市 中島 一彌
終活の氣に病むたびの先送り
口出しが親切すぎる老婆心

奮発しヒバのまな板買つて悦
早春の具材賑やかちらし寿司
寒風に小さな春が揺れている

河内長野市 藤塚 克三
入院前の多い検査にくたくたに
老夫婦ありあつて受診室

薬飲んだ念押しをする看護師さん
手術後の麻酔醒めたらグーしたい
窓越しに青い空みて希望湧く

河内長野市 村上 直樹

歓声に沸く校庭に見る希望
やつと春散歩邪魔する老いたヒザ
円満と見えて互いの無関心
ノータッチでも生きてます夫婦です
AIがあつと驚く奇手妙手

河内長野市 森田 旅人

「おはよう」か「ハロー」か迷う旅の朝
大浴場独占富士もひとりじめ

片言の英語片言の日本語

人種越え旅情味わうティータイム

樹海へと続く木立の明るさよ

岸和田市 岩佐 ダン吉
寡黙だが実ある人と目で分かる
反対はお前だけだと言ってくる

涙まで流してくれた聞き上手
握手までくれた一枚上でした
ありがとう水と油の仲だけど

岸和田市 雪本 珠子

悲しみを海に流して春を待つ
悲しみの淵でわかった人情味
背負うものあるから今日も頑張れる
つかの間の幸せくれた青い鳥
年重ね生きる喜び日日感じ

吹田市 太田 昭

戦争を知らぬヤングの長い足
逃げ込めるポケット一つ空けておく
本物はそんなに飾る筈が無い
無駄と言う豊かな道を歩み出す
新しい自分見たくてまた歩く

高槻市 片山 かずお

二月に咲いた慌てん坊のコゴメバナ
昨日一輪今朝は二輪が咲いたウメ

惚けぬよう握りしめてる好奇心

余生いつまであるのか思案する傘寿

言葉なくとも息びつたりの老い二人

高槻市 島 田 千鶴子

恙無く生きた証の誕生日

会えぬから無性に心騒ぎます

武器持たせ鬼と化したる偽政者よ

夕焼けを追ってからすは戻らない

梅一輪春の予定で盛り上がる

高槻市 初 代 正 彦

それなりに枯れてはいますが発芽中

春めてちよつと気になる花粉症

ポカポカの陽気を嫌うスニーカー

ど忘れもともにあるから笑いあう

異次元の策というけどその原資

高槻市 富 田 保 子

この夏のクーラー嫌いの夫逝く

鏡にも写さぬ顔で生きて来た

響き合うものを求めてもう一人

どきどきの胸を隠して髪を切る

あと少し生きて下さいたんじよう日

高槻市 松 岡 篤

世界中みんな不幸な一年間 (ロシア侵略年)

ウクライナ終戦祝いきつと来る

地獄よりもつと地獄なウクライナ

プーチンも孫の前では丸いだろ

敵兵も家族居るのに撃ち合うか

豊中市 上 出 修

平和ボケ気球が来てもUFOか

地球儀のピースまあるく埋まらない

オリンピック裏で電通仕切ってた

くすりより医者の一言大丈夫

春が来たもう後ろには夏が居る

豊中市 きとう こみつ

フランス語の試験に受かり有頂天

めでたい日でもないが赤飯よく食べる

誕生日ケーキ63の火をともし

マンシヨンの役員決めるあみだくじ

まっすぐなきゅうりはどこか機械的

豊中市 藤 井 則 彦

アレ以外は酔うても言えぬタイガース

溜息を吐かずに生きる頼もしさ

争いを避けてばかりの小憎らし

言い訳と愚痴は聞いてもすぐ忘れ

後悔を洩らしもできぬ独りぼち

豊中市 松 尾 美智代

雪の日は炬燵でライン結ぶ友

毎日の暮し小さな石を積み

明日咲く花を夢見て種植える

チヨコレート渡す孫いる夫いる
そこそこ恥かいて元気に老いてます

豊中市 松田 蟻日路

寝屋川市 川本 信子

漁り火のロマンを胸に焼くするめ

転けたらあかん上半身は三十度

涙もろい質で出づらい映画館

素通りができない私お人好し

運動が足らんと叱る腕時計

整形をせねばマスクとれません

真面目だった照れず誓えた若かった

3Dで創るわたしは超美人

物価高キャベツまた減る串カツ屋

無事行けた雪の大谷黒部ダム

豊中市 水野 黒兔

寝屋川市 伊達 郁夫

自転車がギコギコあえぐ坂の町

綿帽子梅の蕾に春視く

和やかに鍋を囲んで十回忌

可愛さに一枚増やすお年玉

万病に効いて笑顔はなお無料

私にもきつとある筈残り福

威勢いい曲だつてあるハーモニカ

生きがい茶碗が二つ並んでる

ときめいて老いの心に乱気流

ここからは予定外です気楽です

富田林市 中村 恵

寝屋川市 富山 ルイ子

春の陽に脱がされました冬帽子

瞬時に命が悲しウクライナ

ふる里の匂いが満ちている便り

一年になるよく頑張ったウクライナ

母のいない里は本当に遠くなる

ドイツがレオパルト2を供与するぞ

解かない君を信じて繋いだ手

ウクライナ各国助けありがとう

嘘噂集まり怪物を生んだ

戦のない幸せな国日本国

富田林市 山野 寿之

寝屋川市 廣田 和織

新幹線五十年振り老いの旅

淋しさに慣れることなどできません

ジオラマの東京俯瞰スカイツリー

約束をしたがつているのは小指

老い二人お上りさんの二重橋

良い事が起きる予感の良い目覚め

泰平を朝日に祈る旅の宿

女将には部長も説教されている

お天気の応援もらう夫婦旅

肩書きの有無は問わないトリアージ

寝屋川市 平松 かすみ

お賽銭上げる機会が減りました

白黒のテレビの頃は四世代

国会は少子化対策でもめる

油断すな小さい国土を四方から

地球から逃げ出す月を模索中

羽曳野市 磯本 洋一

定年後専守防衛我が妻に

魚偏多くあるけど味知らず

五浪明け初の親父の涙見た

鹿煎餅あてにはいいよ減塩で

自肅中キャベツの切り方プロ級に

羽曳野市 宇都宮 ちづる

術後二週足がずっしり重くなる

久し振り五千歩越えでよく眠れ

夫には義理チョコ孫には本命

こけし雛飾り女を忘れない

朝ドラがあつて毎朝起きている

羽曳野市 徳山 みつこ

なつメロに乗って家事する八十路坂

梅が枝にエイツと括る凶みくじ

へえなんで目を白黒の電気代

待ち受けに曾孫二人の花が咲く

二 三本白旗使い卒寿まで

羽曳野市 藤原 大子

残高へ予定狂わす物価高

寒い地の寒さ楽しむ雪まつり

空仰ぎ気球探しをしましょうか

おいしいの一言ごちそうにさせる

息子来る少し機嫌の良い夫

羽曳野市 三好 専平

戦争に反対をして獄に入り

嫌いでもないのに酒をやめている

たたかいの毘にはまつてゆくニホン

ギックリよりヘッピー腰になつてきた

クロはクロ イヤはイヤだという強さ

羽曳野市 吉村 久仁雄

医者よりも母の祈りにすがつてゐる

家族葬遺影もどこかリラックス

どうすればこんな優しい子に育つ

突つ張つて生きた両親モボとモガ

天下人の歴史庶民はどこにいる

東大阪市 西村 哲夫

実に成らぬ話も聞こう嬉嬉として

呑みながら体験の吐露見逃さず

苦と恩を前後振り分け里帰り

きららかにつぶさに思う友が近く

偏西風偉い坊さん連れてきた

枚方市 谷 英也

いまだとどかぬ仙人境地卒寿前
まっすぐに生きてきました肩凝った
新年も笑顔で会えぬコロナです
終活は百まで待てと閻魔様
巢籠りもいろいろあるよ雪籠り

枚方市 藤田 武人

上役は鳥獣戯画の猿になる
EV車増えて原発も増える
一杯の番茶で蘇る心意気
帰る里無くさぬように忘れ物
転ぶから痛みのわかる人になる

藤井寺市 太田 扶美代

のんびりと生きていこうねソバ枕
ゆるやかな坂だやさしい人と住む
羅漢さま恋をした事ありますか
地平線面影消えぬ人がいる
思った通りモザイクの下風ばかり

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

過ぎ去った日々も笑ってくれている
平穏な形に焼けてゆくたまご
ファックスでそよ風一枚送ります
せわしない時間にややこしいことを
返し縫いされて身動き出来ません

藤井寺市 鈴木 いさお

鈍足の冬俊足の春と秋
元氣な内に一目逢いたい女がいる
もう済んだことだ忘れることにする
氣力と言うが氣力で癌は治らない
決めてます家族葬後は一心寺

藤井寺市 吉田 喜代子

川柳は上手くないけど止められぬ
大丈夫マスクはずせと言われても
膝痛が治りうれしい八十七
グラントを真つ赤に染めた散り椿
数独に頭を使う今日は雨

箕面市 大浦 初音

言葉の裏探つて時に疲れます
言の葉は心にしみる生きてくる
犬の散歩どちらが主か分からない
夢握りこの世にふれる呱呱の声
全世界飢える子供に愛の手を

箕面市 酒井 紀華

逃げられぬあーんしたまま齒科の椅子
大樹抱き水の音する天仰ぐ
あきらめぬ歳末ジャンボ連番で
好きな事している時は時計見ず
粒摘みの新人がいる入社式

箕面市 出口 セツ子

さよならは言わず「またね」と振り向かず
老いて知る亡父の愛に感謝する

一月の記憶震災も父の死も

足跡を誰かの胸に残したい

生きてゆく元気を息子からもらう

箕面市 広島 巴子

雪うさぎ作りふる里友思う

空の旅ミサイル保険掛けておく

ニユース後に深呼吸吸して気を静め

豆食べて心の鬼を追ひ払う

見つけたよ見つけたよ春ふきのとう

八尾市 寺川 はじむ

乗せられて成り手ない役任される

世界遺産の肩書超える富士の雄

片付いてや々と我が家の派閥解け

ロシア侵攻ストレス溜める今朝の記事

詭弁で凌ぐプーチン空し胸の中

八尾市 村上 ミツ子

散歩する余所さまの花愛でながら

気がつくとき昔を懐かしんでいる

B29を兄とみていた幼き日

またあしたのないさよならは好きじゃない

貝寄風に連れられ春がやってくる

大阪府 米澤 俣子

老いるとはかくもまだるっこいものか
時折は元気をもらう師の句集

聞き耳は立てず私流で決める

お月さま独り私も独り眠れぬ夜

ありがたいことに曾孫五人になった

神戸市 上田 和宏

ミシン目に悪戦苦闘する老いよ

雑用が一つ終わった空の青

筋は曲げぬたった一つの取柄ゆえ

雪しんしん町が昔にかえり行く

温暖の島おだやかな民 日本

神戸市 奥澤 洋次郎

一緒に老いてきた部屋にある温み

気付かなかった君の世界があったのだ

一期一会淋しさ抱いたままの旅

人間のことは少なくなる社会

せめてもに函館山に妻の骨

神戸市 興水 弘

省略きかせ生きた余白に語らせる

大股に歩いて桜吹雪呼ぶ

ぐち難聴ほどほどの距離探してる

夢追って追ってあの世も涸らさない

それなりに彩り語る自分流

神戸市 近藤 勝正

3年でマスクが似合う顔になる
音が消え会話も途絶え友も消え
難聴も悪くはないな小言消え
足るを知る人は幸せ我不幸
母と会う五百羅漢で命日に

神戸市 斎藤 隆浩

情けない寝た振りしてる優先席
検査するから見つかった悪いとこ
メルカリで高値が付いたプレゼント
Jアラート鳴っても逃げ場見つからん
スパーへ行くためだけに乗るベンツ

神戸市 敏森 廣光

散歩道春を探して遠まわり
今年もまた妻の義理チョコはろ苦く
恵方巻かぶりついてる鬼の顔
真っ直ぐに素直に生きてよく寝れる
首筋が寒くなったね総理殿

神戸市 富永 恭子

もう少し眺めていたいこの景色
一言を交わして会が暖かい
変わらない日常明日もあって欲し
残り物詰めて句会へ手弁当
枝切ればちよこんと鳥が来て座る

神戸市 松倉 正美

誕生日久方振りの本ビール
葦満開日頃の憂さを吹っ飛ばす
奮発のブランドチョコは自分用
脱マスク議論百出街の声
残雪を集めて小さい雪だるま

神戸市 山口 光久

今日の日を占うような朝の空
ふらふらになるまで力出し切ろう
穏やかな空は何でも聞き入れる
よるこんで孫の踏み台引き受ける
手抜きせず仕事は速くきつちりと

神戸市 山口 美穂

トップニュースは大雪暦は春だけど
マスク解禁されど今では無二の友
昭和ひと桁今も戦後を生きている
空襲で逝ったあの子も米寿です
電気料金請求書見て震えくる

神戸市 山崎 武彦

黒は黒と言えない淋しさ宮仕え
叶うまで叩き続けているトビラ
悪役に徹して知った人の情
丸かじり一気に食えぬ歳となる
一本の寿司では足りぬ願い事

明石市 糀谷和郎

窓の灯のひとつひとつに幸が棲む
今メール昔なつかし告知版
あの仕種誘いのサインだったとは
とほけても顔に出るたちですわたし
以前から覗いてみたい穴がある

芦屋市 荒牧孝子

神目覚めて地球に笑い下さいな
抜かないで庭のにぎわい冬の草
色占い緑好きです平和好き
人気がいい人の顔もうやめる
シミは濃く立場は薄くなる老後

芦屋市 竹山千賀子

飛びたいと羽を繕うバースデー
徳積んだお方だ背が光ってる
アエイオウ体調をみてさあ始動
日日好日跳ねて歌って昼寝して
生きている程良い汗をかきながら

芦屋市 新阜義明

ガマンいる石もコロナも3年余
起きたなら柳の事しかない頭
受診時の得も言われない待つ時間
NHK民放アナの養成所
ボタン押すやたら多いよ自動化は

尼崎市 近兼敦子

お花見に車イスからでる笑顔
二番手で能力発揮できている
手をつなぐ今は介護の河川敷
柑橘の匂いさせてる子ども部屋
到着の駅まで我慢してる咳

尼崎市 永田紀恵

するしない自己責任になるマスク
ボーダーライン見ると越えたくなる私
酔うほどに過去の肩書きでかくなる
どことなく母に似てきたブルドッグ
妻が居た過去の余熱で生きている

尼崎市 藤井宏造

子の前では泣き顔見せず耐えている
一人では行く気のしないバイキング
受け皿を探しあぐねる救急車
立てないという意味をなさない砂時計
犬だつて淋しくて遠吠えをする

尼崎市 藤田雪菜

空晴れて心もフワリ軽くなる
すき焼きを一緒に食べる君がいる
春らしい切手を乗せてポストイン
雪マーク今日することを後回し
風邪予防好きなキンカンジャム作る

尼崎市 山田厚江

ばったりと猫と目が合いにらめっこ

生きる道うまくいかない事だらけ

百均で何を買うのかふと忘れ

傷んだ羽自然の中で再生す

南の窓冬の日差しに足伸ばす

尼崎市 山田耕治

上の娘からシャツ下の娘は靴下

ゆつくりと顔に馴染んできた帽子

訪れた娘と父と子の食事

玄関の鍵はアロエの鉢の下

認知症のテスト孫と大笑い

加西市 山端なつみ

眉キリリ目はパッチリで口マスク

三年ぶりマスクとつたら誰だっけ

マスク中歯列矯正させてる

サミットはマスク外して開きたい

マスクなし素っぴんの楽忘れぬ

川西市 山口不動

早起きの私ストーブつける役

植木屋の驚く程に梯子伸ぶ

名が出ない昨日挨拶くれた人

裸木に耳をあてれば父の声

温暖化とこのことかと大寒波

三田市 足立つな子

どっこいしょ休み休みの匙加減

グツグツと湯気にさそわれ手がのびる

癖のないりっぱな書体ほれぼれと

いじらしい花の魁梅の花

長寿社会今後の憂いうけとめる

三田市 稲角優子

健やかに冬を見送る冬至祭

白寿の師手書きの賀状恙なく

昇竜に乗った初夢まだ遠い

うれしいね孫にいたたくお年玉

陽の匂い分けあう二人日向ぼこ

三田市 大西重男

句集できあとで気が付くあれやこれ

新入社員初々しさの花が咲く

食ベログ見てはるばる行くも定休日

エンディングノート書いたぞ子よ見とけ

帽子にマスク怪しくないよこれ普通

三田市 尾崎一子

二十年節分さんと亡夫の忌

お供えの新酒ほのかに匂う春

同じ日が二日とないが探し物

新品の家電わたし再生中

喜怒哀楽ゆるやかなりし母の笑み

三田市 九村 義徳

眩きが波乱生み出す星条旗
円安がこぞとばかり責め立てる
知らぬ間に財布の論吉いなくなる
月末の経済事情知る財布
爺ちゃんの財布の中に蛇がいる

三田市 住吉 美和子

「サル団子」見てる私も温もるよ
鳥インフル悲痛な叫び地獄絵図
マスクして友達になり三年目
うれしいと身体の不調も忘れてる
流水と桜開花の列島ニュース

三田市 多田 雅尚

薬漬けされた分だけ生き延びる
冷蔵庫の中妻より僕が知っていた
マスクしたままで良かった君の顔
十年前付けた手摺りが役に立ち
不都合な事は何時でも先送り

三田市 中山 昭美

またねとは明日も会えると思うから
もう少し力を抜けば楽なのに
古手紙今なら分かる母の愛
年賀状当たらずに数が減り
寝坊する元気が今は懐かしい

三田市 野口 真桜子

借り物の笑顔を鏡に見ぬかれる
大皿の夢いつかいつかがてんこ盛り
子供の手垢いっぱいグリの初版本
新妻に花贈る宵なにげなく
若すぎるパスポートの顔疑われ

三田市 堀 正和

好きなかだけ朝寝坊する寒い日は
大雪の予報が出てもケセラセラ
初雪をホットワインで迎え撃ち
町内に一軒だけの日章旗
今日もまた笑いの種の出番なし

三田市 村田 博

久し振りの義理チョコ血圧を上げる
人間の良心探る無人駅
放射冷却ワイパー欲しい窓を拭く
決議したルールひとりも守らない
口答え出来ぬ歯医者の新兵器

高砂市 松尾 柳右子

陽光へことさら赤い寒椿
テレビから貰う独りの時間割
カラオケで発散中の家ごもり
甘酒にほっこり午後は癒やされる
10年に一度の寒波節電を

宝塚市 丸山 孔一

忘れたと思い出せばまだセーフ

白杖の渡る踏み切りそつと手を

「じゃあまたね」何と不安なお約束

「やあ」と手を上げて通じる間柄

全責任俺に振るなとコロナ言い

丹波篠山市 北澤 稠民

無口すぎ話聞けないお医者さん

この国に次世代担う子が足りぬ

単純な男でいつも一直線

近すぎず離れすぎずに老夫婦

生きるにも死ぬにも人の世話になる

丹波篠山市 酒井 健二

神の言葉伝えにチャイムまた鳴らす

カラオケのごときに涙出る不覚

方言が出てきて本音語りだす

身の丈を忘れしばしば夢の中

極上のうな重いつか食うつもり

丹波篠山市 藤井 美智子

我が居場所地球でいちばんいい所

八十路まで生きてひ孫を抱いた幸

川柳に生きがい求め老いの道

前向いて歩む八十路へ靴が鳴る

亡父母亡夫へ謝りながら大断捨離

西宮市 緒方 美津子

事故多発高速道は雪に泣く

年賀状安否気づかうものとなり

冬うらら孫は金賞書道展

無言劇つづく仲にも熱いお茶

それなりの覚悟をさせる屋根の雪

西宮市 亀岡 哲子

世帯主で堂々生きる百までも

八十七年アヤちゃんと呼ぶお友達

絢爛の春もグルメもテレビから

カレンダー今日を確認するトイレ

上等上等やとと卒寿へゴールイン

西宮市 福島 弘子

春兆す蓄色付く亡父の梅

今日も無事一番星に労われ

ゆつくりと一番後に降りるバス

目を凝らすワカサギ釣りの前屈み

あきれかえる五輪汚職の深い闇

南あわじ市 萩原 狸月

成るようになってこの歳この元氣

アナログでシンプルに生き老い楽し

その昔不便の中にあつた情

コロナ禍に商店街は相を変え

入選のわが句添削したい疵

奈良市 東 定 生

銭湯の看板揺する重油高
度の合わぬ眼鏡かけてる首相さん
被災者が焚き火を囲む大地震
保育園ちよつと小振りな雪ダルマ
年金の半分ほどは通信費

奈良市 大久保 眞 澄

コートを着たら紡鐘形になった
こぼしながら食べるこぼした物を踏む
気持ちにはわかると一応言っておく
誉め言葉恥ずかしながら心地よい
同い年が惚けたヒトゴトではないぞ

奈良市 加 藤 江 里 子

染まらない私色したペンを買う
ほどほどの暮らしに感謝お山焼き
ひと言で消えてしまったリスベクト
井の中からペン一本で声上げる
武器供与 和平の使徒はいませんか

奈良市 高 橋 敬 子

コロナ五類にアベノマスクも遠くなる
断捨離の品もその日の風まかせ
電気代何とかしたく着ぶくれる
若さは強いあれよあれよと孫見てる
続く戦何を信じていいのやら

奈良市 辻 内 げんえい

穏やかに過ごせる日々が今年こそ
リハビリにモールを歩く極寒日
あごマスクはずして散歩やつとくる
身長測定縮んだ分は背伸びする
嫁姑バトル休戦ティータイム

奈良市 米 田 恭 昌

AIロボも匠の技に勝てはせぬ
伝統の重味伝える舞台裏
本物がかすんで見える似非社会
二度童子老母は童話の中にいる
ムンクの絵改憲論を黙らせる

生駒市 飛 永 ふりこ

新芽からかすかに匂う春の息
風邪気味に葛湯はくほく染み渡る
とことんが足りず私のあかんとこ
山うどが春の息吹を連れてくる
燐りが解けずすみれに励まされ

香芝市 大 内 朝 子

婆婆なりに心ときめく春が好き
戦争を招く不安の防衛費
菜の花の黄のやさしさは母に似て
老姉妹痛い所を競い合う
大空を仰げばちっぽけな悩み

香芝市 山下 じゅん子

奈良県 中原 比呂志

地の怒りロシアでなくてなゼトルコ

脳も背も縮み可愛いおばあちゃん

卒業式マスク外すと別の友

鍵盤に白い蝶舞うピアノニスト

遊び仲間減つて淋しい不良爺

桜井市 安土 理恵

寒がりの夫へ見せる灯油代

同室に寝るからトラブルが続く

ま、いいか私が馴れていけばいい

ニュース消す朝のコーヒー冷めていく

パラダイス日本は平和呆けやろか

奈良県 安福 和夫

カタカナ語昭和生れを悩ませる

そこ彼処カタカナ無視で通れない

ITでカタカナ略語さらに増え

帰国子女日本で英語直された

島国の言語に固執にも限度

奈良県 谷川 憲

家籠り緩めて友に会いに行く

梅の香にメジロのつがい来て平和

相談という根回しにあらがえず

久しぶりと挨拶をして名前出ず

鈍麻した感性目覚めさす散歩

全国民マスクで美男美女揃い

家族とは肌の温みもなくライン

吊り橋のきしみ世間が騒がしい

風船も大き過ぎると採めるもと

足向けて寝られぬ方位借りがあ

奈良県 中堀 優

目の前の壁を越えられるまで励む

老いたなら他人に花を持たせよう

頑張つて内助の功を発揮する

喜びはリスベクトした後にする

鍵穴を覗いた後に起きること

奈良県 長谷川 崇明

青春の残り火燃やすクラス会

あれやこれ年をとつても好奇心

この辺で肩の力を一度抜く

人間が好きでたまには妥協する

一休み今は必要うさぎ年

奈良県 渡辺 富子

音もなくゆっくり老いがしのび寄る

楽しまん日毎に進む老い模様

夢を追う息子の背ながたくましい

冬ざれの野へ哀しみを解き放す

今年こそ春のドレスの待つ出番

和歌山市 上田紀子

それぞれのドラマを終えてケアハウス

頼られて背筋ピシッと伸びてくる

春よ来い歩き始めたベビー靴

人間らしく弱点見せて生きてゆく

みかん二つあげて友達出来ました

和歌山市 柏原夕胡

核心に触れて友だち去りました

春よ来い歌うと涙こぼれます

亡姉よりも二年も長く生きました

亡姉の子の心配をする今日もまた

日本が安全だったのは昔

和歌山市 松原寿子

不器用に生きて時時灰汁を抜く

受話器おき何か物足りないひと日

肩ポンとパワーをくれる趣味仲間

地に落ちて誇りを放つ紅椿

特権が女にあつてチョコを選ぶ

岩出市 藤原ほのか

プーチン氏平和の鐘はいつならす

命さえあれば生きてる価値がある

リハビリは自分のためと言いきかす

マイナンバーカード私のすべて知っている

旅支度したいけれどもできぬ今

橋本市 石田隆彦

口閉めるチャックが緩み本音出る

今日の日が不安になった茶が不味い

戦争はしないと信じ生きていく

団塊をいじめるなよと叫びたい

後期から取り過ぎですぞ保険料

京都市 清水英旺

ドカ雪はアダモの詩情にそぐわない

はびこる悪ちゃんちゃらおかしと鬼笑う

他人事じゃない断層の上に住まいする

トルコ救援ロシアが派遣とは皮肉

殺戮と救命どちらもヒトの性

京都市 藤井文代

地球異変ミサイルが降る日本海

助詞一つ悩みもがいて句ができた

吸えば被害者吐けば加害者コロナ渦

「甘かった」の一言いえぬプーチン氏

褒めてもらったお言葉しばし保温する

長岡京市 山田葉子

まだ出来る集めて今日も無事終る

パンチ効いた昭和歌謡に揺られてる

余命聞き桜の色を見たくなる

前を行くひと居てほしい細い道

あれそれで話ちつとも進まない

鳥取市 池澤大鯰

山裾に民家ばらばら空き家かも
ばらばらと選挙演説さくら居り
山陰線雪で運休旅中止

お中元予定してたが届かない

「暇だろう」決めつけられて割りふられ

鳥取市 奥田由美

八桁のタンス貯金を持つ隣家
夫が居て重宝だったシツプ貼り

散歩よりコタツの温さ選ぶボチ

二十行のメールに届くNO二文字

ハワイなら同居も有りの子の任地

鳥取市 岸本孝子

もう少し若かったらと言うスマホ

女子会の友達二人きりになり

老人は今は卒寿で祝われる

キャンブイン今年は虎が吠えそうだ

物欲がなくなりこれも歳かなあ

鳥取市 田賀八千代

ポケットの中に沈めている生家

噛み合わぬ話に誤解溶けぬまま

百の理由捜して迷路から出れぬ

よく滑る口で謝罪の種尽きぬ

褒められたくて土筆競って伸びていく

鳥取市 棚田大

厳寒に猛暑日浮かべ元氣湧く
思い合う心のメダル作ろうよ
現代は凡人よりも奇人増え

パートナー紅葉の中なお赤く

子どもから宿題出され俺悩む

鳥取市 谷口回春子

名コック話だけならミシユランだ

ついに来た大台まではあと一歩

気がつけばあつという間に銀世界

百人一首孫と勝負だ返り討ち

難問が解けた気分はチョモランマ

鳥取市 永原昌鼓

パワフルな夢よ叶えと手を合わす

共通の話題求めて旅をする

節分の豆わたしには噛めません

よくしゃべりよく笑うのが薬とか

食べるのが楽しいうちはまだ元氣

鳥取市 中村金祥

ホールインワン消えたボールに投げキッス

いにしえの波が作った大砂丘

孝行をしてるつもりか子が別居

終戦の出口見えない黒い霧

大望を抱いて校門後にする

鳥取市 福西 茶子

凜凜しいが石橋さえも渡らない
愛という形を画布に描いてみる
優しさで愛の形は七変化
眉二本描けば完成する化粧
腐るな驕るな時々亡父の声がする

鳥取市 前田 楓花

古希と喜寿こんなめでたい二人です
生きる意味探しながらも夢を見る
いいパパだ今夜も本の読み聞かせ
郵便が来る楽しみな月曜日
砂時計静かに落ちてミルクティー

鳥取市 山下 凱柳

「ふるさと」は僕の心の愛唱歌
故郷は昔の景色まだ残す
暇つぶし一人カラオケ三時間
5B握り沈思黙考腕を組む
足に舌もつれ愕然老いの坂

鳥取市 吉田 弘子

誕生日孫の笑顔が海越えて
大寒の雪は怒った様に降る
北風小僧泣いているのか戸を叩く
春がすみ四方の山は薄化粧
特集の見出しに引かれ婦人公論

倉吉市 大羽 雄大

行動を大胆にさせてるマスク
あっちにもこっちにも良い顔見せる
穏やかな人だ話がしたくなる
見栄張りも背の曲がりには隠せない
大らかと言われ小言を引つ込める

境港市 藤原 久直

脳トレに好きな塗り絵を好きに塗る
寒い夜コンビニおでん酒の友
足の爪全部切るのも一仕事
日に何度郵便受けを覗く癖
秘め事は持つて行きます墓場まで

米子市 池田 美穂

ひまわりがきつと解決してくれる
モーモーともうすぐ私牛になる
買いだめたマスクに悩む時近い
思い出は付加されなくて査定額
積ん読が我が家の危険区域です

米子市 伊塚 美枝子

老人会帰りのバスは夢心地
過疎の村日に三本のバスが行く
神様に見えるコンビニ徒歩五分
平凡に目立たぬように老いていく
CMのようにはならぬ顔のシワ

米子市 後 藤 宏 之

離れたりくつついたりのこの浮世

はんぱんが年をとったら頑固者

夢を追う宝探しが止まらない

雪景色今日は独りで鍋つく

悲しみも楽しみもあり自然体

米子市 後 藤 美恵子

復興の名が泣く五輪汚職なり

足下の宝は忘れがちになる

伝言ゲーム老人会に無理のよう

電話よりラインを好む老いた耳

身のほどに合ったサイズの家気楽

米子市 妹 能 令位子

嘘つけば嘘の上塗り待っている

賑やかに徳利並べて妻の留守

放棄地のアワダチ草が賑やかだ

婆三人炬燵で花見の相談中

だんだんと近場になった花巡り

米子市 竹 村 紀の治

「失礼」の声が追い越す雪の道

飲む筈の酒が朝まで残ってる

雪三日ローテーションの鍋料理

挨拶がすぐに返せぬマスク越し

早寝してゆっくり起きるエコライフ

米子市 中 原 章 子

元号を三つ目生きている長寿

生きていることに感謝の日を送る

生き残ったものが勝ちだと言ひ聞かす

静と動メリハリつけて力わく

アイディアは一人静かな時浮かぶ

米子市 成 田 雨 奇

隣り家の同期の男まだ元気

酒飲みの友にはこんな妻がいた

円高も円安もぼく縁がない

要るものは要るから値段気にしない

難聴で妻がいつでもぼくの右

米子市 野 川 宣 子

フォークダンス手汗気にした初心なころ

泣き笑いつまみにしてる同期会

おつまみのサバ缶猫と半分こ

風呂上がり背中見せ合い薬塗る

物価高要るものは要る慌てない

鳥取県 門 村 幸 子

W杯ドーパミン出て眠れない

用心はまだ怠れぬウイズコロナ

雪掻きよ今に心臓破れそう

大雪日水も売り切れ断水す

しみじみと雪のない道スーイスイ

鳥取県 斉 尾 くにこ

日本の誇りはここに文房具
窓を割る小石も傷を負っている
奇跡ってたったあみだの棒ひとつ
見るたびに微笑み返すぬいぐるみ
貸した手がほのかな春を連れてくる

鳥取県 竹 信 照 彦

除雪車が歩道に跳ねる掻いた雪
百貨店リニューアルせず閉店す
コンビニが近所に有れば便利だが
大根抜き雪の止み間に妻が行く
天目指し泳ぐキウイの蔓元気

鳥取県 細 田 裕 花

友だちとかけ放題の昼下がり
目詰まりの体を溶かす温泉へ
雪予報今夜はキムチ鍋にする
給料が上がれば許す物価高
孫たちの恋の話に耳が立つ

鳥取県 本 庄 ひろし

お名残が惜しいと言ってくれた人
大船に乗せてはしごを外す人
ユーモアを勘違いして一騒動
残すもの何も無いけど許してね
ウィルスに強いお酒を飲んでます

鳥取県 山 下 節 子

食べる事忘れぬ内はまだ元気
写メ届くすくすく曾孫オメデトウ
悲しみを胸にしまつて喪主つとめ
みえみえの世辞ですませる慰めか
脳はよし痛みかゆさも感じれる

松江市 石 橋 芳 山

バナナ剥く納得ずくでいる女
プチプチを潰す真つ白な脳味噌
のんびりしてますマシユマロのままです
餃子の羽であいにく飛ばません
初めての越冬七匹のメダカ

松江市 藤 井 寿 代

食べて寝て想定外の重病人
この年で杖つくなんて想定外
歩けますようにと胸に手を合わす
長い人生こんな事だつてあるさ
悔やむのはよそう明日はケセラセラ

松江市 松 本 知 恵 子

立春を過ぎてやさしい雨の音
友達というより同志突如逝く
ど根性話の続きもう聞けぬ
冬の風空虚な胸を吹き抜ける
また逢える予感虚し雪が降る

出雲市 伊藤玲峰

岡山市 前田恵美子

数珠持たせ忘れて帰り失せました

令和五年もあちらこちらにピョンと跳ぶ

祈りの数珠掌を失った心地して

本音とはボソリ呟く中にある

黒真珠の本物気落ちがするが元氣です

昔より若いと言われ背伸ばす

健康と交換したと氣を鎮め

ヒイラギに節分イワシ刺して春

お静かにちんまり感謝して生きる

冬眠の山も目覚める立春か

岡山市 大石洋子

笠岡市 藤井智史

南国にめずらしい雪新世界

新聞に載らぬくらいの愛でした

声はりあげて梅のつぼみを驚かす

全身に欲が流れている元氣

雪帽子かぶる地蔵のおっとり顔

おとなしい、心はエクスカリバーだ

雪をただ見ているだけで腹のすく

妊娠にトランキローと言ってくれ

みかん食べ腹にポツンと火を灯す

トークでは負ける 川柳では勝てる

岡山市 工藤千代子

岡山市 高岡茂子

梅園で春を浴びると背筋伸び

Gゴルフ皆勤賞の婆集う

義姉欠け古里は近くて遠い

老人パワーに雨も遠慮で止んでくる

鉛玉が妥協をせよと溶けてくる

八十八もう充分と思う日々

野仏に春一輪を差し上げる

焼芋も輪切にすれば抹茶に合い

古希過ぎて金棒重くなりました

尊敬の証に作りたい句集

岡山市 丹下凱夫

岡山県 藤澤照代

桃太郎がお迎えをする晴れの国

無駄話みかんみかんの皮積る

一時間掛けてドライブラーメン屋

二人三脚いつしか妻に引き摺られ

アルパムの中に見知らぬ人がある

八転びしたくないからする散歩

寒椿の一輪にこそ我が意あり

小遣いも吸い上げられる物価高

春の風どこでもドアはピンク色

小うるさい妻と言われて頼られる

広島市 岸 本 清

深呼吸僕の朝ルーティーン
値上げより減量望む老夫婦
ヘルプキー押して益々泥沼に
聞き流すことを覚えた孫の知恵
花ならば妻は老梅僕は木瓜

竹原市 岩 本 笑 子

今日こそはハガキに手紙きつと来る
大切な用です小さく返事書く
冬のまん中において毛糸の帽子編む
バレンタイン一度もらったことがある
苦いとも思うバレンタインのチョコである

三原市 笹 重 耕 三

焦ってはならぬ明日への老いの杖
五千歩過ぎると満足するシューズ
物価高財布の揉めごとが絶えぬ
悔しいが背なで語れぬコップ酒
許してはまた後悔の子育て記

岩国市 上 村 夢 香

手のひらにこっそり夢を隠し持つ
無情の風愛しい人をわたしから
甘えてばかりこれでいいのか日々自問
便箋を広げてみても遅い筆
なぜだろうすぐに謎解きしたくなる

防府市 坂 本 加 代

二階から電話してくるデイスタンス
要マスク口塞がれて喋れない
階段を二段飛びするウサギ年
約束に縛られている律義者
初詣で村の鎮守に鈴がない

東かがわ市 川 崎 ひかり

春だ春お茶から酒の宴となる
朝食に十種の生命頂きぬ
そろそろと春を探しに穴を出る
路地裏に昭和のままの小商い
秘密にネ話せばすぐに風に乗る

松山市 大 内 せつ子

おもてなしだつてさ おしくらまんじゅう
気を張って生きているよとナマケモノ
しわくちやの顔あつたかいなと思う
キャンパスにゴッホの耳を描いている
サクラサク「赤門」のとびらが開く

松山市 栗 田 忠 士

幸か不幸かまだ勝ち馬と縁が無い
虎落笛孤愁の窓を開けに来る
芽吹く日へ手ぐすねを引く冬木立
まぶしさが妬みに変わる時がある
ほどほどの雪を楽しむ雪見酒

松山市 古手川 光

過疎はいい心が和むホーホケキョ

出不精のお尻叩いてくれる春

丁寧な言葉でひどい事を言う

ミサイルより飯を喰わせと言いたかる

丸洗いきれいにしたいこの地球

松山市 柳田 かおる

伸びすぎたゴムですりセツトはむりね

さみしいから荷物はすこしずつ捨てる

ためらいを許してくれぬリトマス紙

あの頃の正義 群青色でした

肩書きの多さほどではない話

今治市 永井 松柏

一筆箋にサヨナラだけの或る破局

つる思慕おさえ「かしこ」で締めくくる

消しゴムで消してプラマイゼロにする

爪を研ぎながら小さな嘘をつく

昨日まで名もない野辺の花だった

西予市 黒田 茂代

小さいのに買物袋買い替える

コロナ禍の買い出しまとめ五日分

惚け防止一日一度ガムを噛む

溜息の重さ深呼吸の深さ

休刊日もいいなゆっくり柳誌読む

土佐清水市 辻内 次根

寒いなあ面倒くさいなあと葛湯

吐いたのは何か寂しくなる一句

雪が降る盛んに薬缶の湯がたぎる

八方が塞がっていて肩が凝る

ただ貰うような気がするキャツシユレス

阿南市 小畑 定弘

千の風オヤジが会いに来いという

ライバルとまた鉢合わせママの店

この人も鰯^{やもめ}夫だろうか夜鳴き蕎麦

アルバムのどこを開けても恋の人

冬ベンチわたしが居ると誰も来ぬ

北九州市 小松 紀子

誰れよりも努力しないと追いつけぬ

老いてなお見果てぬ夢に酔いしれる

医者が言うはつきり言うなおらない

お世辞など言わぬ鏡に老いをみる

聞き違い言い間違いが多い八十路

母となり妻動物の顔になる

子は巣立ち妻は運転席にいる

気配りに妻にこにこと波静か

医師と妻の連合軍に生かされる

六十年妻に本音の有り難う

唐津市 坂本 蜂朗

熊本市 杉野羅天

はるばると来たねと鶴と会話する

籠球の友一人も欠けず喜寿へ

羊羹の重さ嬉しい年となり

喜寿の感まだまだ仕事やる気なり

デコボンが幅を利かせている陸月

札幌市 小澤 淳

雪搔きに奥さん達のほっかぶり

重い雪だった試練の歳を知る

雪を搔くコーンスーブが待っている

厳寒のピーク芸術の雪まつり

夜の寒さ湯たんぽ2つ抱いている

(前月分) 尼崎市 羽奈和子

入館者一万人目一人あと

みみっちく節約するの飽きてきた

目と手と口フル稼動する回る寿司

玄関に並んだ孫の靴でかい

席空いてさつと座れば生ぬるい

(前月分) 鳥取県 竹信照彦

寄る所無い道をただただ歩く

横綱も居なくて出来る大相撲

初句会去年の皆勤賞もらう

入選句大声で読み座を湧かす

朝ドラの紙の飛行機今朝も飛ぶ

(前月分) 枚方市 谷 英也

かあちゃんが晴着を競うランドセル

老人会新茶囲んで和む午後

苦心惨憺賀状送れど来たライン

慣れの校門遠く桜散る

微熱出たすわコロナ禍と行くお医者

(前月分) 神戸市 山口 美穂

コロナニュースまだまだ地球駆け巡る

ありがとう ごめんなさいと溜息と

電話ベルハイと急ぐもああ切れた

友の電話愚痴はわたしもあるけれど

今年もまたすぐ過ぎそうでこわいなア

「川雑」語録 ⑰

祖父鴈治郎追慕川柳

林 敏 夫

今街をうつめるイ菱帰る鴈

之は祖父の辞世の句「今海をはなる、舟や帰る鴈」

を、もじつたものである。たゞし本当は「今岸を

……」が正しいので「今海を……」の方は、偶然、反

古の書きつぶしが発見されてそれが用ひられてゐるわ

けである。

(「川柳雑誌」昭和13年3月)

波稜草の花

④

野 沢 省 悟

「川柳触光舎」主宰

一年間巻かれたままのカレンダー

東 定生

こう句にされると「ウチにもあるある」と気づかされるが、ふつうはなかなか気づけない。作者独自の眼であり川柳の眼。一年間開かれることなくビニールに包まれて畏まっているカレンダー。捨てるかりサイクルに出すか、それともメモ紙にでもするか。どうかすると自分の姿に見えてきたりする。新しいままの佻しいカレンダー。

柳誌見るひとりぼっちじゃない孤独

西村 哲夫

複雑な思いがにじんでくる句。柳誌を開くと、一度も会ったことのない柳友の句が話しかけてくる、それら句のなかに、同感し共感できる句があり、アア仲間が居るナアと思う。一人ぼっちではないことを自覚する。ただそれとは別のある孤独、それ

は一個の人間としての根元的な孤独。その孤独があるがため、我々は川柳をつづけているのだろうか。

何でだろ会いたくないがまた出会う

中山 昭美

お釈迦様は、生きてゆくことは四苦八苦だと言われた。生老病死など大ごとでなくとも苦しいことはいろいろあり、そのひとつに嫌いな人間と会い関わらざるを得ないことがある。コレッてけっこうキツイ。本当にこの句のように嫌いな奴ほど、意外な場所ですっぱり会つたりする。

大丈夫小銭がたとポケットに

宇都満知子

今の財布は、お札よりもカードであふれている。一度しか行かなかった店のカードも大事にしまっていたり。中身は薄いが厚くなっている財布。これに対して、小銭入れの何とゆかしいことか。たくさん入ってずっしりと重い小銭入れには、何となく満たされる。小銭入れが楽しそうに喋っているから、今日は大福でも買って帰ろう。

待ち人があの世に一人いる余裕

吉村久仁雄

誰も死んだことがないので「あの世」が

あるかどうか、わからない。しかし仏壇に手を合わせたり、時々にお墓参りをするということは、みんな「あの世」の存在を受け入れているためだろう。あの世にたった一人でも待っていてくれる人が居ると信ずるならば、作者のように生きる（あるいは死ぬ）ことに余裕ができるだろう。

防衛費増やせば安堵できますか

前田 洋子

昭和史に学んでほしい軍事論

岸本 宏章

二句だけ選びましたが、政府の軍事費増等に対しては多数の句がありました。確かに、ロシアのウクライナへの侵攻、北朝鮮のミサイル、中国の台湾問題等々、世界はキナ臭くなっていますが、軍備拡張だけでいいのかどうか、川柳人として川柳の眼を鍛えなければと思います。

一日中家にいたけど顔洗う

大浦 初音

面白い。生活のなかにある真実をキリッと突いた句。何処に行かなくとも、朝と晩に顔を洗ってしまう不思議。ただ僕の場合は、晩に顔を洗うことで晩酌をはじめます。読者の皆様は、どうしていますか。

英語 de Senryu ⑬⑥

麻生蔑乃 『福壽草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

出語りがあるかと思う桜の灯

*light under the cherry blossoms
it might be a play
by Kabuki musicians*

花の留守あてがいぶちの酒に酔い

*drinking sake at hand...
my husband is absent
for cherry blossom-viewing*

light 灯 *cherry blossoms* 桜の花 *might be a play* 演技などあるかもしれない
Kabuki musician 歌舞伎での浄瑠璃太夫と三味線弾き *drinking* 酒など飲むこと
at hand 手元にある *(be)is absent* 留守 *cherry blossom-viewing* 花見見物

～リバーウィローのため息～ ⑬⑥ 日英語を駆使して書く作品、論文

英語によるフェイスブック、ライン、メールの交流は、未知の国の詩人や作家との出会いを提供してくれます。その出会いによって共同でエッセイ、詩、俳句、短歌を創作する機会も生まれます。ブルガリアからは、ほぼ連日 RENSAKU (連作) が送られてきます。その作品に呼応したハイクやセンリュウ (英語) を送り返し、私たちの RENSAKU 作品はすでに 100 句になろうとしています。作品からは異文化に暮しながらも共用する問題、例えばウクライナとロシアの戦争も作品の中に色濃く入ります。また別の現在進行中の作品ですが、ポーランドのハイク・禅画作家による『(日本へのオマージュ) 作品集』(仮題) へ、詩とハイク (日・英語) を提供しています。近く出版できそうです。

私が自分の作品や論文を日英語で書くようになって 40 数年たちました。きっかけは教員時代に英語圏からの同僚が多くいたことや、学生の語学研修に海外の大学へ何度も引率したことが遠因になります。研修先の大学で日本の短詩について講義をしてほしいと依頼されることが度々ありました。以前に本欄で紹介した日本語の俳句研究者、R.H.Blyth の研究も進めていましたので、日英語で作品や論文を発表することが当たり前のようになってきました。しかし私の母国語が日本語ですから、英語の間違いもあります。そこは割り切って英語話者にチェックを依頼します。語学のこつこつ勉強と、俳句・川柳・短歌・詩など短詩を愛するのが老化防止の良薬だと思っています。

誹風柳多留二三篇研究 32

二三本やいてくんなどすけんぶつ 一六17
西瓜ニタ切れてよし原見てかへり

天仁4

山田 昭夫・小栗 清吾
細井 龍夫・伊吹 和男

高野 範雄

清 博美

253 まきをわる分別をする水車

山田 この分別は、思わせる程の意であらう。穀物などを搗く水車の杵は、その打ち下ろすタイミングといい、丁度薪を割る時と同じような様相だというのだ。薪は一定の長さに切った丸太を据えて、水車の杵同様、薪割りを真上から打ち下ろして割る。

薪もわる分別にいる水くるま

露丸明四828

小栗 賛。変な句だが、そういうことだろう。

分別＝物事の道理をわきまえること。

清 賛。

254 女房が留守でながしにわんだらけ

山田 わが家もかくの如し。

女房ハ留守台所の賑かさ

二七8

小栗 賛。ただ、「二七8」の句は、女房の留守に悪友共が、フグを喰ったりする光景かとも思える。

清 賛。

255 土手のたんごやハすけんの心まち

山田 日本堤には、吉原の素見などを目当ての、色々な屋台が並んでいた。

土手のかまどのうるほいハすけん也

三四16

主題句は、素見は屋台の団子を「心待ち」にして居るというのだが、せめて団子を食って帰るのが楽しみなのだろう。

小栗 少し悩ましい。「心待ち」は「心の中で期待しながら待っていること」(「日国」)で、常に店を張っている屋台を楽しみにして行くこととは、少しニュアンスが違うように思う。

「素見の」が落ち着かないが、「素見が買いに来てくれるのを、団子屋が心待ちにしている」と解したい。

見物左衛門をあてに土手の茶屋 二二16

加えて、「心待ち」は張見世の遊女がなじみ客が来るのを、待っている様子に使われることが多いので、素見は、遊女は心待ちにしているないが、団子屋の方は心待ちにしている、とすれば、少し捻りのきいた句となる。

伊吹 小栗氏説に賛。

清 同。

256 生酔ハどぶでぬき手を切てゐる

山田 生酔が溝にはまって、手をばたばたさせているのだろう。

大路せましと生酔ハ溝へ落ち 一三八14

清 賛。

257 三条の右衛門ぬす人めかない名

山田 謡曲『熊坂』。熊坂長範の「与力」として、河内の覚紹、磨針太郎兄弟、三条の右衛門、壬生の小猿の名が出てくるが、このうち三条の右衛門というのは、公家めいた上品な名で、「盗人めかない名」というのだろう。

三条の右衛門ハミヤコ無宿なり 天五礼3

高野 賛。「めかない」は「らしくない」の意味と思われるが、辞書には無い語なんですね。

清 賛。辞書を引く時は「めく」で引きます。その否定語です。

258 たしかおくまハこゝらだともちを喰

山田 雨譚註「和国餅」。和国餅は新材木町にあった和国屋の名物だった。

その和国屋の場所は、享保の頃、白子屋庄三郎という材木問屋があつた所である。白木屋では、お熊という娘に簪を迎えたが、お熊は手代と通じていたから邪魔になり、これを殺害しようとして失敗、市中引き回しの上死罪となった。この時お熊は黄八丈を着て、髪は島田に結い、薄化粧して襟に水晶の念珠を掛けていたという。

主題句は、「確かお熊（の家）はこゝらだ」と噂しながら、和国屋で「餅を食い」。

大胆な娘の跡へ餅屋越し
八丈の跡で日本の餅を売 傍三16 笈110

清 賛。

259 ぶきけんな所へゑこつゐんぶつしやう

山田 仏餉は「仏に供える米飯。仏飯ともいう」（日国）。

主題句は、「不機嫌な所へ回向院仏餉」が来たというのだが、状況は今一つはつきりしない。おそらく朝になつても亭主は戻らず、女房が「不機嫌な所へ回向院仏餉」つまり、回向院の托鉢僧がやつて来たというのである。

ひんほうな坊主を廻スゑこつゐん

明二桜4
江戸中につかませて食ふゑこつ院

安三桜2

小栗 賛。回向院仏餉が朝来るものと決まっていれば、「不機嫌な」原因は亭主の外泊と決めてよさそうだが、よくわからぬ。次の句は「朝」の証拠になるものか。

ゑかういんぶつしやう夕部とんた事

天二327

清 三月末（平成二〇年）に刊行する『川柳神と仏の辞典』には、傍注を「昨夜亭主帰らず、不機嫌で掃除をしているところへ」としておきました。

260 うなぎやハむごいといふとはらを立

山田 鰻の蒲焼きは、頭に釘を打つて固定し、腹あるいは背中を裂き、串に刺して焼く。見るからに残酷で、それを見た人が、「酷い」というと「鰻屋は」「腹を立て」。

買へバこそうつみもあり鰻さき 九〇17
冗談じゃねえ、べらぼうめ。

清 賛。

261 色男好物ものでせめられる

山田 何事も「過ぎたるは猶及ばざるが如し」。

色男してくれろにハこまる也

傍19

高野 川柳でいう「色男」とは洒落本などという色男とは異なり、「間夫」「ひも」のことを指すんでしようね。逃げないように必死になっている女の情景では。

清 賛。間夫ひもにあらず、文字通りいい男です。代表は業平。女が貢ぎたくなる男です。

自選集

小島蘭幸

電気代だけで年金消えそうだ
ポストまで歩いただけの今日でした
開けてしまった間違つて来た手紙
いつの頃からか魔除けになりました
魔除けだと思えば高くない保険

松本文子

笑わなくなった弱虫になった
私から零れた心探す夜
新しい彩に私を塗りなおす
人形になつて耐えてるまだ生きる
落葉はらはら溜息をしすぎたか

三宅保州

亡き妻に相談したい事多し
味方だと油断したのが仇になり
冷静になるべく窓を開け放つ
語り部も座り直している佳境
爪の垢煎じてみても所詮真似

村上玄也

元旦もお屠蘇の後に薬飲む
パソコンも寒さで動き悪くなり
失敗はもう気にしない歳だから
車庫入れに苦勞当てたり擦つたり
キャンブインいよいよ春がやつて来る

森山盛桜

発言が大胆になる消せるペン
明確な目標となるサ高住
花びらは散らぬに侍は殉死
耳搔きは何度も秘密聞かされた
黙食はお寺の修行らしい所作

八木千代

老いたればひとり時間が多くなる
トランプもオセロも相手あればこそ
そこでふと気付く連歌のようなもの
問うのも私もちろん答えくれるのも
言うなればひとり連歌で手を打とう

山本希久子

比べるものなし私の道歩く
使い古した頭振つても叩いても
もう少し生きようせめて前向いて
受話器の向こう同じチャンネルらしい
三十年振り産声ひびかせ曾孫

居谷真理子

雪の朝保線作業の靴の跡

人間の暮らしに点る小さな灯

小細工はしない私らしく負ける

せつなさはキコキコ首が鳴る小芥子

母がいたホスピス小さく見る車窓

川上大輪

深呼吸するのは今だ青い空

傘持って出たのに空はまだ青い

ホッとしています腑抜けになってます

鉛筆を持つと忘れる癖がある

水槽で豆腐一丁飼っている

北野哲男

卒寿ならまだ若死にだと思ふ

呆けぬよう野次馬根性抱き続け

落ちついて足し算ばかりしています

いそいそと花と仏に会いにゆく

億の金数えてみたく宝くじ

木本朱夏

留守番は金魚に頼みコンサート

開演のベルさざ波が引くロビー

七本の指のさきから湧く泉

大阪弁のトーク泣かせて笑わせて

奇跡生む指蝶になり鳥になり

新家完司

腹ペコで目覚めるベストコンディション

階段は嫌だと拗ねる左足

鉛筆を握ると疼く右手首

体力は落ちたが酒はまだ飲める

句会より楽しい帰途のひとり酒

高瀬霜石

目覚ましに起こされているまだ若い

飛行機に乗らなくなつて旅は旅

繁華街地元の人も分からない

大盛り無料——ぼくを苛めてどうするの

令和5年量より質に切り換える

津守柳伸

近隣の噂コロナが近くなる

旅友のコロナキャンセルしたツアー

茶髪染止めて卒寿の貌になる

後期でも傷害保険継続中

健康で朝寝夜更かしマイペース

西出楓楽

大人買い百均でなら辛うじて

何もかも歳のせいだとして気楽

じつとしていよう動けば老害だ

あほやな自分に何度言つたやら

プーチンとロシア民謡繋がらぬ

仁 部 四 郎

水滸抄

(つづき)

頼まれて傍聴席へボランティア
失言は傍聴席へ向いていた
記者さえも傍聴席で欠伸する

高槻市 三 谷 白 黒

弁護人傍聴席の空気読み
難事件傍聴席も息を呑む

平 田 実 男

通帳の青信号が黄になる

種も仕掛けもある人生もマジックも

ちゃん付けで呼んで呼ばれている卒寿

美しい物はどこかに棘がある

君が代を聞くと背筋が伸びてくる

福 士 慕 情

雪まみれ鼻水たらし遊ぶ子ら

雪のんのんもはや我が家は冷蔵庫

ノロノロと渋滞続く雪の壁

除雪車の後の除雪に骨を折る

この冬を越せば明日が見えてくる

藤 村 亜 成

川 柳 塔 柳 箋

3 冊 送料共 1000 円

事務所あてお申し込み下さい。

ジャンケンで敗けて起きます暖房オン

目ざましが鳴っても寝てる冬の朝

鼾にて連れの体調判ります

夢見てた思い出せないまた寝よう

寝屋川市 坂 本 ミヨノ

カニ鍋の煮るまで待つて口うごく

特価品のまんじゅう少し小さいね

千代紙でひなを並べて子供なり

朝食にぜんざい旨い妻に礼

京都府 北 野 クニオ

蠟梅の花見て心温まる

受験生梅の名所の北野行

オミクロン四年目くれば格下げに

節分を迎えりや春はすぐそこに



『創刊80周年記念句集 川柳塔』

岸^き 桂^{けい}子^こ

野に咲いてどんな風ともひびき合う
ひと眠りしたくて降りた母の駅
嫌いな人と仲良くなった可笑しい日
愛というたった一つに流される
臆病で軽石一つ移せない
先に読む新聞折り目崩さず
屑籠にずるい男の名を捨てて
たくさんの人に返してゆく情け
情に溺れて女は軽い石になる
恵まれていると素直に書く日記
立ち直るために流した涙です
人並に育ててくれた恩がある
傘を出るこの世の雨が降っている
手のひらの窪みに残る濁り水
死水をとってはくれぬ犬を飼う

(平成16年7月17日発行、川柳塔社)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

銀紙の勲章もらう血の絆
北国に住む子がひとり雪もよい
しょうもないこと覚えてる妻の耳
ひまわりは情熱の花ゴッホの黄
常連の序列はママが決めている
表札は偽名と知らぬ郵便屋
ユダキッと一人は混じる男の輪
ジャスミンと風の噂はすぐに消え
天安門広場を僕は忘れない
愚かなる戦争だった紙の旗
カルチャーに内助を捨てた顔並ぶ
嫁った娘の部屋に壊れたオルゴール
まだ生きているのか僕の兵籍簿
500色えんぴつ僕の色がない
同床異夢妻には妻の数え唄
愛別離苦六十代と二十代
三吉の詩が胸を打つ原爆忌



木 本 朱 夏 選

佐賀県 真 島 久美子

気付かない振りがゲームになっている

撫でておく痛みを忘れないように

春ですが海月のままでいいですか

折り畳み傘に劣っている背骨

抱きしめて春に名前をつけてやる

自転車のパンク自転車ごと春へ

大阪府 今 村 和 男

オリオンの地平の端に足を着け

冬眠のそろそろ夢が覚めるころ

小春日の新聞眺め爪を切る

あの世から春の日差しは降ってくる

春一番二番三番追い立てる

春という名前が春を連れてくる

宮崎県 恵 利 菊 江

鍵落とし家に入らず震えた日

寒さから思わず妻の手を握る

核心になるとペン先尖りだす

祈りから忍耐力が増した夜

胸の隅借りたい夜の孤独感

腕を組む何だか照れて老夫婦

神戸市 米 田 利恵子

オイと呼ぶ男と何ごともなく

指か目がつい間違えるブッシュホン

おでん屋へ繰り出すかたんを誘い

これでもかの言葉尽くして慰める

鈍行に乗り換え見えてきた景色

コラム欄に拍手だコーヒーも旨い

岐阜県 喜多村 正 儀

尖った丸ばかり書くボールペン

変わらない愛を演出する番茶

好きになる予感字余り多くなる

風は急またねのあとに来る計報

ひまわりが背筋のばしたまま枯れる

雪ん子が遊んだあとが残る庭

高砂市 裕 木 る い

最後まで読み通せない本の山
脇役になつて溢れる人間味

淀川であまりに早いクジラの死

尼崎市 山 本 百 合

甘え方知らないままの雪椿

痛いって言ったもん勝ち一抜けた

天邪鬼初恋だとは言いません

災害に備えて男キープする

北風に叫ぶ恋人募集中

どこが好き十個言えたら咲きましよう

尾道市 村 上 和 子

初恋は六分咲きまでほころんで

ときめきは線香花火あわい恋

盃へ花びら日本平和だな

別れると決めて見事な花吹雪

野の花の自由に嫉妬胡蝶蘭

おばちゃんの話に花が咲くうらら

山口市 中 前 幸 子

とめどもない雪のドラマを窓越しに

地球空転 反戦ラッパ吹き鳴らす

わたしを裏切る鏡の中のわたし

ひとり歩きする魂に名札をつける

人生を語るに句読点の酒

白いメルヘン 静止画のごと雪積もる

尼崎市 八 木 幸 彦

挫折する膝につつかい棒が要る

凱旋もならず母校が遠くなる

生涯の悪友だった友が逝く

汚れ役背負ったままで端の席
充分な自愛と結ぶ雪見舞

貝塚市 吉 道 あかね

温室で育つてないという強さ

先に逝き悔いはないのかいごつそう

泣くのはよそうあつばねな終い方

生きるとはこんな形で試される

絵手紙の梅ほのぼのを連れて来る

やがて春 日にち薬を待ちましよう

河内長野市 坂 野 澄 子

結び目に男の堅い意志と意地

行間のすきまに絡む恋ごころ

子の名前忘れし母の背を摩る

故郷へ水は恋しと流れでる

手になじむやつぱり温い紙の辞書

勿忘草想い人あり爪を噛む

東大阪市 青木隆一

出無精もてつちりならと靴を履く

満腹の時には人は争わず

鼻っぱし折られ少しは丸くなり

妻が留守アップテンポの曲を聴く

この歳で妻に言われて時間割り

調べもの脳より先に指動く

大阪市 岡田恵子

何げない顔で本音を突いてくる

ほんまかいなつい見ってしまうテレシヨップ

数式で縫れた愛を解いてみる

椅子ひとつ残して断捨離終了

涙腺のネジ締めなおし朝支度

介護する覚悟もできて春を待つ

大阪府 大浦福子

健康器具あれこれ買つて粗大ゴミ

プライバシー絵馬の願いに垣間見る

黒猫に出会って凹む散歩道

痴話げんか一度はしたいプチ家出

ウインクと勘違いした目の埃

とばけつつ騙し騙され今日も行く

大阪市 尾崎文子

積ん読に今日は読めよとせかされる

寅さんの昭和のドラマほっとする

コロナ五類医療体制まだなのに

ケータイの待ち受けにする亡き夫

いま電話かけていいかとメール来る

福島原発見てやG7

大阪市 滝井えみこ

天近き施設の父はよく笑い

鼻歌がいらいらさせる金曜日

夕五時から仕事本番母をやる

爆弾の吾子を抱えてバスに乗る

ケーキ屋でゴメンを買って帰る人

ゆうらりと出てきた猫に見据えられ

交野市 山野双葉

上手くやるコツは知らぬが生きている

生ぬるい日々が愛しい老いの恋

中るのを覚悟で恋も生牡蠣も

時計屋の娘今でもアナログで

唐辛子一振り多く振り立春

王様の真似していたら風邪引いた

大阪府 奥野健一郎

春よ春背筋伸ばせよ影法師

健気やな倚りかからずに生きる草

下と横向いて犬猿すれちがう

永遠はないものねだり今がいい

気にすると老いはそこから枝を張り

引き際はちやほやされている時に

大阪府 高木道子

着膨れて見栄体裁のない齡
半日の雨に半日昼寝なり

振り返るいいも悪いも自分史に
樹下に立つ花のいのちと青い空
花栈敷家族揃った宴の景

元氣です今日も車で病院に

加古川市 石賀邦子

人肌の日差しに杖と冬帽子

天氣図にダルマ居座る北の国

冷めた目で葬儀CM見ています

神戸市 城戸誓子

普段からしゃべらぬ夫と恵方巻

我がミスもアハハの夫にありがとう

朝焼けは心真白にする魔法

穏やかな朝焼け今日はきつと吉

後悔を胸に封印前を向く

爺のシャツ孫にとつてはヴィンテージ

神戸市 村松久江

諍った後の一言どちらから

仲直りしたくてそつと手を握る

雪解けに優しい声も出るように

戸締りをまた確かめる夫の留守

お早うとお休みもまたスマホにて

たつぷりとクリーム塗って手も眠る

三木市 山口ヨシエ

チューリップ咲いたね夢は捨てきれず

満開の花に誘われ大地踏み

無になつて一歩一歩にある祈り

両隣笑わぬ客の落語会
残酷な手紙ピンクの封筒で
やさしさに欠けた時代を生きている
仲良しの嫁との隙間二三ミリ
手を洗うように心も洗えたら
淋しさに触れると騒ぎ出すレモン

三田市 森玲子

玄関は家の鏡と今朝も掃く
裏表ない人だからずつと友
昌かバツタリ孫と出会った教習所
メモ帖に一句浮かんだ朝三時
老いる日々体のネジもよく緩む
キッチンラジオ私のパートナ―

生駒市 饗庭風鈴

洗いたて春のブラウス着て句会
きのう空家今日は更地に目が覚める
壊された空家跡からご来光
お隣はカラスの領分見張られる
新しい暮し始めるカラスたち
一年の計立たぬまま春が立つ

生駒市 永田 美生子

着ぶくれて始発電車の皆無口
大根漬け塩だ麴だ母の声

独り居の母を見守る鬼瓦

気がつけば限界の里母ひとり

めでたさを妻と分け合う恵方巻

公約にピリオドを打つダルマの眼

和歌山市 定松 宏枝

平凡が一番いいと日々感謝

正直に書いた日記に鍵かける

人生を楽天的に舵を切る

転倒注意まさか私がその「まさか」

出掛けないことが財布を太らせる

人生はカボチャのようにデコボコだ

和歌山県 三枝 眞智子

ブライドを捨てれば恋も成就する

おかっぱに真赤なりボン自己主張

命まで懸けた念書を握りしめ

過去の糸切れて今では遠い人

残月へ別れの辛さ映す影

ブレッシャーに弱い風船宙を飛ぶ

海南市 山中 閑

痩せ我慢捨ててあちこち貼るカイロ

ファイトファイト野菜たつぷり御御御付け

荒れた手にクリームかあさんの匂い

過去ばかり巻き戻しては喜寿の春
同い歳渋み深まる紀州雛

戻らない時間ひとりの恵方巻

鳥取市 上山 一平

雪解けにぼつりと青い蔭の臺

一日ごと雪解けを待つ野良仕事

深い傷かつての苦勞見る思い

深海魚海の異変かミサイルか

夫婦仲近くて遠い雪の道

すかすかのカレンダーにもやつと春

倉吉市 若松 由紀子

雪積もるますます孤独老いひとり

あと一段慣れた階段踏み外す

歳重ね立つも座るも大騒動

大空に目立たぬように昼の月

友の言う一食減らす物価高

反対する君の意見が飲み込めぬ

美作市 岡本 余光

禅画の前解らぬけれど魅入られる

瓢箪で鯰を掴む絵に見入る

マイペース時代遅れはよく承知

好日は酒に手が出る下戸でさえ

来し方の道振り返る七曲がり

ロシアにもきつとあるはず広い空

尾道市 小畑 宣之

寒波来る雪道七つ道具積み
雪降る日おでん湯豆腐屋台酒

もう二度と逢えない人が増えてきた

八十路坂隣の芝生気にならぬ

飼主や親を選べぬ犬も子も

好き嫌いこだわり世間狭くなり

大洲市 花岡 順子

新築のバリアフリーは母の部屋

きつちりと飲んできつちり行くお医者

お日様と遊ぶ灯油も高いので

月命日独りで居ると寂しいよ

75歳週に二日のアルバイト

愛犬と独居老人日向ぼこ

富士見市 中島 通則

ミサイルが飛んで来ないか空を見る

あと二枚めくれば春が来る暦

いつの間にかジェンダーレスの老夫婦

締切りがあるから人は動き出す

納得の顔して回る美術館

琴線に触れると浮かぶ共鳴句

船橋市 中嶋 常葉

ゆさぶりをかけると躊躇する微熱

錯角として片付けておく誤解

切れ味が良すぎて言い切れぬ別れ

カギ穴に女々しい鬼のメヌエツト

未練だけ畳まれている小抽斗

ふし穴を通すと恋もたそがれる

横浜市 巖田 かず枝

悔しきは嘔んで胃散を飲んでおく

悲しみはあははと笑い吹き飛ばす

嬉しきはじつと嘔み締め涙する

欲のない半分ずつが我が家流

淋しきは母の写真に語りかけ

無理するな子等へメールの合い言葉

小田原市 虎澤 昭久

月末の樋口一葉寿司を取る

モノクロも旅空沁みる時代劇

我が影のガリバーとなり橋渡る

幼年期外国という国ありき

眠れぬ夜古典文学ひとつまみ

アンペアを落として上がる老いの仲

豊橋市 西郷 紀美代

わがままを言い合いながら頼る仲

相手にはなれなくなつた体力差

似てほしくなかった母の小煩さ

薄幸を癒してくれた庭の花

軍事實のそれだけあれば適う夢

もう夜勤しなくていいか朝寝坊

大阪市 阪本秀子

分け合えば何も壊さず済むだろう

変異株まっただ中に第5類

凜とした空気に脳が冴えてくる

暮らしには気付かぬ無駄もあるんだね

天の父母あてで宅配恵方巻

大阪市 白谷よしみ

斜めから切りつけてくる春あらし

しゃぼん玉もしもを詰めて君の町

咲きかけた木蓮はらり泣いている

だんだんと踵の低い靴となる

豚まんが小さくなったダイエット

大阪市 田原康雄

熱熱のたこ焼きしゃべる「あわてなや」

ナポリタン焼ソバコラボーいい声だ

オムライス住所は宮城ひとめぼれ

鶴橋で下車匂いに釣られ焼肉屋

ワクチンを打つか悩んでかけうどん

大阪市 中村峰子

この世には未練はないと嘘ばかり

あの人はころとことばバラバラだ

ばやいてるムキにならずにきき流す

古稀すぎて自分大好きスキスキスキ

手を合わす今日も朝日にありがとう

大阪市 松田 聰

誕生日年重ね知る親の恩

ウイズコロナうまくいくこと祈る春

はずれてもあきらめないでロトを買う

軍隊はなくて平和な国もある

抑止力軍備だけでは来ぬ平和

大阪市 森 廣子

春を呼ぶためにパワーを貯めている

生まれ立て春の景色が柔らかい

チヨコ騒ぎカカオの奥の労働者

宣告受けた母と見ている夕茜

泣き止んで星降る夜に抱かれる

堺市 古川 光雄

主夫出来ず妻に頼って生きている

スコアより容姿楽しむ女子ゴルフ

免許返納じじばは買物ひと苦勞

家事ひとつ出来ぬ亭主は落ちこぼれ

腹一杯食べて後悔残るのみ

池田市 倉本 一 弥

コンサートうつとりしつづつ眠る僕

禁酒して寝つけぬ僕の長い夜

浜名湖鉄道ベルが鳴っても待つてくれ

うっかり妻とぼんやり旦那これも縁

来る来ない句会マドンナ気にかかる

泉大津市 助川和美

バイト代我が子の一歩振り込まれ

緊張の真剣勝負飛ぶカルタ

孫に背丈抜かれ嬉しく柱傷

亡き父は明治の人で愚痴言わぬ

心中を整理するため日記書く

泉佐野市 檜葉良子

うるさくて逆らえませんが妻の指示

なんでやる正直者が損してる

この先は私は私ありのまま

日々見せる孫の笑顔に夢いっぱい

立ち話今更聞けぬあなたの名

柏原市 神崎江

糠床へごめんと詫びて旅へ出る

長話聞いていますが目はトロリ

静寂の時ほどわかる時の音

彼を待つ時計の針がすすまない

本命に渡せぬハートのチョコレート

門真市 坂本星雨

我が儘なナイフが光る冬の街

回転寿司性善説が皿に乗る

雲のよう流れに任す自然体

如月の星の囁き聞き逃す

夜の底ひとり脈動確かめる

河内長野市 穂口正子

過ぎ去ったあれこれずしり背が縮む

同じ話これで三度目ぞつとする

ちよい呆けて夫増々楽しそう

今となれば美人だろうとなかろうと

懐メロが心に響く並の老い

吹田市 岩口ぞみ

生徒叱る娘のむかし思い出す

節約の外出あだにショッピンング

出張の旦那いぬ間に大宴会

イライラを助長息子のゲーム音

新年の目安去年と同じです

吹田市 西沢司郎

来る賀状全て生存証明書

難聴の耳にも届く砲火の音

人混みが途絶えコロナもお引越

横文字がちらちらちらと夢の中

炙り出しやつとわかつた遺書の意味

摂津市 野々村レイ子

バス停に主を待つてる杖一本

あるがまま我で良ければ宜しくね

鬼去った溜息をつき昼寝する

私の自慢の息子嫁のもの

冷え切った心ほっこり吾子の声

高槻市 鳥居 宏

東大阪市 青木 ゆきみ

正月に何の祟りか腰痛む

いたいたい夜中のトイレ間に合わず

歩くたび腰に大地がひびきます

痛くない時の幸せ痛感す

大災害に比べ小さい腰痛み

豊中市 齋 藤 奈津子

処方薬一粒ずつに書く日付

般若経二回唱えて出る湯舟

サインの字気分いいとき字も笑う

人感センサー便座の蓋にありがとう

今日の出来ごと句点を打って消す電気

寝屋川市 長尾 千賀

猫の集会向きそれぞれに日向ぼこ

雑踏に時化 老年の漂流記

ふうわり冬語り尽くせぬなごり雪

姉の寝顔水仙のよに首傾げ

夜更けのテーブルため息ボツン春そこに

羽曳野市 黒木 ひとみ

一年の息災願うとんど祭

ろう梅の香りにむせる石光寺

菰かぶり寒さ忍んで咲く牡丹

老い先は短いけれど前を向く

先人の生きる力の知恵袋

一車両三人だけが本を読む

チラシ見て安売り巡る下準備

一張羅接待続き普段着に

靴下が履きにくくなりストレッチ

おあげさんジュワツと甘い母の味

八尾市 田邊 浩三

十八、二十成人式はややこしい

杖ついて豆を撒くのは難しい

地球にも星になる時来るのかな

老齡化終身保険家族葬

コロナ奴がマスクでこの世変えよった

神戸市 酒井 宏

目が覚めてふっと浮かんだ五七五

リモートで孫の自慢のピアノ聴く

化けるのに手間暇かかる歳になり

白黒をつけずに過ごす老いの知恵

十人十色やとわかった匙加減

神戸市 みぎわ はな

花ある人と言われたく柳号はな

あこがれは月の雫の犬ふぐり

ねじり花叶わぬ夢に身をよじる

向日葵は希望は捨てぬ起ち上がる

別れた後も胸に香りを遺せたら

神戸市 山根 弘華

新たなるスタート誓う初参り
老い一人花野に遊び春を待つ
カットして心さわやか赤を着る
母と娘が共に楽しむ川柳で
亡き夫と机並べた初句会

尼崎市 宗 和夫

少子高齢化言われだして三十年
対策といえばお金を撒きたがる
子ども生むことがリスクになる社会
異次元の人口減少幕が開く
限界国家へ日本の近未来

小野市 田中 辰夫

正月に買った日記が欠伸する
たまねぎが鯛つる野菜とは知らず
いつまでも続く黙食口喧嘩
嬰兒の沐浴爺の初仕事
おおらかな妻が救いの安月給

三田市 生田 えい子

大股むり舞妓歩きか千鳥足
外は雪足腰背にとカイロはる
魚の粗鷲カラスの一騎打ち
八十路前なれたらどうか娘の手本
曲る腰和製ミレーの栗拾い

三田市 木村 マユミ

ダウンより母のぬくもり湯たんぽで
ジャズの音が遠い記憶を呼び戻す
物価高旬の野菜の美味さ知る
会えました思わず孫を抱きしめる
目標に輝いていた我が夫

三田市 幸田 厚子

いいサークルいじめをしてる暇はない
友禅に命さし込む花鳥絵図
集落の移動ストアーいこいの場
ペイペイも神社OK祈祷料
タグ立派到来カニも一人鍋

三田市 野口 龍

くやし涙落ちた手のひら温かい
鞆よりリュックが似合うあなたなら
ストーリーテリング私の話セピア色
入場は有料と書かれた子供部屋
こっそりと身の丈はかり生きてます

三田市 馬場 貴美江

福は内鬼のブーチン蚊帳の外
寒の入り一人暮らしの暖房費
路線バス空気を運ぶ祝祭日
平和なり日向ボコする若い二人
大寒波着膨れしては肩凝らす

三田市 松下英秋

遠くから店員見てるセルフレジ
女房に見せるともめる句ができる
マスク取り香り吸い込む盆梅展
両手もむ習慣作ったアルコール
目立ちます迷彩服の自衛官

宝塚市 岸田万彩

大阪に生れ良いこと二つ三つ
長生きをすれば敗者は免れる
予想した通り最後に「知らんけど」
もう飽きた通行人の役ばかり
考えるポーズぐずぐずしてるだけ

丹波篠山市 河南すみえ

ボスのないめだかの学校マイペース
小春日和丹波古民家人を待つ
北へ帰る鶴に逢いたい旅したい
風邪ひかぬ粥と梅干し特効薬
春の日ははこべのような母想う

丹波篠山市 澤良子

曲がり指きれいな指に戻りたい
野球好き息子にサブリ母の愛
運がいいだからわたしは生き延びる
空き家には管理シールの展示会
じいちゃん話題豊富なお人好し

西宮市 北島邦男

またボツかしぶとく次の兼題に
我が人生サイコロまかせケセラセラ
ATMに指示されやつと用をたす
外人が打った去年と同じ虎便り
大仏様聞いてくださいまた来ます

西宮市 高瀬照枝

春信じ冬は耐えてる虫や花
寒波来てユニクロ衣類役に立つ
川柳塔読めば勉強笑みが出る
化粧して着替えも終えて人待つ
ひじき豆煮ると喜ぶ娘の家族

西宮市 高橋千賀子

心の穴うめたくてカナリアを飼う
糸通しメガネなしでもまだできる
ナフリタン忘れ穴あく一張羅
幸せは欲張りません恵方巻
巣ごもりも猫の相手で日が暮れる

奈良県 室田行久

喧嘩腰場を和ませる京言葉
慈悲深い鬼は地獄で村八分
追い出せぬ心中の鬼なだめてる
好き嫌いなくて誰とも友達
読書好き五分もあれば本開く

和歌山市 北原昭枝

値上りへまとめ買いしている出費

買いだめをしても無駄かも知れないが

みそ汁の匂いが家族あたたためる

缶詰が役に立っている雪降る日

迷い込む言葉の海が深くなる

和歌山市 倉橋悦子

新陳代謝出来ているんだ青虫も

残り火へまだ応援の設計図

日めくりの格言くさるな怠るな

忍耐が人をまあるく育てあげ

その言葉いただきました七音に

和歌山市 佐藤まき

南国に思い掛けない雪積もる

雪道は小股でとテレビに叫ぶ

テレビには届く筈ない老婆心

ああ転けたドキリハラハラ無事祈る

身に付いた雪道歩き知らせたい

和歌山市 鍋嶋澄子

雨が降る炬燵で本と菓子袋

雪が舞う屋根を真白に化粧する

隣の犬うるんだ目をし遊んでよ

髪を切り若くなつたわ身も軽し

元氣よく八十路に王手祝盃を

和歌山市 西川千鶴

ゆとりない言葉が招く小競り合い

見栄という糸を織り込む一張羅

男気に富んだ音出すジャンプ傘

ぎこちない恋を見守る冬の月

丁重に辞退しましたボスの椅子

鳥取市 大前安子

ホイ来たよ八十路へ熱い好奇心

考える微熱が身体走りだす

友と会うそうだったねと花が咲く

聞く話手本に出来るやはり友

雪の下新芽の準備庭の木々

鳥取市 狭武紫陽

性格は悪くはないが良くもない

善人の顔で悪玉かもしれぬ

追伸にやつと本題書いている

ひとしきり笑ってふーっと吐いた息

誤字脱字なければきつと違う今

鳥取市 山野すみれ

口の中溶けてく飴の潔さ

堂々と月は自由に姿変え

折り返し電話を掛けてサギに遭う

田の中で凜と案山子の立ち姿

戦車売り儲けるなんてけしからん

倉吉市 宮田風露

安来市 原德利

口滑り貴方のことがばれました
辛口の姑の言葉今に生き

あんぐりと口開けてますデントルで

マスク下口角下がり老け顔に

口下手な笑顔で勝負しています

米子市 川本美津子

バアバアと孫に呼ばれて自覚する

年金が手品の様にすぐ消える

毎日の日課になった捜し物

去年より今年こそはと初詣

物価高昭和の暮らし今何処に

鳥取県 橋谷静江

寒い日が私の年にキビシすぎ

省エネへ昔の知恵で湯タンポを

呆け防止出かける日々を多くして

我が年を忘れていました早米寿

月一度音読仲間楽しみに

松江市 中筋弘充

今日からは春ですだって目が痒い

北風と太陽実はクルである

立春に豆腐食べよと言った母

爺婆が今日も見に行くランドセル

公園のブランコ春を待っている

政治の裏に相対的貧困

面倒な話を返すもんじゃ焼き

湖の背骨の折れる神渡り

親ガチャと言ってくれるなダンゴ虫

ワセリンを塗ったルージユが迫る夢

津山市 高橋由紀女

雪道の歩幅助けてくれる杖

デジタルの時世も老いの豆むしり

詰め込んだ思い出整理まだ続く

難間にもんもんとして日を跨ぐ

習慣のように指折り続く日々

広島市 田桑恵子

そろそろと月面歩行雪積もる

雪の中音なく落ちる寒椿

湯タンポにほっこり夢路誘われ

寛ぎのひとりの時間指を折る

福豆の残りおやつ二、三日

広島市 松尾信彦

論す親慈悲の仮面は外さない

ヘルパーの仮面をつけた子に甘え

ルンレンとプラン膨らむ接種あと

一人でも生きてみせるとエコバッグ

またのミス繕うふたりアップリケ

広島市 森田博之

思い遣り夫は動作妻は口

マスク慣れ喜怒哀楽も目で足りる

待合室重い病気が場を仕切る

待ち疲れ治療の前に休ませて

目配せも少し手間要る老夫婦

尾道市 小川道子

全体を見据えヒントになりました

あの人も笑顔の裏のさびしんぼ

我が俤な風の行方に未練なし

焦るから見過すのです風の色

有頂天どこまで舞ってゆくのやら

竹原市 土井輝恵

忘れ物思い出すから惚けてない

主婦として豆の用意と恵方巻

マスクもう外してもいい言われても

貧富の差ぐんと広げてコロナ禍よ

気球撃破青い地球が震えてる

福山市 新庄芳春

ウイルス禍昭和の私語が姦しい

川柳で免疫力が付いたかも

コロナ禍で学んだことを生かせるか

マスク取り見える景色の変わるさま

コロナ禍で読破しました三国志

府中市 岸田武

どの家もばあさん一人雪を掻く

セールスが妻の方だけ見て喋る

三叉路できつと気付いてくれるはず

呆けぬよう夫婦喧嘩は真剣に

真つ白になったら原点に戻る

山口市 兼崎徳子

こつてりのゴディバで想い届けたい

子育てで苦楽を共にした財布

節電で暗くて長い冬の夜

落ち着きのない性格は祖父ゆずり

美意識と生活感を語る靴

松山市 郷田みや

甘酒の温さを抱いて梅まつり

暗記した遺言届く日の涙

切り株に座ってみたいある日ふと

言いたいこと言えずに青いボールペン

リハーサルもシナリオもなく今日がくる

今治市 安野かか志

妥協せぬもつとで唸る妻の鞭

青春のポップステップ泥の中

運だけの若い猪突がケセラセラ

もぐら叩きを無難にかわす出世風

失敗も功績もない定年日

高知市 三 谷 松太郎

沖繩県 禱

モモト

僕は今 未老年者のバリバリさ

あの顔の酸いも甘いも知った皺

マスク取る知らぬおじさんご免なさい

見てたかいすってんころり生きており

散り敷いたサザンカの花風が掃く

福岡県 本 田 さくら

沖繩県 宮

すみれ

元少女今は老後を忙しく

愛という葉で子等が生きかえる

ユーモアを食べてみーんな笑顔です

束ね髪あの人いつもはりきって

今日を閉じあすの扉をそつと見る

唐津市 前 田 廣 幸

白河市 鈴 木 たけし

バツイチでないバツイチの逝き別れ

秋刀魚高クジラのルートさ迷えり

誉めたらばまたも戴くお裾分け

転ばぬ先の足となりたやウォーキング

天候が平和を繋ぐごあいさつ

沖繩県 あ ら さくら

弘前市 小山内 真由美

五十年再会果たし時止まる

読みとる目そらしてならぬじつと見る

告白を酒の力で押していく

あらいやだ内緒したのにバレちゃった

内気だと言いながらよくしゃべる人

兎より亀と相性合うみたい

川柳に盛る言霊に心込め

行かなきゃね予定日雨のボランティア

老夫婦至福タイムのカラオケに

寅年のお守り感謝どんどこやき

北風に迷った枯れ葉渦を巻く

命日に夫伝授のおでん盛る

お隣の桜満開三時の茶

日向ほこ父似母似の足の爪

春寒にちよつとまでよとカイロ貼る

ねんねこの似合う日本の子守歌

言いくいことは伝聞形で言い

異次元の扉の閉まる手術室

歳月がアクセル踏んでいる八十路

宅配車今夜の味を載せて来る

お散歩猫帰ってきたらするトイレ

老猫の顔がだんだん母に似る

思い出とゆつくり語る終活に

普段着の津軽のことば要注意

まいねとはダメという意味津軽弁

石川県 堀 本のりひろ

最強のパートナーなの老いた妻
白旗を掲げ続けて八十路越す

君と僕細いこよりが命綱

行き方知れず帰って来てよ破れ脳

消去法残った私枯れススキ

豊橋市 小松 くみ子
最強寒波エアコン効かずコート着る

今日も鍋粕汁にする雪降る日

毒舌度で体調チェック義姉元氣

薬飲むたびアメひとつ口直し

バアバにも秘密はあるの指定席

八幡市 武田 悦寛

頬杖が妄想誘う日向ぼこ

スニーカー底すり減って寿命延び

色色と一緒に丸め洗濯機

歩いても歩いてても月丸いまま

立ち話うわさ持ち寄り泣き笑い

横浜市 加藤 佳子

立春の雪にたじろぐ句会の日

3センチ積もれば首都の大騒ぎ

卒業式マスク取ってもよいらしい

4年目の樂觀論に期待する

いいことがありそう私年女

神奈川県 小田 幸子

水道管血圧上がって噴き上がる
庭の木々親は夢見て子は刈って

ああおいしい介護の母の朝の声

九十七足上がりました進化です

母と犬いつか保護者は犬の方

東京都 尾畑 なを江
たまあには溺れていたいやさしさに

長生きはくよくよするな良く噛めよ

二センチの雪で都心は大さわぎ

物価高賃上げならば年金も

シンプルで片付け掃除楽となる

東京都 高岡 弥生

連絡がないのは元氣というけれど

平日の昼間の活動心地良さ

姿勢よくアンチエイジング保ちたい

休日も決まった時間眠くなる

終電でスマホ落として帰れずに

東京都 宮田 栄子

昼呑みの贅沢を知る空高く

リタイヤへ二カ月を切る通勤路

半世紀勤めて春に卒業か

半世紀出逢いと別れ繰り返す

友の輪はライングループ作ります

神戸市 石川 克美

松江市 山根 邦代

朝日浴び何かいいことありそうな
究極の暖房ですねサンルーム
さすが猫暖かい所知っている
神仏の不在を思う大地震

三田市 辻 開子

のら猫が寿命全う見とどけよ

ラジオから聞こえる言葉メモしたい

ラジオ派になつて行動少し増え

日日の友いつもラジオがそばにいて

西宮市 藤原 みよし

お隣のほっこり顔のおばあさん
縄跳びも角度かえれば競技です
覚えたてマナー通りに有り難う
明日は明日起きない事を悩まない

鳥取県 田中 重忠

節穴でのぞくと世の中よく見える
叩かれて必死に走る競走馬
面倒なことは聞かない老いの耳
捨てがたい栄えた頃の社長印

松江市 相見 柳歩

人間を置き去りにして進むのか
ウチに来て失恋の羽乾かそう
君からの手紙を入れる宝箱
走ったら月がにつこりしてくれた

三食を通してくれる喉仏
友からの電話笑いの心地良さ
肩の力抜いて今日も楽しい日
見習うは白寿の叔母の食の良さ

三次市 伊藤 寿子

閉店の後が気になるこれも業
自動ドアもエアコンも形見と残したが
歳忘れ新製品を考える
四代目少しあかりが見えて来た

大阪市 前川 善之

喜びも悲しみも皆家族愛
何事も夢さえあれば届くはず
いじめには負けずに逃げよ光見え
介護風呂老人笑顔でポツカボカ

河内長野市 三輪 くにお

身をもつて浅瀬を知らず巡視船
鷹は無理長元坊で良しとせよ
ワクチンも五度目となれば中毒症
汚さない妻が手洗い掃除する

摂津市 荻布 律子

ミス重ね笑うしか無いこの場合
嘘つきが泥棒ならばうちに居り
休肝日夫の意向で先送り
車窓より煌めく海に励まされ

(三谷白黒さん、坂本ミヨノさん、北野クニオさんは42頁にあります)

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

物言わぬ金魚がうれし 誕生日

金魚すくいの網のごとしか 敗北は

傷ついた父 その日から髭をおく

原爆忌 鳩ら火傷の脚運ぶ

広 島

ここにきて胎児のごとき祈りあり

残暑御見舞 鞭打ち症も三月目で

逢いに来た 魚族のように身をしまらせ

恋人の芥子の涙でもいいさ

ひと二人心に見えて秋の風

河相すゝむ氏二年祭

虫が鳴く 一直線に亡き人へ

曼珠沙華 恋わるるよりも恋うべしと

人の世や 嗚呼にはじまる広辞苑

一方になびけば恋慕薄とぞ

榛名湖

榛名富士 四季の手鏡秋は藍

望郷よ 地図の上では三郷

菊花展 天守へやさし菊の堀

菊の呼吸 処女懐胎もありぬべし

菊の壺 薔薇の壺より物思う

青年長髪 ピストル型はドライヤー

老猿の半跏思惟像すぐ崩れ

陸橋は天下の嶮よ 梯子酒

妻病む 十句

点滴の血のみ暖色 手術室

手術なお神の議りに似し医師ら

手術なお交響楽が鳴りつつけ

紅薔薇は壺に刺れど血の足らぬ

呼吸つめていのちを合わす久しぶり

病院の丑満刻を尿捨てに

お見舞の三品四品は小包で

縫針を折ってしまえり男親

クリスマス 祈れるものは祈りおり

愛染帖

新家 完司 選

(投句257名)

あの時なあと十年前のおれ

南あわじ市 萩原 狸月

(評) 十年もの間「おれを言わなければ…」と心に留めていてくれたのだ。人間に疲れた嫌になったときはこの句を思い出そう。

影にさえ惹かれてしまふ片想ひ

船橋市 中嶋 常葉

(評) 歳を重ねて経験を積むと何事に対しても感動が薄れがちだが、人を恋う想いはいつまでも瑞々しくありたいものである。

ど演歌の脳がポップス受け入れぬ

鳥取市 岸本 宏章

(評) 身体のだに沁み込んでゐる演歌のゆったりしたリズムと情緒。テンポの速いポップスなどには拒否反応を起こしてしまふ。

船頭小唄聴くと死にたくなつてくる

土佐清水市 辻内 次根

(評) 〴〵おれは河原の〴〵枯れすすき〴〵同じお前も枯れすすき。ネガティブの極みのような歌に沈み込んで自死などせぬように…。

一億の錦鯉買う人がいる

大山市 金子美千代

(評) これまでの最高値は海外の富豪が購入した二億三百万円とのこと。庶民がは想像を絶する価値観の違いに呆れてしまふ。

カラダ喜寿キモチ還暦ケガのもと

河内長野市 中島 一彌

(評) 体はまぎれもなく77歳だが、気持ちはまだまだ60歳。このギャップは何かにつけて「おつと危ない!」。くれぐれも〴〵注意を。

寝る前になると食べたい稲荷ずし

神戸市 富永 恭子

(評) 就寝時間は人それぞれだが、だいたいわご飯の2〜3時間後か。小腹が空いた頃ではあるが、稲荷ずしは如何なものか?

大丈夫月に一度は爪を切る

三田市 堀 正和

(評) 月に一度という間隔は長過ぎるような気もするが…。他人に頼らず自分で判断して自分で切っている間は大丈夫だろう。

こうなればデンキナマズを養殖だ

米子市 池田 美穂

(評) 衣食住すべて値上がりに直面している昨今。中でも電気代は家計を直撃しているが、デンキナマズの養殖は名案ではないか。

休肝日午後から雪が降りだした

尼崎市 山田 耕治

(評) 体のために週に一度設けている休肝

日だが、あいにく午後からは雪。「今夜は特別に熱燗で一杯!」と、胃袋が騒いでいる。

神戸市 奥澤洋次郎

オール電化の家に火鉢を置いている

米子市 伊塚美枝子

得意気にストーブ燃える停電時

明石市 穂谷 和郎

ストーブの際から埋まる集会所

黒石市 石澤はる子

光熱費節約できぬ凍え死ぬ

鳥取県 門村 幸子

凍てる朝 心を強くする寒さ

松山市 郷田 みや

こんなにも恐いとは凍った道路

高砂市 松尾柳右子

雪の道肌身はなせぬ保険証

豊橋市 小松くみ子

雪の日は離れず歩く暖かい

西宮市 福島 弘子

子も犬も五センチの雪大はしやぎ

鳥取市 大前 安子

立春へ雪掻く力コンコンと

津山市 高橋由紀女

神様に見えた雪掻きシヨベルカー

唐津市 坂本 蜂朗

震えつつ一番風呂は譲らない

枚方市 栃尾 奏子

春風が吹けばやります動きまます

62歳 好きな男に「スキ」と言う
豊中市 きとうこみつ

晩節を汚すがごとき恋の罟
熊本市 杉野 羅天

立体的ヒップ今では平面図
松山市 柳田かおる

理由なき反抗令和の七十歳
生駒市 饗庭 風鈴

92歳 今もうれしい誕生日
寝屋川市 富山ルイ子

春めいて枯れ木に華の咲く予感
香芝市 大内 朝子

お洒落する気力あるうち大丈夫
三田市 北野 哲男

血管に春の小川が活気づく
大阪府 小野 雅美

ときめきは減っても義理チョコはあげる
チェーンソーの音聞いている歯科治療
佐賀県 真島久美子

親戚がきて親戚の顔をする
倉吉市 牧野 芳光

どの川の河童も人間が嫌い
七十を過ぎて男女は中性に
渋柿を齧り頭脳に活を入れる
大阪府 宇都満知子

ひとりの日夕餉はたった十五分
コンビニへつつかけ履いて二分です

何年も口紅ざしたことがない
大阪府 高杉 千歩

慣れるつて怖いノーマークで闊歩
鳥取市 田賀八千代

元気でスカミソリの刃が心地よい
神戸市 上田 和宏

百歳は平にご容赦願います
大阪市 谷口 義

おはようと言える相手もういない
高槻市 富田 保子

「pay payで」まださりげなく言えません
岡山県 永見 心咲

キャッシュユレスついドーナツも買い過ぎる
黒石市 北山まみどり

アポなしが効果的ですよプレゼント
アイエとは言えずにいつも笑う癖
岡山市 丹下 凱夫

とりたてて書くこともない遺言書
老害と思われたつてしやしり出る
鳥取県 斉尾くにこ

ガンバレは自分に対し言う言葉
立春に如月なんていい響き
今治市 永井 松柏

画素数を上げてリアルな嘘にする
芳名録のボクの署名がいじまし
桜井市 安土 理恵

幸いなことに海老蟹アレルギー
免許取り上げついでに足もがれたよ

街角は飽きることない人模様
豊中市 松田蟻日路

夕暮れの町で弁当一つ買う
橿原市 居谷真理子

タバコ吸い過ぎ肺疾患という咎め
高槻市 片山かずお

朝はパン昼は麺類晩お米
羽曳野市 宇都宮ちづる

堂々と歳だと言える歳になり
松山市 栗田 忠士

夫には欲しいものなどないらしい
三田市 上田ひとみ

一郎二郎留子と雑な昔の名
池田市 倉本 一弥

侮つてはならぬ三歳の閃き
大阪府 内田志津子

あんなのに負けてたまるか惚けテスト
堺市 村上 玄也

張りつめた空気クシャミが吹つ飛ばす
奈良市 大久保真澄

鬼のパンツ今年はウサギ柄らしい
鬼のパンツ今年がウサギ柄らしい
川西市 大坪 一徳

やばいから電話出ると孫が言う
贈り主尋ねて食べる蜜柑の香
宮崎県 恵利 菊江

護摩壇の炎野性がよみがえる
岡山市 大石 洋子

奈良市 加門 萌子

河内長野市

木見谷孝代

大地震神も仏もない仕打ち

寝屋川市

伊達 郁夫

被災記事酒を飲む気が消えていく

米子市

妹能令位子

年金日なにはさておき義捐金

尼崎市

宗 和夫

戦争へ舵さる者の平和ボケ

羽曳野市

吉村久仁雄

終末へ九十秒と後がない

堺市

坂上 淳司

ウクライナに沢山出来た土饅頭

奈良県

安福 和夫

デヴィ夫人ロシアのシンパ諫めてよ

河内長野市

藤塚 克三

軍事化に戦時の昭和蘇る

鳥取県

山下 節子

今朝の熱コロナか風邪か思案する

大阪市

今村 和男

お賽銭投げる時にはマスク取る

三木市

山口ヨシエ

マスク取る話題ちらほら前を向く

尾道市

村上 和子

5類のままで温和しくしてコロナ

大阪市

石田 孝純

きつとそつとどつとワクチン捨てている

防府市

坂本 加代

締切日あちこち付箋貼つてある

大阪市

田中 廣子

出来ないが一句出来れば胸おどる

鳥取県

竹信 照彦

物価高せめて会費は値上げせぬ

富士見市

中島 通則

大相撲押しても六時には終わる

大阪市

古今堂蕉子

愚痴聞いて飲むコーヒーはグチの味

沖繩県

宮 すみれ

ポツチャリと手作り餅はオッパイ似

塩竈市

木田比呂朗

雑音を断つ補聴器が欲しくなる

大阪府

高木 道子

元気です今日も車で病院に

西宮市

緒方美津子

無事故です私ベーパードライバー

豊中市

水野 黒兎

歳をとることを忘れる好奇心

羽曳野市

徳山みつこ

何度も読み返す褒められた手紙

大阪市

江島谷勝弘

チン鳴って開けているのは冷蔵庫

沖繩県

あらさくら

幸せを亡夫分まで生きている

米子市

竹村紀の治

玄関のチャイムが急かす風呂上がり

棺桶はブリロの箱の模造品

安楽市

原 徳利

美術館首かしげつつ帰路につく

芦屋市

竹山千賀子

見ないふりしていると見えぬようになる

宝塚市

岸田 万彩

来年は世話になるかも紙オムツ

藤井寺市

鈴木いさお

鏡から尋問される洗面所

大阪市

滝井えみこ

老けたねえが口に出せない同い歳

京都市

藤井 文代

永遠に吸えるつもりでいる空気

広島市

岸本 清

一時間聞きつ放しで切る電話

鳥取市

福西 茶子

兄と交わす秘密の合図もう忘れ

横浜市

菊地 政勝

古時計螺子巻き過ぎて破損した

倉吉市

宮田 風露

旨すぎる顔とことばのコマーシャル

唐津市

前田 廣幸

空き缶つぶす 愛をいっぱい捨てた音

松山市

大内せつ子

自虐趣味軍歌唄って泣いている

奈良市

米田 恭昌

凄いいね肺活量の誉め言葉

沖繩県

禰 モモト

三田市 多田 雅尚
朝ドラを寝間で見てから立ち上がる

東大阪市 佐々木満作
朝ドラのネジ工場が懐かしい

鳥取市 奥田 由美
家出する夫を追尾の犬二匹

西宮市 高橋千賀子
目の玉が飛び出る猫の治療代

枚方市 藤田 武人
妥協点探り互いに手を繋ぐ

大阪府 米澤 俣子
進化する急流 老いを置き去りに

池田市 奥園 敏昭
良い方に誤解し続け開く運

岸和田市 雪本 珠子
ジャズ聴いて忘れた筈の人思う

大阪市 中島 幸徳
くれぐれも僕を撮るならハンサムに

弘前市 小山内真由美
お料理を書き写してはただ眺め

鳥取市 上山 一平
雪解けの陽溜りさがし芹を摘む

西宮市 北島 邦男
啓蟄に我が水虫も目を覚まし

東大阪市 青木ゆきみ
カウンスター八席だけのランチ戦

神戸市 敏森 廣光
腕よりも優しい医者に足が向く

大阪市 原 幸子
ふる里の風に和んで伸びる爪

河内長野市 村上 直樹
レンチンのレシビで磨く主夫の腕

鳥取市 狭武 紫陽
近未来月へ移住も夢がある

神戸市 横田 次郎
うれしくて涙腺弛む 老化かな

貝塚市 石田ひろ子
老いてなおそれなりにあるスケジュール

高槻市 島田千鶴子
久しぶり受診以外のスケジュール

大阪市 津守 柳伸
この上は白寿をめざすスクワット

豊中市 上出 修
和を尊び今も談合やつてます

大洲市 花岡 順子
大当たり カネ鳴らされて恥ずかしい

八幡市 武田 悦寛
夕暮れに肩寄せあつて蟻二匹

大阪市 平井美智子
酒粕にも大吟醸というランク

香南市 桑名 孝雄
骨太の家訓大いに飲み給え

郡山市 安藤 敏彦
一日をたたむ手順の酒を飲む

東大阪市 青木 隆一
二合酒バッテリー一貫事足りて

河内長野市 梶原 弘光
泣き処の脊柱管に注ぐお酒

箕面市 広島 巴子
てつちりのヒレ酒甘口合いまへん

奈良県 長谷川崇明
ウコン酒バトルしていると胃が笑う

笠岡市 藤井 智史
一句詠む度にビールの缶コロリ

鳥取市 岸本 孝子
チビチビとビールを飲んで笑われる

大阪市 高杉 力
もう一軒どうかと赤い灯が揺れる

三田市 村田 博
悪友と飲めば昭和に遡る

橋本市 石田 隆彦
ありがとという薬です熱燗酒

奈良市 山本 昌代
お湯割りと手料理ひとりきりの冬

和歌山市 北原 昭枝
お湯割りもビールも飲んで冬ごたつ

東京都 宮田 栄子
コンビニの焼きおにぎりで酒の締め

尼崎市 永田 紀恵
コロナ禍で影を潜めた「返杯」

高槻市 松岡 篤
コロナ禍でキープのボトルあきらめる

福井市 伊藤 良一
末長い付き合い願ひ休肝日

共選欄

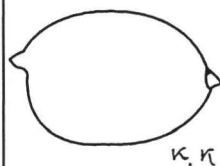
檸檬

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句319名)



「穴」

江島谷

勝弘選

戦争は誰か儲ける落し穴
ひまわりの畑に残る地雷跡
ミサイルから逃れる穴を掘ろうかな
家計簿に穴開けたのは物価高
政治家は穴があっても入らない
次々と穴を見付ける規制法
犯罪の穴に堕ちてく闇バイト
出会い系サイトの穴にある地雷
非正規を穴埋めとしか見ぬ企業
文春は小さな穴をでかくする
契約書害とつものの穴がある
出ておいでもう春だからだんご虫
うまいもの虫も知ってる穴だらけ
誤字脱字活字の穴も人の世だ
新人の帳簿あちこち穴だらけ

大阪市	川端 一步
大阪市	平井美智子
倉吉市	宮田 風露
高槻市	島田千鶴子
上尾市	中村 伸子
米子市	竹村紀の治
横浜市	川島 良子
広島市	松尾 信彦
三田市	多田 雅尚
大阪市	奥村 五月
尼崎市	山本 百合
生駒市	饗庭 風鈴
大阪市	山本加お里
札幌市	小澤 淳
大阪市	内田志津子

「穴」

永見心咲選

啓蟄に命の動く音がする
蟻地獄いきるためです御容赦を
瞑想にふける私の鼻の穴
ホールインワン辿り着きたい胸がある
もめん針くらの穴とウマが合う
真つ白じゃ生きれないと穴ウサギ
鼻ピアス牛には敵うはずがない
穴蔵で出番を待っている甘藷
身の丈の穴に寛ぐだんご虫
針の穴魂抜けた跡がある
守秘義務を守る女のボタン穴
ただ一つ穴の無いのが弱点だ
穴知らせホットケーキの返し時期
言わないで今でも穴に入りたい
穴場から蔵と独活の真つ盛り

箕面市	出口セツ子
男鹿市	伊藤のおよし
岡山市	丹下 凱夫
和歌山市	松原 寿子
松山市	大内せつ子
鳥取県	斉尾くにこ
弘前市	福士 慕情
大阪市	島田 明美
津山市	高橋由紀女
藤井寺市	太田扶美代
大阪市	横山 里子
鳥取市	谷口回春子
芦屋市	新草 義明
唐津市	坂本 蜂朗
生駒市	飛永ふりこ

十ポンド持つのも辛いボウリング
 粋がつて穴あきデニム穿く傘寿
 穴あけて画像見ながら手術中
 胃に穴があくほど悩むなんてアホ
 失恋の穴をふさいだ甘いもの
 昼時の穴場を探す友得意
 穴あな穴埋蔵金はどこなんだ
 わかさぎの穴釣り技は三拍子
 空気読み癖に逃げる僕と犬
 きよろきよろと穴から見回してるネズミ
 真っ白じゃ生きれないと穴ウサギ
 わたくしのかわりに叩かれる木魚
 大穴と思ひあなたに賭けてみた
 穴だらけ嘘のつけない人だから
 節穴だからあなたの嘘は見えません
 秘密基地小さな穴を掘ってある
 風化する記憶をたどるピアス穴
 勤勉な軍手の穴にありがとう
 宇宙かもしれないコインランドリー
 説教にそっと耳栓入れてみる
 穴を掘る埋めたい過去が多くあり
 落とし穴いくつも逃れ退職日

池田市	太田	省三
藤井寺市	鈴木いさお	
橿原市	居谷真理子	
河内長野市	森田	旅人
尼崎市	藤田	雪菜
鳥取市	上山	一平
松江市	石橋	芳山
海南市	山中	閑
尼崎市	山田	厚江
枚方市	藤村	亜成
鳥取県	斉尾くにこ	
弘前市	高瀬	霜石
加古川市	石賀	邦子
倉吉市	大羽	雄大
奈良市	大久保真澄	
三田市	上田ひとみ	
大阪市	高杉	力
池田市	奥園	敏昭
佐賀県	真島久美子	
沖縄県	あらさくら	
羽曳野市	吉村久仁雄	
神戸市	横田	次郎

出ておいでもう春だからだんご虫
 アサリの目ポツポツと潮干狩
 わたくしのかわりに叩かれる木魚
 見極めるわけにはいかぬ尻の穴
 ドーナツの穴の部分は消費税
 鬼の子が穴開けて見る雲の下
 契約書等とつものの穴がある
 ひざこぞうアンパンマンが笑ってる
 鑑定団で節穴が知れ渡る
 大らかな人だ靴下に大穴
 靴下の穴も来ている通夜の席
 不器用な指だと笑う針の穴
 年寄りをからかっている針の穴
 針穴に糸が素直に従わん
 穴場やと言ひ触らすからもう行けん
 奴の言う穴場は恐い近付くな
 穴埋めの人事はすでにされている
 雑念は穴に埋めてホーイホーイ
 入る者出る者穴は面白そう
 知らなくて良かった鍵穴の向こう
 鍵穴にお隣ですと叱られる
 メタボ腹見当りませんベルト穴

生駒市	饗庭	風鈴
大阪市	宇都満知子	
弘前市	高瀬	霜石
尼崎市	永田	紀恵
宝塚市	岸田	万彩
岐阜県	喜多村正儀	
尼崎市	山本	百合
三田市	上田ひとみ	
尾道市	村上	和子
松江市	中筋	弘充
寝屋川市	伊達	郁夫
尼崎市	藤田	雪菜
宇都市	平田	実男
大阪府	高木	道子
奈良県	安福	和夫
尾道市	小畑	宣之
岡山市	大石	洋子
鳥取県	門村	幸子
米子市	成田	雨奇
黒石市	北山まみどり	
大阪市	小野	雅美
堺市	今井万紗子	

リップサービス過ぎて墓穴を掘りました

香芝市 大内 朝子

図書館がいつも逃げ込む穴である

黒石市 石澤はる子

勇気ある一言風穴を開けた

松山市 栗田 忠士

友が逝くばかりあいた穴深く

羽曳野市 宇都宮ちづる

母が逝き古里の空穴があく

岡山県 藤澤 照代

ジーパンの穴が似合った神田川

河内長野市 坂野 澄子

靴下の穴縫ったのは昭和まで

米子市 妹能令位子

穴あいたソックスどれも右の足

寝屋川市 伊達 郁夫

雑念は穴に埋めてホーイホーイ

可見市 板山まみ子

落っこちた穴の居心地悪くない

鳥取県 門村 幸子

生涯をかけ等身大の穴を掘る

郡山市 安藤 敏彦

絶対に穴をあけられないシフト

今治市 永井 松柏

ドーナツの穴の部分は消費税

尼崎市 八木 幸彦

レンコンのどこを切ってもレンコンだ

宝塚市 岸田 万彩

鍵穴が2つに見える二日酔い

和歌山市 柏原 夕胡

タイムトンネル抜けてあなたと酒を酌む

八幡市 武田 悦寛

負け犬が青色吐息する穴場

明石市 穂谷 和郎

年寄りをからかっている針の穴

寝屋川市 川本 信子

指先の魔法で糸を通す母

宇部市 平田 実男

鍵穴にお隣ですと叱られる

枚方市 藤田 武人

鍵穴はずうっと亡君を待っている

大阪市 小野 雅美

津村志華子

ダイエットベルトの穴に誉められる

三田市 村田 博

天井の穴が二人の愚痴を聞く

丹波篠山市 澤 良子

あなたのあけた穴埋まらないままに

八尾市 村上ミツ子

ワカサギ釣りスマホが穴にダイビング

大阪市 田原 康雄

ライバルに勝ってポツカリ空いた穴

河内長野市 中島 一彌

石投げて波紋どころか穴を開け

神戸市 米田利恵子

鼻の穴びくびくしてる嘘だろう

倉吉市 大羽 雄大

鍵穴を覗いておばちゃんは見たぞ

鳥取市 前田 楓花

苦も楽も流れ知ってるマンホール

和歌山市 定松 宏枝

接待で始めハマったゴルフ好き

池田市 奥園 敏昭

お役所仕事なぜか穴掘る年度末

枚方市 藤田 武人

美しい日本語話す鼻ピアス

豊中市 齋藤奈津子

落ちた穴で一人暮らすも良いもんだ

橿原市 居谷真理子

居心地のよかった穴に戻れない

西予市 西川 千鶴

とりあえず穴埋め満面に笑顔

和歌山市 高杉 力

毛穴まで磨いて娘明日嫁ぐ

大阪府 桜井市 安土 理恵

千ポンド持つのも辛いボウリング

大阪市 池田市 太田 省三

ひまわりの畑に残る地雷跡

大阪市 平井美智子

同穴を忘れていない十七忌

米子市 後藤美恵子

大穴は赤鉛筆が知っている

大阪市 森 廣子

虎落笛障子の穴にふと気づく

障子の穴いつも覗かれてる感じ

見るたびに障子の穴を増やす孫

目の前の穴が見えない絶頂期

スレスレに穴に落ちずに生きてきた

ひとことがプスリと肺にあげた穴

凹みでも穴だと主張してる臍

大穴も落し穴にも縁がない

穴あれば入りたけれど車椅子

耳掃除させてと追ってくるバアバ

メタボ腹見当りませんベルト穴

蟻地獄いきるためです御容赦を

大穴と知らず走った競走馬

穴埋めに引っ張り出され運搬む

入口と見えるが出口とも見える

日記帳この頃何故か穴だらけ

大きいのは熊小さいのはうさぎ

知らなくてよかった鍵穴の向こう

秀句

あわてない騒げば穴が深くなる

もめん針くらの穴とウマが合う

雨の日は障子に穴をあけていた

大阪市 津守 柳伸

尼崎市 羽奈 和子

豊橋市 西郷紀美代

豊中市 上出 修

神戸市 興水 弘

枚方市 枋尾 奏子

大阪市 今村 和男

池田市 倉本 一弥

大阪市 高杉 千歩

神戸市 能勢 利子

堺市 今井万紗子

男鹿市 伊藤のぶよし

豊中市 水野 黒兔

大阪市 平賀 国和

大阪市 井丸 昌紀

塩竈市 木田比呂朗

奈良市 加門 萌子

黒石市 北山まみどり

堺市 内藤 憲彦

松山市 大内せつ子

大阪市 大沢のり子

文春は小さな穴をでかくする

指丸め小さい穴から見る未来

風穴を塞いでくれた子の寝顔

蘇る 虫食い算を解くように

図書館がいつも逃げ込む穴である

飲兵衛の穴場ほっこりパラダイス

振り出しに戻る 妊娠落とし穴

生涯をかけ等身大の穴を掘る

叱られた鬼が穴から出てこない

入口と見えるが出口とも見える

独りの穴ひとりの幸を煮詰めます

落ちた穴見上げた空が潔い

息をするたびオゾンホールが増えていく

宇宙かもしれないコインランドリー

サブちゃんの鼻に貼り付く紙吹雪

疑問符が刺さったままで穴にいる

鍾乳洞地球の胎内を歩く

耳の穴塞いでオリオン座に恋

秀句

マカロニの穴にムッソリーニ潜む

三角の定規の穴に棲む孤独

もういない空洞になる風の音

大阪市 奥村 五月

越谷市 久保田千代

高槻市 松岡 篤

船橋市 中嶋 常葉

黒石市 石澤はる子

香芝市 大内 朝子

笠岡市 藤井 智史

今治市 永井 松柏

西予市 黒田 茂代

大阪市 井丸 昌紀

奈良市 山本 昌代

美作市 岡本 余光

倉吉市 牧野 芳光

佐賀県 真島久美子

大阪府 大浦 福子

松山市 柳田かおる

大阪市 石田 孝純

松江市 藤井 寿代

松江市 石橋 芳山

岡山県 藤澤 照代

貝塚市 吉道あかね

「一番」

(投句 226名)

高瀬 霜 石 選



豊田市トヨタ町一番地ですトヨタ
開口一番高くなったね電気料
シニア体操一番若いのは私
親族で最年長になりにつけり
一番の決め手正直顔でした
一番の友は我が家の便座です
渋滞の一番先が気にかかる
まっ先に足跡残す雪の朝
昔からここ一番にくしゃみ出る
一番星の下でちっちゃな咳をする
一番いい顔をつくって友に逢う
どんぐりが競い合ってる視聴率
風呂洗が一番褒めてもらえます
悪友が一番涙もろかった
一番はどっち周平・周五郎
一番に信じてやろう自分の子
今一番話相手が欲しいです
出掛けてみるか一番好きな服を着て
安心の一番やはり日本産
気付かない母が寝たのも起きたのも

神戸市	上田	和宏
黒石市	石澤はる子	
大阪市	内田志津子	
川西市	大坪	一徳
尼崎市	近兼	敦子
倉吉市	牧野	芳光
鳥取市	岸本	宏章
海田市	山中	閑
米子市	妹能令位子	
松山市	大内せつ子	
吹田市	太田	昭
大阪市	今村	和男
東大阪市	青木	隆一
奈良市	米田	恭昌
鳥取県	門村	幸子
大山市	関本かつ子	
三田市	大西	重男
堺市	今井万沙子	
横浜市	加藤	佳子
富田林市	中村	恵

レット・イット・ビーこれが一番好きな曲
父の背で一番星を見つけた日
のんびりが僕に一番良い薬
一番が嫌になった棒グラフ

一番に罪なき物ヒト科ヒト
ナツメロの一番だけは覚えてる
真実は一番深いところにある

イントロでもう仕掛けてる天邪鬼
早く帰ろう一番星が笑ってる
戦いへまはずは口紅塗ってから

いちばんの強敵鮎を持ってる
タワマンの最上階の淋しさよ

佳 句

初デート封切館は高かった

鰓呼吸マスターしたら飛び込もう

兄ちゃんが一番後でいいと言う

一番ホーム一羽の鳩がお見送り

一番にならなくていい蟻の列

人

一番の変装になるノーメイク

地

一番が子から夫へ戻ります

天

始発で帰ります生きててください

軸

本日もプラスマイナスゼロで寝る

弘前市	稲見	則彦
東京都	宮田	栄子
堺市	内藤	憲彦
大阪市	高杉	力
大阪市	平賀	国和
堺市	村上	玄也
西予市	黒田	茂代
船橋市	中嶋	常葉
大阪市	宇都満知子	
大阪市	小野	雅美
岡山市	丹下	凱夫
大阪市	大沢のり子	
池田市	太田	省三
佐賀県	真島久美子	
宝塚市	丸山	孔一
大阪市	田原	康雄
藤井寺市	鈴木いさお	
和歌山市	上田	紀子
東大阪市	青木ゆきみ	
大阪市	島田	明美

「輪」

金子 美千代 選
(投句 225名)



輪になって時々絆確かめる
輪の中に入り片肌脱いでいる
輪番で伝統行事こなす村
七輪が恋しがってたサンマ焼く
輪の中に誘われ孤独から脱皮
しがらみを捨てたら丸い輪が描けた
弱い者同士でつくる絆の輪
輪の中に鉛ちゃん配る人がいる
輪ゴムほどの咄嗟の役にまだ立てる
何度でも愛妻探し出す輪廻
輪に入る社長も同じ作業服
縮締め直しも一度気合入れてみる
輪になって向日葵たちといっ踊る
エピソード伸びた輪ゴムの昨日今日
NATOの輪に是非入りたいウクライナ
一輪の水仙愛でる平和な日
平穏がもの足らなくて輪を抜ける
四輪が一つ欠けても動けない
手を繋ぐだけでまあるい輪が出来る
酒タバコあれば首輪も悪くない

黒石市 石澤はる子
富山市 伴 よしお
三田市 北野 哲男
豊中市 水野 黒兎
香芝市 大内 朝子
三田市 九村 義徳
藤井寺市 鈴木いさお
三田市 堀 正和
羽曳野市 徳山みつこ
笠岡市 藤井 智史
犬山市 関本かつ子
鳥取市 池澤 大鯨
奈良県 安福 和夫
塩竈市 木田比呂朗
堺市 坂上 淳司
寝屋川市 川本 信子
羽曳野市 吉村久仁雄
弘前市 福士 慕情
松山市 栗田 忠士
郡山市 安藤 敏彦

輪に入る勇氣持たないはぐれ鳥
輪の中に入りたのでうろつくの
人の輪を築けば見えて来る明日
限界の輪からダイブの新天地
添いながら棺田にもなる仲間の輪
メビウスの輪がからまった脳回路
いくつもの火の輪潜って来て米寿
なんとなく丸に見えたらいいでしょう
寂しくて温い輪からは抜け出せず
知恵の輪も夫の謎も解けぬまま
両輪の一つが欠けて走れない
かごめの輪抜けて私に戻る午後
佳 句
輪の中でひとり淋しい時がある
眠りから覚めた埴輪がしゃべり出す
輪になれば金太郎あめですかしこ
金色が加わり六輪になった
許されよばくで途切れちまう螺旋
人
智恵の輪が絡み平和が遠くなり
地
車座に入りこの地の人となる
天
目立たずに浮輪を投げてくれた友
軸
善人の輪を抜け肩のストレッチ

河内長野市 大島ともこ
大阪市 笠嶋 恵美
岡山市 永見 心咲
加西市 山端なつみ
大阪市 小野 雅美
大阪市 岡田 恵子
鳥取市 岸本 宏章
三田市 上田ひとみ
吹田市 太田 昭
奈良市 大久保眞澄
西予市 黒田 茂代
大阪市 平井美智子
堺市 今井万紗子
岡山県 藤澤 照代
黒石市 北山まみどり
橿原市 居谷真理子
弘前市 高瀬 霜石
奈良県 中原比呂志
越谷市 久保田千代
高槻市 松岡 篤

初歩教室

題 — 近い

平井 美智子

リズムについて

前回は書かせていただいたリズム。

リズムや定型を重んじる人もあればテーマや内容を重視する人もありますが、リズムによって其々の好みや息遣い、更に言えば川柳感にさえも反映されてきます。正解はないかもしれませんが初めの内はリズムに心を配る事も大切だと思います。まずは中八の句を二句

原 近道を選んだばかりに工事中 風 露

参 近道を選んでみれば工事中

原 近くてもマスクで表情わからない 弥 生

参 近くても表情読めぬマスク顔

原 近いうち会いましょうネと早や十年

静 恵

三年、五年、十年、思いは色々でしょうがリズムの落ち着きと感慨を思えば

参 近いうち会いましょうネと早や五年

原 二人の距離を近付ける冬が好き 誓 子

全部で十七音なのですが何となくきこ

無い感じがします。

参 あなたとの距離が近付く冬が好き

原 何事も近場優先順位で

マユミ

下四音で中途半端な感じがします。

参 優先の順位はとりあえず「近場」

原 近くにいっても心は遠かった友一人 龍

中九音が説明的になりましたね。

参 傍にいて心は遠い友一人

原 耳元で君はステキと言ってほしいレイ子

(言ってほしい)の座りが悪い気がしま

す。思い切って風に言わせてみました。

参 耳元で君はステキと言った風

原 同病にふるさと訛り親近感 行 久

んで止まる下六音は重い感じがします。

参 同病をねぎらいあつて国訛り

題に忠実に詠みましょう

原 何するも近くて遠い夫婦仲 名都子

原 近くて遠い地図五センチの君の町 えみこ

原 地図上で近くて遠い国となる さくら

夫婦仲の距離、地図と現実のギャップ、

上手くまとめています。が近いという題に遠いという結論が入っていますので題詠としては損をするかもしれません。

原 近隣の愛の手もらい生かされる 開 子

愛の手でも十分なのです

参 近隣の情けもらって生かされる

原 近隣にえびで鯛釣るお裾分け 照 枝

(近隣)という言葉が二句続きましたが

(ご近所)の方が優しい印象がします。

参 ご近所にえびで鯛釣るお裾分け

原 近場にも観光地なる歴史有り 良 子

参 近場にも歴史を語る観光地

原 近道かいちかばちかで行き止まり

のぞみ

一か八かの気持ちはよくわかりますが

参 近道を選んでみたが行き止まり

原 近寄ると何時も絡まる変わり糸 次 郎

変わり糸のイメージが湧きにくいので無

難なのは(赤い糸)(糸電話)などでは。

参 近寄るといつも絡まる赤い糸

原 冬眠の目ざめもま近雪がとけ 風 鈴

下五の(雪がとけ)では少し当たり前の

感。路の臺など色々入れてみてください。

参 冬眠の目覚め間近に福寿草

原 ビデオ通話となりの人が振り返る えい子
(振り返る) の語は後を見るといふ印象
が強いので

参 ビデオ通話となりの人が覗き見る

原 子供達ち声近くに心安心だ ミヨノ

送り仮名に気を付けてくださいね。

参 子供達近くに住んで安心だ

参 呼べばすぐ駆け付けてくる子供達

原 コロナ禍の近所付き合い何語る 貴美江

参 コロナ禍の少し湿ったお付き合い

原 ご近所の悪いうわさは全国区 尚

参 ご近所のうわさ町内ひとまわり

原 行き帰り近道選ぶ老いの知恵 不二夫

参 行き帰り近道選ぶ老いの足

原 手を添えて心近づけ義母看取る 幸子

手を添えて心近づけかどちらかにしま
しょう。いい過ぎに注意!

参 手を添えて義母を看取った二月尽

原 今は母願だけの日向ぼこ 歌子

とても感動的な句なのですが、少しだけ
上五を変えてみました。

参 母はいま願くだけの日向ぼこ

これでも充分佳句なのですが他の表現も
試みてみました。ご参考に!

原 飛ぶ車近い将来乗れそうなの 閑

大阪万博では私たちが乗れるかもですね。

参 近未来車が空を飛ぶらしい

原 婚約が整い孫の門出待つ 百合

婚約・門出と硬い言葉が並びます。

参 婚約を済ませた孫の春近し

原 聞えない振りして頬を近付ける 博之

素敵な句ですね。勿論、間違いいはない
のですから、送り仮名の選び方も好みか
もしれませんが・・。

参 聞こえないふりして頬を近付ける

添削不要の佳句

○は佳句 ◎は優秀句

○近くても心の傷はわからない 一平

痛みは本人しかわかりませんものね。

○そばに来て初めてわかる厚化粧 栄次

良く分かりますが女性を敵に回すかも

(笑)

○カーナビのガイド終わった五ッ辻 くに

「近くです」といわれても五辻ではね。

○側においても曖昧模糊の愛娘 のりひろ

年頃の娘に気をもむ父親像がよく出てい
ます。

○吟ずれば杜甫や李白が近くなり 邦男

声に出すことにより、自分の口調や音が
自身の耳に入るので余計近くなります
ね。

○近過ぎて解り切れない夫婦仲 ひとみ

同想句がいくつかありました。皆さん、

同じ思いみたいですよ(笑)

○近況を報告し合う接種場 律子

普段、家籠もりの人も集まって来る接種
場という場所設定がいいですね。

○近すぎて妻との距離が保てない 和夫

近くて遠いという句が多い中、微笑まし
いですね。和夫さんの浮足立つ様子が垣
間見えてきます(失礼!)

◎ほどほどに近いのが良い妻の里 双葉

(ほどほど) が色々な事を語っています。

川柳らしい佳句だと思います。

偶々、川柳塔本社2月句会の題が(近い)
でした。発表誌を見て、どんな発想をし
ているかなど参考にしてみてください。

同人特集

私の好きな笑いの句

(到着順)

命までかけた女でこれかいな

吹田市 太田 昭

如何にも大阪人らしいふて腐れた面白い句である。
大阪人のアホさ加減がよく表れている。

火の車燃料無しでよく走る

防府市 坂本 加代

貧乏に火の車というが、ひと昔風な言葉でもある。
お金が無い、燃料が無い、それなのに火の車はよく走
る。なんて思わず笑って何回読んでも笑いが出る。

嫁と手を組んでポツクリ寺参り

和歌山市 柏原 夕胡

ご長男夫婦と同居されている作者の実感句だろうと
思う。私は、嫁ではなく娘だが、それでも年老いてく
ると気を遣う。老いることの哀しさをユーモアで。

鉄人に勝とう大きなパー出して

東京都 川本 真理子

鉄人28号のグーパンチに、思いつき開いたパーを
突き出している自分の姿を想像すると、くさくさして
いた気分も一気に晴れていくような気がします。

ゆつくりとしとくなはれと放つとかれ

大阪市 寺本 実

独りなら今ごろ路上生活者

弘前市 高瀬 霜石

建前の言葉と本音の差をよく表しています。「ある
ある」と思わせる句だと思います。

ちよっとおかしくて、ちよっと泣ける。ぼくの理想
の句。感謝してるとか、愛してるよなんて、今さら
照れくさくって言えるか。究極のラヴソングだ。

唐津市 坂本 蜂朗

若いなあと言われて役をさせられる 藤井 宏造

「若いなあ」正に殺し文句ですね。断りたいのに、結局引き受けてしまいました。満更でもない気持と、参った気持が見えてきて、くすりとさせられました。

明石市 梶谷 和郎

子は寝たかまだと子が言う機越し 木下 愛日

よくある家庭風景のほほえましい一コマである。次の日に遠足や運動会などいいことがありそうだと、子はなかなか寝られないものである。

羽曳野市 三好 専平

お釣りだけもらって商品置いてくる 斎藤 隆浩

自分でも、エレベーターののつてから気がつき笑ってしまふ。ぎゅっとお釣りだけにぎりしめて。早よ取りに帰ろ。これが認知症一の巻。

鳥取市 奥田 由美

二人なら地獄もきつとおもしろい 木本 朱夏

大昔の川柳塔で見つけた句です。当時の心にグサツと染みて大好きになりました。その後も心から離れず、余裕や笑いを頂く、私の元気の基です。

三原市 笹重 耕三

うまく書けたと始末書を誉められる 大木 俊秀

上司にも非があつたのか、始末書の内容を改ざんさせられた事案があつた。なんだコイツと思つたが、そこは抑えて要求に応じていた昔の自分が蘇る。

笠岡市 藤井 智史

ゴキブリは貧乏神の召し使い 新家 完司

ゴキブリは、貧乏神の召し使いだつたのか。どうりでスリッパで叩きたくなつたと思つた。尚更叩きたくなつた一句である

熊本市 杉野 羅天

青空に藝者を連れた莫迦らしさ 麻生 路郎

かつてわが家の向いは置屋さんで、芸者さんの日常を知る一人でもある。お金では買えない「粋」を明治男路郎の追求する姿にふつと笑みが湧くのである。

箕面市 出口 セツ子

正直に書くと凶器になる手紙 柏原 夕胡

ブラックユーモアだと思う。世の中を円満に過ごすため人は本心を隠して、オブラートに包んだ言葉で書く手紙。

寝屋川市 川 本 信 子

ばけたと言って自慢話はちゃんとする 山本 玲子

高齢者になると、人の名が出なかつたりで記憶力が低下する。「ボケましてん」と自嘲しつつ、自慢話で優越感に浸る、老人の一面を見事に捉えた川柳である。

藤井寺市 鈴 木 いさお

けなげにも家主の犬を噛んで来た 須崎 豆秋

家主の犬はたぶん血統書付きの名犬であろう。もちろん自分の愛犬は雑種。日頃上から目線の家主の犬を噛んで来た愛犬をけなげだと言う、何とも可笑しい。

唐津市 仁 部 四 郎

待合室なりのお腹グーとなる 前田 洋子

1月号の「川柳塔」には、苦笑いを誘う句が多いが、日頃の生活ぶりから身につまされる句を二つ、二句めは、「焼酎にカニ缶が付く誕生日 山崎武彦」

寝屋川市 廣 田 和 織

惜しまれて逝くには時期を逃したな 富田 房成

逝き方を考える歳になった。ピンコロリが理想だと言いながらしぶとく闘病し生きのびようとしそう。早目に逝って良い人だったとも言われない。

岡山市 大 石 洋 子

たましいが這い出しそうで爪を剪る 樋口由紀子

倍速視聴が流行り、お笑いの世界でも秒単位で笑いをとめる。そんななかこの句は、一読では笑えないが、じっくりじわじわと含み笑いを誘うのである。

枚方市 栃 尾 奏 子

きたないねシュークリームのはんぶんこ 新家 完司

2013年12月の新家完司ブログの句。今では子ども達に川柳を教える時に心をつかむために必ず読んで聞かせる一句。説明はいらない。ハートだ。

枚方市 藤 田 武 人

蟬丸は坊主めくりの問題児 丸山 芳夫

笑いの句を意識してなかったが、年賀状にこの句が書いてあり、蟬丸の姿が頭に浮かび、思わず笑っちゃいました。

名古屋市 山 本 三樹夫

スルメ噛む差し歯の具合試しつつ 山本加お里

差し歯に気を遣いながら大好きなスルメを噛む、私も入れ歯ながらスルメの味が大好きです。大笑いなく「クス」と笑える句です。

岩国市 上村 夢香

大好きな人が三人以上いる

居合真理子

私自身気が多過ぎて困っています。昨年のお河ドラマに魅せられて某俳優の追っかけ（録画ですが）をしています。二人目、三人目は秘密ですが・・・

松原市 森 松 まつお

一合も飲めば妻など怖くない

鈴木いさお

この句一読して、笑いました。思い当たる事のまあ多いこと…。お酒は気を大きくするものですから、たまには失敗もあるわけです。

箕面市 酒 井 紀 華

子の都合一切きかず命名す

夏目 漱石

『川柳人が楽しむエモい漱石俳句』から見つけました。いわさき楊子著。今の世も似ている気がします。

奈良市 大久保 眞 澄

どうやって娘口説いたこの野郎

鈴木いさお

父親は娘が可愛い。乳呑み児の時から嫁にはやらんと言走る。ついに現れた娘泥棒にはば悪態のような句。笑うしかありません。そして切なくもあるのです。

高槻市 富田 保子

マスクなしのお顔を思い出せません

片山かずお

コロナ感染症のため、全員マスクしてお参りに来て下さいました。主人の葬儀の日、挨拶して下さいました。が、お顔が思い出せずに失礼しました。

豊中市 水 野 黒 兎

柳の芽姉三六角蛸錦

橘 高 薫 風

京都の通りの名前の頭文字の口調の良い羅列に物語性とユーモアを感じた薫風先生は上五として「柳の芽」を置いて一句とされた。その洒脱さに敬服の句。

羽曳野市 磯 本 洋 一

行列の時間返してほしい店

吉村久仁雄

寒空に友に誘われ並ぶ店

温かい缶コーヒーを三本飲んで帰宅して妻のレシピに礼を言い、その後は茶の間に笑顔が絶えません。ありがとう!!

鳥取市 岸 本 宏 章

右側の眉を描いたら客が来た

前田 楓花

思わず吹き出しました。このあとのように対応したか想像してみるだけでも楽しい。

院長があかん言つてる独逸語で
越谷市 久保田 千代 須崎 豆秋

川柳を勉強し始めた頃にユーモア句として私の心に
ぐっと入り込んだ句。以来、豆秋の句を読み漁ったも
のである。とほけた滑稽さが映像をも写し出す。

借り物の男を連れてディナーショー
大阪市 東 敏 郎 平井美智子

かつて高度成長の時代があり、宵越しの金を持たな
い男達が、飲み食べ歌う等で夜を徹したものです。こ
の句は、若かりし頃を彷彿とさせて苦笑する。

メロドラマ台なしにする袋菓子
奈良市 加藤 江里子 中村 恵

台なしにはするけれど、リビングの一番お気に入り
の場所です。ドラマに没入するとき。袋菓子も欠かせませ
ん。虚の世界と現実の世界。光景が浮かびます。

夫婦仲鈍感力があるをいう
神戸市 輿水 弘 偽装妻

結婚して長い。互いに目につくことが多く、あんな
は、お前は！なんていいながら、はぐらかし暮らす。こ
れは鈍感が衝突しない夫婦の知恵、コツのようです。

妻病んで裸で搜す風呂上がり
犬山市 関本 かつ子 森下 一知

古本屋で見つけた『ユーモア宣言』に載ってまし
た。思わず吹き出してしまいました。私たちの世代の
夫はこういう人が多いですね。

年金の元をとるまで生きてやる
枚方市 丹後屋 肇 伊達 郁夫

一読して吹き出しました。長年稼いだ給与から天引
きされた汗の量をたやすく他界で喪つてなるものか。
とことん取り戻す執念がよいリズムで強調され共感。

酒かけたらカニが真つ直ぐ歩き出す
神戸市 山崎 武彦 足立 茂

「阿保らし過ぎて抜かざるを得ない」と当時の奥田
みつ子氏（西宮北口会長）を嘆かせた一句。三才の次
に推されました。笑いの輪が会場に響きました。

孫が聞く赤ちゃん産んだ事あるか
奈良市 高橋 敬子 富田千恵子

自分の幼い頃を思い出します。生まれた時からおば
あちゃんはおばあちゃんとして傍に居たのです。子
の思いがユーモアにつながったのだと思います。

高槻市 松岡 篤

村長の音痴の歌で盛り上がる

三宅 保州

奈良県 中堀 優

ライカだねシャッター音がドイツ語だ

居谷真理子

村長さん、額に汗かいて一生懸命歌っておられる。
たいへんな盛り上がりだ。こんな村長だから、次の選挙も投票したくなる。

どんな音がするんでしょう？ 日本のカメラとどれだけ違うのでしょうか？ 一度聞き比べてみたくなりました。楽しい句、ありがとうございます。

大阪市 古今堂 蕉子

院長があかん言ってる独逸語で

須崎 豆秋

大阪府 米澤 淑子

口髭を生やして猫の子は生まれ

須崎 豆秋

麻生路郎先生が川柳雑誌に豆秋ありと言われたユーモア川柳の第一人者。味のある奥行きのあるユーモアの句に憧れながら時々繙いている。

豆秋さんの句は好きです。大切な一点が突かれています。いまでも当り前ではあるが、何とも軽みのある句であると思っています。

大山市 金子 美千代

お爺さんと呼んでくれるなお婆さん

鈴木いさお

松江市 石橋 芳山

別嬪になれとのりたまかけまくる

久保田 紺

お爺さんと呼んでくれるなと言っておきながら自分もお婆さんと呼ぶ。思わず笑ってしまった。このほのぼのとしたユーモアがたまらない。

まずはこの馬鹿さ加減に、呆れながらも笑わせてもらった。この規格外の発想には、驚きも含まれている。食事風景を想像しても大いに笑える。

三田市 北野 哲男

益の字は大社造りになっている

新家 完司

生駒市 飛 永 ふりこ

天国はええところらしい知らんけど

鈴木いさお

仲間と出雲へ旅行に行つて出雲大社へ詣りふと見上げると何の前触れもなくこの句が浮かんだのは何故だろう。仲間に話したら一同合点。川柳は楽しい。

なんと穿ちがあり、底に豆秋さんに似た川柳のウツフとアハハが入り交じる独特の言い回しにあるエスプリの凄み。私も最期の一句はこうありたい。

黒石市 石澤 はる子
長くなく短くもない読経 高瀬 霜石

これは未経験。こぶしが効いて演歌調の読経に聴きほれる時もあるが、大抵は長過ぎて苦痛。お寺さんにも事情があるにしても、この一句広まってほしい。

大阪市 岩崎 公誠
コンビニで弁当買って独り酒 新家 完司

今、生きる人の様々な場面をやさしい目で一句に仕上げ人の心も癒してくれる。ねこゴキブリ酒など題材は身近でいつも人間的であり、そこが凄い。ブラボー。

河内長野市 藤塚 克三
幸せだ武器に今日までノータッチ 松岡 篤

入院中、嫁が送ってきた朝日の句。少し元気になって見た句がこれでした。大人の子守歌。穏やかになり、川柳仲間の篤さん、元気をもらいました。ありがとう。

大阪市 川端 一步
失業も知らずに膝の子が笑う 中村 孤舟

塩満敏さんが「川柳がうまいのは孤舟さんかな」を思い出し、『川柳塔改題200号記念誌上句集』から拾った。繰り返し読むと泣きたくなってきた。

弘前市 福士 慕情
酒飲めば妻もポリスも怖くない 相馬 一花

一花さんの句は、何かほのぼのとしてクスリと笑わせる。この句は紅葉で有名な中野山に「川柳の杜 黒石川柳社」があり、その一画にある句碑である。

鳥取市 前田 楓花
どっちが利き足か分からなくなった 谷口 義

手の場合、利き手はずっと利き手ですが、弱ってきただ足の場合都合の良い方が、使いやすくなってきました。本人には問題でも他人は困らない。

鳥取県 竹信 照彦
集音器みんな拾ってくたびれる 大羽 雄大

難聴気味な私は、集音器をつけると良く聞こえて便利だと思っていたが、この句を読んで「みんな拾ってくたびれる」事に気付かされ、一思案です。

鳥取県 新家 完司
信号がどんな色でも渡ります 久保田 紺

既成の法律や道徳などに縛られず自由に生きる。もちろん轢かれても自己責任は承知の上。このように生きたいと思うが、常識が邪魔をして動けない。

桜井市 安 土 理 恵

大工さんの造った家に住んでいる 谷口 義

「あたりまえ」の事を何の仕掛けも技巧もなくス
ラッと詠まれているのに、読めば読むほど何か可笑
しい。義さんは、川柳のマジシャンだと思ふ。

羽曳野市 吉 村 久仁雄

なんぼでもあるぞと薄の水は落ち 前田 伍健

俳句との違いを語るときの川柳の代表句。川柳三要
素をそなえ、特に滝の水がぬつと顔を出したようなお
かしみの表現が秀逸。

米子市 中 原 章 子

仏飯を上げぬと夫餓死をする 宮崎シマ子

平成二十六年四月号の愛染帖で、この句を読み思わ
ずくすつと笑った。こんな句が詠めるようになりたい
い。今では勝手に心の友として、意識し学んでいる。

横浜市 菊 地 政 勝

逃げ腰で怖い話を聞いたがり 西村清多朗

テレビのアニメは怖くないが、年寄りの怖い話には
大変興味があり聞き耳を立てる。中腰のままで聞い
ている腕白な子供の状況が浮かんで見える。

堺市 澤 井 敏 治

耳元で囁く吉兆の女将 鈴木いさお

誰もが想像するのは艶っぽい一言であろうが、私に
聞こえたのは「だいたい溜まってますねん、近い内によ
ろしゅうに」である。酔いが覚めたことだろう。

尼崎市 山 田 耕 治

自転車に春の空気を入れてやる 新家 完司

「新家完司川柳集 平成十年」より。
ギツコンギツコン手押しポンプ。

可見市 板 山 まみ子

若葉山紅葉の頃に立ちあがり 不 詳

終戦前後に活躍した力士、若葉山は立ち合いが長い
ので有名でした。立ち合いに制限時間が無かった当
時、若葉山が立ち上がると紅葉になっていたとか。

東大阪市 佐々木 満 作

食べてるかよく寝ているか歩いてや 古今堂蕉子

後期高齢になって衰えは日増しに目立つて行くばかり。
ボランティアで知り合った人の縁で川柳を始めたがユーモ
ア句が作れず。実感句としてこの句を推薦します。

女房の記憶に僕が漏れている

黒石市 北山 まみどり

廣田 和織

都合の悪いことは忘れてしまふのが一番かも知れない。奥さまに対する愛情を素直に言えないユーモアだとも思える。

酔うほどに人間らしくなってくる

枚方市 藤村 亜成

鈴木いさお

氏の著書『おおきに』の中で好きな句です。柳界の一茶と呼ばれた豆秋を慕う氏にはユーモアの作品が多い。この酔いは対象を自由に観られる原動力なのだ。

神様が見ていなくても手を洗う

堺市 内藤 憲彦

前 たもつ

天満橋教室で川柳の手ほどきを受けた前たもつ先生の句集『山びこの詩』から「面白い事をまじめに」の一句。ニコニコされた先生をいつも思い出します。

春や春へそくりまでが浮かれ出る

香芝市 山下 じゅん子

西出 楓菜

空の色も身も心も軽やかになる季節。「タンズの奥のへそくり君、外は春だよ」と誘惑し、カレを追連れにさあ街にでよう！二人で手を繋ぎルンルンルン。

おじいさんを生前贈与いたします

大阪市 谷口 義

渡辺 富子

さっぱりと言いつつたところ、インパクトがありました。ご希望にそえない気がします。笑いの句でも苦笑いの方ですね。

夙あげる時だけ父を呼びに来る

大阪市 高杉 力

高杉 鬼遊

亡父、鬼遊の句集を読み返していると急に自分が登場してドキッとすることがあります。今となつてはもつと川柳のことを話しておきたかったと思います。

宝物そんな人に言えません

高槻市 初代 正彦

大島ともこ

誰にでも多分あるはずの宝物。子供の頃は僕もありましたが、今のお宝は？です。たいへん興味深い句です。

悔しくて浴びるほど飲むウーロン茶

大阪市 横山 里子

大久保眞澄

酒飲みの夫の言い訳はいつも酔って記憶がないでした。下戸の私は嘘だと思いつつ悔しい思い。後日この句に出会い大笑い。ウーロン茶浴びる程飲も！

鳥取県 成田 雨奇

墓なんて何度来たって墓だけだ

居谷真理子

あたし何度も言ったでしょ。あんたにはいろんな思い出のある父さん母さんかも知れないけど、私にや赤の他人だからね。ぶすつと突つ立っている作者。

和歌山市 木本 朱夏

電気釜お前が妻であつたのか

中尾 藻介

炊飯器（電気釜）の登場は日本の社会構造を根底から覆した。飯炊きから解放された女たちは社会に飛び出し、自分の言葉を持ち、語り、キラキラと輝いた。「お前が」に、封建社会の男性優位の尻尾が見えてはいまいか。

堺市 栞原 道夫

交番の留守へこんにちはく

須崎 豆秋

昼下がりの交番。奥に向かつて「こんにちは」と声をかけるが反応なし。繰り返す「こんにちは」の声がだんだん大きくなってくる可笑しさ。

大阪市 平賀 国和

初夢や金も拾わず死にもせず

夏目 漱石

川柳みたいな漱石先生の五七五（俳句）。漱石先生の心意気にあやかり生きていきたいものです。

大阪市 江島谷 勝弘

春夏秋冬昼はソーメン・ソバ・うどん

森松まつお

まつおさんは現代の豆秋さんだと私は思っている。高齢になればお昼はソーメン・ソバ・うどんで充分。まつおさんが麵をゆでる姿が浮かんできます。

大阪市 西出 楓楽

夢の中トイレがあれば大変だ

木内 閑眺

年のせいか近頃頻尿で、夜中三回ほど起きます。幸い目下はこの句の通りなのですが、さていつ使いい心地の良さそうなトイレが夢に現われることやら……。

川柳ともしび吟社

創立四十周年全国誌上川柳大会

課題者 「生」（2句詠で1口）（字結び・詠み込み可）
（10名共選）

岡崎守・高瀬霜石・安藤紀楽・島田駱舟・荒川八洲雄・木本朱夏・小島蘭幸・新家完司・太田かつら・佐藤灯人

投句料 1000円で1口（切手不可）

何口でも可 発表誌呈

投句用紙 所定用紙（コピー可）便箋 原稿用紙
作品、住所、雅号、本名、郵便番号、
電話番号を明記

賞 大賞・準大賞に地場産品

締切 4月28日（金）消印有効

発表 令和5年7月予定

投句及び問合せ先

〒410-3302 静岡県伊豆市土肥 553 -1

川柳ともしび吟社

佐藤 清泉 宛

電話 0558-98-0337

川柳塔鑑賞

同人吟 久保田 千代

— 3月号から

子孝行たんとつくしてから惚ける
老いる娘よ自分が老いるより哀し

柏 原 夕 湖

とつてもお優しいお母さんです。ご自分のことより娘さんのことを真つ先に考えて立派なお母さんです。

冬を越すためにひたすら水を飲む

平 井 美智子

寄る年波に負けず懸命に生きている姿に感動します。中七が効いている。

咀嚼する音をしみじみ聞く夕餉

辻 内 次 根

この句も歳を重ねて懸命に生きている姿を咀嚼する音に喩えて命ある今に感謝を忘れずひた向きさが伺える佳句。

二足歩行お陰で合掌出来てます

西 村 哲 夫

成る程、しっかり歩けているから不自由なく両手が合わされて合掌できるので。感謝です。

大阪の雪は気持ちで降つただけ

谷 口 義

今年の雪も大阪は大して降らなかったようです。『気持ちで降つた』とは言い得て妙。上手いと思いました。

鉛筆の芯も新年を迎え

栗 原 道 夫

令和四年度秋から「塔」の編集長を継がれ少しお慣れになりましたか？ さあやるぞ！と言う心意気が伝わる。

少し飛ばう年相応の幕が開く

吉 田 弘 子

新しい兎年に少しだけ飛ばう！若者の様にはいかながら・年並みでいい。

縦列駐車出来る返さぬ免許証

上 田 和 宏

後期高齢者になると運転免許証の返還期で結構悩むのです。作者は縦列駐車が出来なくなったら返そうと決心なさっている様子。予定ができていて偉い。

朝日吸うハートにひまわりが咲いた

大 内 朝 子

爽やかな朝日を吸ったハートに大輪のひまわりが咲く・・・とはどんな心境でしょう。余程素晴らしいことがあった瞬間だったのでしょうかねえ。

戦下の子光るあの目を忘れない

岩 佐 ダン吉

あどけない幼い子供の目が戦火の許で曇っていく。光るつぶらな瞳を忘れてはならない。

生きていたならはなの初日の出

奥 澤 洋次郎

そうです。生きていたからこそ捧める初日の出。しっかりと来年も生きて有り難いご来光を身に浴びてください。

ブラボーが響いて皆のハイテンション

飛 永 ふりこ

そうでしたね。昨年はブラボー、ブラボーで少しは国民の心にやる気が起こり暗いコロナ禍も明るくなったようでした。

さあ行くぞこの世第二の始発駅

中 堀 優

いいですね。この勇氣、やる気がとて素晴らしい。加齢もちつとも怖くない。

水仙と春の話をしてなごむ

渡 辺 富 子

明るい句。越前や下田の水仙観光地が有名ですが、目の当たりいっぱい水仙と春の話をするれば、心も和みます。

空財布拾った場所へ捨てに行く

井 丸 昌 紀

句意を理解するまで少し時間がかかりました。えっ！空になった財布を元の拾った場所へ捨てに行く・・・拾ってみたけど空だった、ということ・・・？

聞かれたら幸せとでも言っておく

小 野 雅 美

さりとてしている句姿に魅せられた。中七の「とでも」が効いている。

老春という花もあり水をやる

川 端 一 歩

くすりつと笑える句。成る程ちよつと老齢に余裕さえ感じての余生を思う。でもしつかりと水もやり大切に日を送る。

人生の機微味わいつ春を待つ

村 上 直 樹

長い人の一生の色んなおもむきを味わいながら春を待つ・・・何と落ち着いた余生を過ごされているのかと感心。

初春の富士その懷で蘇生する

森 田 旅 人

でっかい生き方、またその作者の人生へのしつかりとした思いを感じる。

仕える身の器だったと今気づく

片 山 かずお

身につまされました。人それぞれ役目分担があり、身に合つて磨いてきた人生。仕えられたことに感謝。お幸せです。

明日よりも生きてる今日がベストの日

藤 井 則 彦

加齢と共に何度も何度も心に刻む思い。そうです。明日より今日、今日より今が大事な大切な時間。心して過ごしたい。

あれこれのぼくの宝は妻の邪魔

水 野 黒 兎

笑っちゃいました。「あれこれ」と宝が沢山ありですね。でも全て奥様には邪魔な物ばかり。全て捨てられるのは覚悟でもせめてお元気な間は目に見えて！

訳あつてここは黙って靴を履く

栗 田 忠 士

何があつたのでしょうか？ここは男らしく意を決してきつぱり行動。下五に決意の強さが表れている。

物価高シミュレーションをする財布

山 本 昌 代

ガス代、電気代の値上がりには驚いていたら今度は食料品、卵に油と次々の高騰に庶民はついていけず頭が痛い昨今。

物価高あれこれ削り夢がない

倉 益 一 瑤

本当にそうですよね。これからの世の中、夢がなくなつて若者がお金の毒。救急車の中で安堵の息をつく

徳 山 みつこ

体験して初めて実感できること。筆者も昨年、主人がお世話になり不安の中で助けて頂き乗つてから安堵。その通り。

繰り返す津波の如きオミクロン

中 村 金 祥

コロナ禍に見舞われてから早や三年が過ぎ、あれよあれよと言う間に酷いことになり未だマスクが取れません。

たたかいを挑んでしまふ雪だるま

地吹雪に試されている集金力

北 山 まみどり

掲句二句とも極寒地での暮しの中での実感句、雪だるまにたたかいを挑むほどの集金力なんて想像できません。

水煙抄鑑賞

— 3月号から

山下 凱 柳

夢を追う男に妻のカーデガン

八木 幸彦

夢を追う主人。主人を支える奥さん。夫婦愛和の様子が目取るように浮かびました。八木さん、愛する奥さんに感謝致しますよう。

夢ばかり追って気つかぬ落とし穴

兼崎 徳子

夢を一生懸命に追いかけてきた人生。前ばかり見ていたので、足元の落とし穴にはまり苦難の人生が始まりました。「後悔先に立たず」反省しながら生きております。

夢を買う宝クジにも金が必要

樫 葉良子

一攫千金の夢を見てジャンボくじを買ってきたが、又もや夢は飛んでしまった。何年、夢を買ってきたことか。タダで夢は買えないが、夢が叶うまでずっと買うぞ。

明けぬ夜はなかった今朝も陽が昇る

神崎 江

艱難辛苦に立ち向かい眠れぬ夜もあった。しかし翌朝になると太陽は私の背を押してくれた。よし、今日もがんばるぞ。

戦争コロナ世のさまたまをみる悲劇

小川 道子

コロナに戦争、そして地震。悲劇が次々と起こっております。平和で安心して暮らせる世界に早くなって欲しいものです。

物価高一葉論吉直ぐ逃げる

みざわ はな

昨今の諸物価高騰で年金生活者は困っております。岸田総理傍観しないで早く何とかして下さいよ。

佳句浮かぶベン探す間にもう忘れ

若松 由紀子

佳句が浮かんだぞ。メモを取ろうとペンを探すのにもたもたしているうちに、忘れてしまった。また忘れたか。もう腹たつわ。

物わすれ前頭葉をノックする

木村 マユミ

「えつとあれあれ、あれだが」、物忘れがひどくなりました。ボケ防止に一生懸命に取り組みましょう。

咲き乱れやがて落葉になる定め

西沢 司郎

「人生を百花繚乱生きて終え」誰も人生行きつくところは一つ。何があろうとも今を精一杯生きていきましょう。

産声を初春の光の中に聞く

山本 百合

お子さん、それともお孫さんでしょうか。正月早々に生まれた赤ちゃんの誕生を喜ぶ、家族の笑顔が目に見えます。

啄木を真似て手を見る人多し

小畑 宣之

石川啄木が詠んだ時代が到来しようとは。給料は上がらず物価は上がる。庶民はこの苦難をどう乗り切っていくべきなのか。

聞き上手おだて上手の生き上手

武田 悦寛

聞いたら直ぐ答えるし、逆にこちらを試して来る。自慢たらしい受け答えがちよっと嫌味だなあ。

起きるのに気合を入れて足をつり

三谷 白黒

今日も天気良さそうだ。元氣よく飛び起きてさあやるぞ。「アツ痛てて」。よくありますなあ。年には勝てません。



シニアパワー (3)

世界保健機構では65歳以上の人をシニアと定義しています。が映画館のシニア割引は60歳からです。このように、「シニア」という呼称は何歳から何歳までとキッチリ決められたものではありませんので、ここでは「高齢者」というアバウトな捉え方をしています。また、本欄128と129でシニアパワー(1)(2)を掲載していますので今回は(3)と致します。

八十で男日傘のデビューする
百寿までまだ十五年あるじゃない
くすむまいカルチャー梯子する卒寿

卒寿なお孫と一献酌む余生
パソコンを駆使し卒寿のラブレター

いい知恵が湧くこともあり卒寿越す
九十五歳まだ現役の糸切り歯

肩入れにシニートを決める百二歳

地球温暖化の所為なのか夏場には猛暑日の連続です。そこに出てきた「メンズ日傘」。粋に使いこなすのもシニアなればこそ。百歳まで十五年ということは85歳、まだまだ若い。

卒寿は90歳。昔なら超高齢の翁と嫗でしたが今では元氣澁刺しカルチャーや句会、そしてときには孫と乾杯。その合間にはラブレター等々、次々といひ知恵が湧いてボケる暇もありません。目標は95歳で糸切り歯を誇る強者や、102歳で肩入れにシニートを決める大先輩です。

奥澤洋次郎
宮田 風露
熊坂よし江
村上 直樹

前田ゆうこ
北野 哲男
田中 重忠
能勢 利子

長寿の扉開ける呪文はのんき節
ジバング解約徘徊をはじめます
徘徊じゃないぞと妻を連れ歩く
娘等に老いは見せまい床磨く
スリッパを脱いで階段上り下り
ベッドから落ちるぐらいにまだ元氣
長生きの秘訣もいろいろありますが、その内の一つが「のんきに暮らす」こと。散歩中に「徘徊です」とジョークを飛ばせるのもその余裕でしょう。また、無氣力では床磨きも出来ません。階段を踏み外さないようにスリッパを脱いでおくのも積年の経験から得た知恵です。体力が無くなれば寝返りも出来ずベッドから落ちることもあります。

人生の放課後車椅子がソファア
まだ元氣人愛したり妬んだり

これからも枯れないように恋の歌
赤いマイカーシルバーマーク4つ貼る

ていねいに生きようあとはロスタイム
文壇へ遅咲き記録なら可能

早よ死ねと言われる爺になるつもり
車椅子を「人生の放課後のソファア」と洒落ることも川柳

で磨き上げられた心の余裕でしょう。ロスタイムだからと無駄に過ごすのではなく、恋をしたりマイカーでドライブしたり「ていねいに」充実して過ごしたいものです。

文壇デビューの最年少記録は絶対に無理ですが、最高齡記録なら可能です。そのような意欲を持って、周囲からは少々煙たく思われても頓着なく逞しく生きてゆきましょう。

奥水 弘
安土 理恵
堀 正和
山田 耕治
初代 正彦
藤井 則彦

高杉 千歩
太田扶美代
上田 紀子
山下じゅん子
柳田かおる
ささきのりこ
丹下 凱夫



(投句 181名)

梅園や盆梅展の話をよく聞くようになりました。まだまだ寒さは残っているけど、春は近いですね。

花便りには癒されますけど、自分が出向くかとなるとまた別、寒いのはイヤだなあ、と動けません。

こんな調子でテレビを見ることで済ませてしまうのも少し情けない気持ちになつて、今年こそ、今年こそ、と思つているうちに梅の季節が終つてしまうのです。

では、ナベを。

ひとりよりふたり水道光熱費

(評) 一所需なら、ひとりもふたりも水道光熱費はほぼ同じ、食費だつてひとりは無駄が多いとか。で、お宅は何名様?

口角を上げることに疲れたし

(評) 口角をずっと上げているって本当

にシンドイのよ。周囲を気にせず思ひっきり不機嫌な顔してみたいです。

実印をマンガにしたらアカンかな

(評) 実印の重要さを知らず、マンガみたいなイラストにしたのかな。消しゴムで作るゴム版なら可愛いんだけど。

好きなのは桃太郎より金太郎

(評) きびだんごで家来を作つた桃太郎よりも、自分の力で色んなことをした金太郎の方が好き、ワタシもです!

どこを切つても同じ味する夫です

(評) アハハ、これ 家庭平和の証。妻の知らない夫の顔があつた、なんてサスペンスじゃあるまいし。

平日の顔をしているソーセージ

(評) ソーセージにも顔があつたんですね。まじまじと見たことがあります。今度ゆっくり見てみましょう。

切つても切つても尻尾が生えてくる

(評) あらまあ、トカゲと一緒にやないですか。でも、ニンゲンにもいると思いますよ、懲りないお方。

お見合いの顔はいくつも用意する

(評) 相手のお好みは、チャージミングで

明るい女性、それとも清純派? どんな風にだつてバケられますとも。

こけるのはダルマも辛い八回目

(評) 七転び八起き、なんて言いながら八回目も転んじゃつたのオ! まあツライのは本人だからツツコミませんけれど。

無口から多弁と変わるコンバクト

(評) コンバクトの中で着々と仕上がつてゆくオンナの顔、無口から多弁へ変わるのは自信の表れでしょう。

サインより三文判が信じられ

大学は金太郎飴製造所

チャーシューもだんだん薄くなる昨今

マニアルに沿つただけです悪しからず

少しだけ違う少しに味がある

喜びを隠せぬシャチハタのハンコ

金太郎飴の如くに来るネプタ

晴着の子なだめすかしてハイポーズ

羽曳野市 黒木ひとみ
大寒に湯立神楽ら湯のしずく

米子市 八木 千代
喜々としてハワイへ並ぶエアポート

鳥取県 竹信 照彦
財布紛失戻って来た人情

高槻市 富田 保子
印かんを押して昭和に消えた父

箕面市 出口セツ子
公約は甘いが増税スタンバイ

豊中市 水野 黒兎
大臣の首を変えてもまた同じ

弘前市 稲見 則彦
言い訳は止そうよ同じ遺伝子だ

尼崎市 近兼 敦子
買い置きを忘れて同じもの四つ

河内長野市 中島 一彌
三文判だけで渡ってきた浮世

松山市 大内せつ子
いいところ取りしたくていつもこんな顔

大阪市 平井美智子
友だちもおんなじ人が好きらしい

藤井寺市 鈴木いさお
判りますようにと賽銭にリボン

神戸市 みぎわはな
アタマから足の先まで妻管理

松山市 柳田かおる
ついいけずしたくなるよな優等生

堺市 坂上 淳司
羊かんの端を取り合う子沢山

大阪市 江島谷勝弘
切っても切っても教団が出てくる

西宮市 福島 弘子
間違えさがし後一ヶ所が見つからぬ

松山市 郷田 みや
影武者はひとりでいいと言ったのに

鳥取市 山下 凱柳
笑顔笑顔何はなくてもまず笑顔

大阪市 岡田 恵子
お隣の幸せそうな笑い声

寝屋川市 長尾 千賀
パスタへは土筆 スープへは花びら

佐賀県 真島久美子
捨て印は必要ですか春うらら

松山市 栗田 忠士
輪切りして調べた結果異状なし

東大阪市 青木 隆一
切り口が大切ですと発明家

箕面市 酒井 紀華
軽いなあ議員バッチが飛んでいく

三田市 北野 哲男
独裁者どこを割っても顔を出す

奈良市 山本 昌代
一息をいれてエンジンかけ直す

河内長野市 森田 旅人
百均のハンコに価値のある不思議

熊本市 杉野 羅天
鉛を切る鉄は子等の夢を乗せ

東大阪市 青木ゆきみ
朝昼晩いつも作って飽きてきた

米子市 池田 美穂
捕獲した猪でハム町おこし

松山市 宮尾みのり
本当の私はどんな顔かしら

藤井寺市 鴨谷瑠美子
真つ二つに割ってゆつくり召しあがれ

生駒市 饗庭 風鈴
通り雨傘がないから濡れて行こ

三原市 笹重 耕三
オリンピックの裏で動いた黒い鉛

大阪市 滝井えみこ
うっかりと本音出そうな顔がある

津山市 高橋由紀女
苦も楽も一緒に歩むワンチーム

松江市 石橋 芳山
家系図に並ぶのつべりした笑顔

鳥取市 福西 茶子
一円を笑うと後で泣きますよ

朝霞市 前田 洋子
若者の顔の見分けがつかないわ

石川県 堀本のりひろ
大吟醸ストレス消えて青い月

6月号発表
(4月15日締切)



(平本 霧石 画)
柳葉に2句

『麻生路郎読本』余滴 (75)

「雪」 ④

葉 原 道 夫

「雪」3号は、大正4年10月1日発行。通しの頁で21、32頁。表紙(21頁)は目次。路郎・日車作品を「新短歌」としている。それについては、次回取り上げる。

路郎の「店頭より事務室へ」15句より

晴。友去れば又あきんどになり

SOLOが欲しいといふ妻のうら若く

二重襟の重みを偶と思ふ夜の事務

妻や待たむ靴音を高めんか

靴下をなげ出しぬ今日の汗かな

日車の「信濃の國」8句より

山國は悲しからずや日の強き

信濃路は障子に油濃き灯影

日車の「秋さらり」8句より

秋さらりさらりと机上整理かな

とある朝秋風つかむ思ひしぬ

紺瑠璃の櫛にも秋は冷やかに

24、25頁に、川上日車の「權威の窮屈」が掲載されている。「事実」と「真実」について述べている。前半は省略する。

「事實とは總ての人に取扱はしむべき一種の元素であつて、これを直ちに詩とし、藝術とする譯にはゆかない。が事實を元素としたる眞實に至つて、始めて人間の綜合が加はり、これが其人でなければ見られない個性の閃となつて、動かすべからざるものとなる。たゞ動物には感覺に鋭鈍の差があるから、或ものは白熱の如き強烈な靈感ともなうし、又は鍛火のやうな底強い幻覺ともなる。個性發揮の尊さはその間に生れる。

斯うして生れた藝術は、人間の綜合が加はつた丈け、嘘に近づいたのかも知れない。が事實を基礎として、その周圍に旋回した其人の感覺である以上、眞實には違ひないのである。

事實は何處迄も事實であつて、人間の綜合が加はらねば藝術とならない。と言つて仕舞へば奇異の感を抱く人がないとも言へない。それは今迄言つた事に説明が缺けてゐたからである。

爰にある水死人があるとすると、この死人

は詩ともなり、藝術ともなる一種の元素を漂せて居る。が水死人は幾ら何と言つても水死人であつて、それを詩だとか、藝術だと言ふのも少し可笑しく思はれる。

この水死人を、つと眺めてゐる、感覺を持つた人があるとすると、その人の頭の中ではもう詩が成立つてゐるのである。その詩は眺めてゐる人の感覺であつて、死人その物ではない。たゞ見たと同時に、分秒の差をその間に插む餘地のない迄、事實と眞實がびたりと結合する。感覺の脱失した者にはそんな考へは頭から起つて來ない。

感覺の等差に至つては、練習の結果水平線迄は漕ぎつけられても、それ以上は個人の天稟に俟たねばならない。その天稟が強ければ強い程、獨創性となる。妥協などは何うしても許さない。所謂其鳴はこの天稟の格段に距離なき人々に替される術語に過ぎないのである。(未完)

26、27頁には、石濱純太郎の考証「*伯希和教授の拂菻考」が掲載されている。

*「伯希和」はフランスの東洋史学者のポール・ペリオの中国名。「拂菻」は東ローマ帝国。

28頁、游魚の俳句「蟲盡し」8句より
虫づくし言ひあふて枕替えことす

いさかはねば物足らぬやうな夜長や
29頁、和露の俳句「向日葵」8句より

とこ紙魚を向日葵に拂へり
露まぶしきまで海風の當る

30、31頁には、「消息」と題して日車が
俳句会に出席したことを報告している。当
日の発表句の一部と、それに関する日車の
感想を抜粋する。

（謝絶する事芭蕉破る、如く也）（鬼史）

沖より船來未だ見えず萩そよぐ（春沙）
草の穂も夕日が染めて花野かな（月斗）
須磨わたり今も花野のありげなる（青々）
叔父の前殘暑心地に居たりけり（素石）
通草會の作品では、矢張り青々氏の句を
標的としたい。氏の作品は或は最早奥の知
れたドン詰りかも知れない。然し普遍的詩
作家として、殆んど人爲の限りを盡したも
のと思はれる。

月斗素石両氏は折角の感受力を煩瑣なる
事務の爲め防げられてはゐなからうかと思
はれたる程、腎張した作品に乏しかつた。
鬼史氏の無口は自己の主張を徹底させな

い爲め、妥協黨の多いこの會では殆んど注
意を拂はれずに通過する句が多い。たゞ
青々氏がそれを見逃す、手中に収めた鑑賞
力は今尙自分の記憶に残つて居る。

春沙氏老ひたるか、感覺脫失組か氏の作
品に期待してゐた自分はこの會で鮮からず
迷はせられた。

32頁、義一郎の短歌「南支那」9首より
大陸をくしきところと思ひ馴れ島をく
しとはわれ思はざりし

「雪」4号（大正4年11月1日発行）に、
初めて同人と幹事を発表している。幹事は、
斎藤松窓、麻生路郎、川上日車。同人の経
歴を簡略に記しておく。

伊藤觀魚（一八七七—一九六四）

東京市本郷在住。俳人。中村不折に洋画
を学ぶ。

小穴隆一（一八九四—一九六六）

東京市本郷在住。洋画家。俳人。芥川龍
之介の無二の友人。

中谷義一郎 経歴未詳。東京府豊多摩郡在
住。3号に短歌、5号以後「劇作者とし
てのシヨウ」を発表している。

信時潔（一八八七—一九六五）

東京都田端在住。作曲家。チェロ奏者。

加藤靜児（一八八七—一九四二）

名古屋市在住。洋画家。

鹽谷鶴平（一八七七—一九四〇）

岐阜江崎村在住。河東碧梧桐門人。「海

紅」同人。個人誌「土」発行人。

宮林董哉（一八八七—一九二二）

岐阜県江崎村鹽谷鶴平方。俳人、歌人。

句集に「冬の土」。

松村鬼史（一八八〇—一九一九）

大阪市東区在住。河東碧梧桐門人。25歳

から川柳を始め、柳号・柳珍堂。

藤原游魚（？—一九三二）

大阪市南区在住。河東碧梧桐門人。

小出檜重（一八八七—一九三二）

大阪市南区在住。洋画家。川上日車・信

時潔・石濱純太郎は、市岡中学の同級生。

石濱純太郎（一八八八—一九六八）

大阪市下住吉在住。東洋史学者。作家・

石濱恒夫は息子。作家・藤澤桓夫は甥。

川西和露（一八七五—一九四五）

神戸市在住。河東碧梧桐門人。

（次回に続く）

本社 三月句会

◇三月七日(火)午後一時
アウイーナ大阪

三寒四温の候となった7日、本社句会は、115名(うち投句者17名)の参加で開催された。初出席は大東市の八田灯子さんと奈良県三郷町の杉浦三智さんのお二人。選者として千葉県から江畑哲男さんをお迎えしての盛会となった。

今月のお話は葉原道夫さん。題は「薫風さんさん」。橋高薫風作品の研究者として知られる葉原さんが、座右の句として「恋人がいま肉眼に入り来る 薫風」を選んだ理由を、薫風氏との思い出や作品を辿りながらお話しされた。薫風氏の、「作品は言葉だけでしか勝負できないものだ」という言葉から、この句が、それを殊更意識した上での句であることを感じ取って、座右の句に選んだのではないかと、今の葉原さんは考えておられる。

これからも薫風氏と道夫さんの長いお付き合いが続くことを感じながら、お話に聞き入っていました。(真澄)

月間賞は島田明美さん(大阪市)
(司会)武人・志津子(協取)奏子・こみつ
(受付)いさお・江里子(懸垂幕墨書・耕治)
(清記)憲彦・勝弘・国和

席題「父」 高杉 力選

ばくのことじいちゃんと呼ぶ息子まで
娘のショック ババそっくりと言われてん
父さんは偉いと思うばつくり死
テイクアウト ビザも食べますお父さん
父の日も父の奢りでイタリアン
父似だと言われふくれた幼き日
唯一のアルバム父の肩車
バージンロード父は震えた腕のまま
引き出しに父の口座がふたつある
ファザコンと言われようともお父ちゃん
産声を聴いた瞬間ババの顔
ああ昭和父も玉子も偉かった
寝心地がとてもよかった父の膝
嫁色に染まって息子「父」になる
春風にふる里思う父思う
定年の父をわが家に取り返す
お土産のキントン飴は父の味
おんぶされ父の背中は無量大
父と飲む約束がある急がねば

澤井 敏治
川端 六点
谷口 東風
柴本 ばつは
斎藤 隆浩
宇都満知子
佐々木満作
上田ひとみ
藤田 武人
中岡千代美
矢倉 五月
栃尾 奏子
酒井 紀華
島田 明美
内藤 憲彦
菱木 誠
松田蟻日路
中井 萌
木本 朱夏

子が誘う酒に決意を汲んでやる
泣き上戸DNAは父らしい
父が居る家の空気がピンと張る
笛太鼓父が男の貌になる
亡き父が居そう古書店と覗く
カリスマの父の背中にはさみしがり
もう十分検査の中止せがむ父
父の墓花より酒を持ってこい
軍服の父まつすぐで恐かった
床を背に昭和の父は偉かった
正座して熱燭二合父の酒
父はまだ農機具小屋に生きている
雛まつり父には冷えた缶ビール
君が代を背負って生きた父でした
かきつばたやさしい父の柀まい
こわごと父の分厚い爪を切る
釘一本打つの父は大騒ぎ
父の教えタバコは吸うな酒はいい

佳

人

父の手を引くのはちよつと照れ臭い
今父が通ったようだピースの香
褒めめせず叱りもしない父でした
教えて欲しい事がいっぱい有った父
あんなにも嫌った父の轍踏む
フィリピンをついに語らず逝った父
稲葉 良岩

吉村久仁雄
江畑 哲男
中井 萌
伊達 郁夫
西出 楓葉
野口真桜子
小野 雅美
川端 一步
片岡 加代
村田 博
青木 隆一
新家 完司
内藤 憲彦
平井美智子
緒方美津子
近兼 敦子
柿花 和夫
平賀 国和
杉浦 三智
中岡千代美
山下じゅん子
森 廣子
吉道航太郎

地

ふる里の駅舎降りるといつも父 山下じゅん子

天

アメリカも見えそう父の肩車 川端 六点

軸

句集から顔出す僕の知らぬ父

兼題「学ぶ」 石田ひろ子 選

千円の値打ち学んだアルバイト 小野 雅美
宇宙語をやがて学ぶ日やってくる きとうこみつ
老いてなお学べる今が青春だ 折田あきこ
相談をされ六法を捲ります 米田利恵子
学ぶとは素直になれと今に知る 奥水 弘
年若の友から学ぶ自然体 富永 恭子
よく学ぶ腰据え生きている証 稲葉 良岩
価値観を出逢いと別れから学ぶ 青砥たかこ
ランドセルしょって始まる物語 稲葉 良岩
近頃は孫から学ぶデジタル化 水野 黒兎
処世術学ば背中に不信抱く 加藤江里子
人生を学び終えたかデスマスク 西出 楓葉
荒波に骨の髄まで鍛えられ 伏見 雅明
詰め込んだ知識が学ば邪魔をする 居谷真理子
祖母からの学んだ教え今に生き 田中 廣子
雑談の中から拾うエトセトラ 立蔵 信子
掛け算の九九をトイレの壁に貼る 川端 六点

迷うこと立ち止まることみんなマル

義務教育学校・塾の二刀流

若者に新語を学ば呆けぬよう

先生の字を真似少しうまくなる

人生は「学びて時に」卒寿かな

学ぶことまだあり老いの余生かな

良く学び高みを目指す苦学生

人間の悩みを学ば絵馬の数

学ばほど謎の深みに足取られ

句に学び忘れた漢字思い出す

学習のはじめの一步聞く力

負けること学んで楽に生きてます

一年生背すじ伸ばして聞いている

孫からのスマホ授業は高く付く

保育園読心術を先ず学ば

また一人机並べた友が逝く

菜の花のバントマイムで知る陽気

手料理が知らず知らずに母の味

男の本性学ば大きな傷負って

学校で塾の宿題している子

人間を学ば寄り道回り道

雑学を学ばコーヒー飲みながら

何でも聞く三歳のボク知たがり

本当の優しさ介護から学ば

路地奥にひっそりと棲む生き字引

人

おっぱいを飲むのが初めての学ば 青木ゆきみ

地

遠まわり学べば怖いものは無い 米田利恵子

天

老いて尚学びつづける虫眼鏡 酒井 紀華

軸

どん底で学んだ事が今宝

兼題「かけら」 山下じゅんこ 選

一片の土器が歴史をくつがえす 三宅 保州
重箱のかけら懐かし桃節句 富永 恭子
言い訳の欠片が喉に引っ掛かる 石田 孝純
粉々に砕いて悩みのど通す 伏見 雅明
思い出の欠片が光る脳回路 居谷真理子
かけらでも慈悲を下さい孤児のため 初代 正彦
家裁出る愛のかけらも残さずに 油谷 克己
一億のかけらのなかの自己主張 酒井 紀華
政治業世襲の欠片がでかい顔 安福 和夫
詩心のかけらも持たぬ人と居る 佐々木満作
かけらでいい大谷君の年俸の 古今堂蕉子
欠片からかけらを繋ぐ考古学 山野 寿之
あなたとの夢のかけらを抱き続け 山本加お里
金継ぎに任そう見当たらないから 中岡千代美
拉致をして慈悲のかけらも無い相手 松岡 篤
宇宙ではかけらの地球抹めている 福田 正彦

駅裏に昭和のかけらが落ちてゐる
発掘へかけら一つで大騒ぎ
川端 六點

ミサイルの欠片だらけか日本海
初恋のかけらが胸に刺さつてゐる
敏森 廣光

蹟いた石のかけらが語りだす
青春のかけら持ち合いクラス会
稲葉 良岩

これがダイヤのかけらで釣つた女です
無くなつたバズルのピース犬小屋に
平賀 国和

一欠片の水ふくんで逝つた母
寝て起きて食べてまた寝てもうかけら
八田 灯子

老いのかげら振るい落としてひとり旅
土器かけら埋もれた歴史語り出す
青木ゆきみ

反省のかけらも見えぬブーチン氏
戦争は人をカケラにしてしまふ
柴本ばつは

良心のかけらも無いのあの国は
ナツのかけらびつたり入る歯のすきま
折田あきこ

日本語のかけら喃語がこぼれゆく
太陽の欠片でしようかブチトマト
鈴木いさお

青春の悔いの欠片が胸を刺す
常識のかけらが声高に主張
敏森 廣光

優しさのかけらが光る遺言書
佳
宇都満知子

早春のかけらを拾う山歩き
隕石のかけら光年の旅をして
片岡 加代

木簡の恋歌かもねこの欠片
大久保眞澄
長谷川崇明

言霊のかけらが光る一行詩
人
木本 朱夏

嵐の予感女雛の鼻は欠けていた
地
島田 明美

一ピース足りずに愛はまだ未完
天
木本 朱夏

大河の一滴されど濁らぬ正義感
軸
澤井 敏治

齒の欠片ほどの未練もない男
兼題「ノ」
吉村久仁雄 選

お氣遣い無用独りでいたい猫
僕だけを置いていくなよ約束だ
藤田 雪菜

セールスはノーと言われてから勝負
軍事實費が世界三位になる日本
上田ひとみ

酒はやめられんだろうと言う主治医
ノーマネタイ肩の凝らない趣味仲間
内藤 憲彦

一人でもノーときっぱり素直な子
仲間外れ覚悟でノーと手を上げる
江島谷勝弘

その電話ノーで逃れた詐欺の罠
あと十年ノーと言わせぬ膝と腰
三宅 保州

今更に妻が一緒の墓はノー
駆け込んだエレベーターがブーと鳴る
石田ひろ子

ノーと言えば袋叩きの闇バイト
NOYESだけではなんとも味けない
緒方美津子

友達で無くなるうともノーはノー
萩原 狸月
萩原 狸月

満面の笑顔で返すノーマンキュー
二歳はや何でもイヤと反抗期
津守 柳伸

好きだからノーと言うことあるのです
ノーマイド仲間に戻る笛が鳴る
みぎわはな

ノーマインド便利なようで命取り
一人はいや一人はつちほもつといや
三宅 保州

ノーマインという勇気がなくて荷を背負う
大阪の「考えとく」はノーマインである
村松 久江

限りなくYESに近いNOもある
イェスノーマインにいて丸くいる
今井万紗子

戦争へ世の母親のNOサイン
親友の無心にノーマインと言つても
油谷 克己

もう一押しされたらOKと言つても
付き合つて長いのに結婚ノーマイン
富永 恭子

営業マンノーマインと言われてから勝負
傷つける答え拒否するリトマス紙
富永 恭子

イェスノーマイン正解はない流れゆく
ノーマインですと聞かぬ貝の口
富永 恭子

クレームと呼ぶ対案を持たぬNO
いざの時ノーマインという逃げ口上
富永 恭子

死んでも行かへん女医の肛門科
義理がある選択肢にはノーマイン
富永 恭子

ぜいたくはノーマインで通して医者知らず
返事待つわたしに視線合わせない
富永 恭子

来世ではあんたを妻に選ばない
折田あきこ

住

ノープラにしたのずんべらほうだから
谷口 東風
ウチ好かんお母ちゃんから断つて
居谷真理子
野良に出て笑顔いっぱいノーマイク
惠利 菊江
大阪では考えとくと言いますねん
敏森 廣光
遠慮なくNOを言い合う真の友
敏森 廣光

人

権力に白紙揚げて屈しない
両澤行兵衛

地

挑発をしているらしいノーガード
中岡千代美

天

ノーと言ったのために逢いに行く
高杉 力

軸

過去の僕はノーあすの夢にイエス

兼題「好意」

江畑 哲男 選

好意度ナンバーワンの二刀流
佐々木満作
好意には疲れましたというパンダ
藤井 則彦
落した財布舞い戻るのは日本だけ
梶谷 和郎
チョコのお返しは迷わずするつもり
立蔵 信子
ご好意に甘えた席が落ち着かず
加藤江里子
ヨボヨボに席譲られてしよげている
谷口 東風
日に二度も席譲られて背を伸ばす
森田 旅人
生きていると神の好意に気づきます
米田利恵子
譲られた座席に少年の温み
太田 昭
身に余るご好意堰を切る涙
石田 孝純

のし袋あれが好意の証拠品

使い捨てカイロキウに喜ばれ

西側の好意にねだる戦闘機

歯がボロボロなのに戴くおせんべい

仕草の端々で好意が悶えてる

負担なんです見え見えの好意

男女とも優しい人は罪つくる

露地裏は地域猫への思いやり

知らぬ顔するのに鉛筆で突つく

好きなのくしゃみかわいく聞こえます

消しゴムを借りるあの子にだけ借りる

お地蔵さん好意を抱いていいですか

好意にはすなおにどうぞにはどうも

それはもう好意と言えぬストーリーカー

好意悪意Z世代はすぐ揺らぐ

イケメンに道を訊いたら付き添われ

好意もつぐらいで罪になりますか

ゴミ出し日隣の分も出さず夫

ご好意は何でも頂たいする主義よ

付度も好意の一つかもしれない

無印の御好意でした受けました

散歩で会う犬の視線が熱過ぎる

ご好意に感謝おれでくたびれる

何もかもいとしく思う春うらら

怖いのはほんの私の気持だけ

叱られてちよつとあなたを好きになる

仁部 四郎

大内 朝子

東 定生

みぎわはな

島田 握夢

中岡千代美

江島谷勝弘

折田あきこ

藤田 武人

川端 六次

片岡 加代

栗原 道夫

大久保真澄

吉道航太郎

吉村久仁雄

みぎわはな

鴨谷瑠美子

山下じゅん子

矢倉 五月

加藤江里子

柴本ばつは

大久保真澄

松田蟻日路

内田志津子

安福 和夫

島田 明美

惚れたかなあなたの無理が好きになる

ありがとう私ひとり帰れます

しみじみと見れば夫もいい男

厭だなああつちは好意あるらしい

触れられた髪もあなたが好きと言う

悪人でいたいと思う歎異抄

勘違いしそ優しくないでね

ご好意の便座が少し熱すぎる

人妻であろうと好きな人は好き

母性本能をくすぐるツンデレのギャップ

ぬるま湯で政治の垢は落とせない

水風船振ればこどもの海になる

ああ爽快今日も始発のバスに乗る

レンジでチンすぐに温まる愛がいい

主夫として妻の退院待つレシビ

過ぎ去れば老老介護なつかしく

物価高断捨離の手がふと鈍る

レモンぎゅつカラシぴりりも効かぬ脳

砂場までスキップだって春だもん

伊達 郁夫

八田 灯子

山下じゅん子

江島谷勝弘

小野 雅美

島田 明美

青砥たかこ

平井美智子

藤井 宏造

太田 昭

今村 和男

野口 龍

吉村久仁雄

谷口 東風

平松かすみ

永田 紀恵

みぎわはな

川端 六次

兼題「自由吟」

小島 蘭幸 選

目元だけそれでも座席譲られた
お互いに輪廻転生また会おう
新きやべつザクザク妻は不機嫌だ
名作を生み出すサブリないものか
春の陽にくにやりと猫と溶ける午後
保険証とおくすり手帳持ち歩く
髪を切りそろえて春の絵の中へ
十五の世七十五の世友と見る
シナリオのラストを熱く晴れにする
野生美を残す少女の清しい目
慰めのことは背中から染みる
「スミマセン」に「お互いさま」がほえんだ
弥生三月忘れぬように雲雀鳴く
義理チョコの効果夫が若やいだ
天よ地よ届け修行僧の火の粉
SNSに叩かれ女上げました
ひとつずつ許して愛は深くなる
尖つてるとこはスープに浸します
生きて生きて父の分まで生きた母
マイセンに盛られレトルト器量よし
おそろしや自分を忘れそうになる
座ってくださいそばにいてください
春の宵はのかに香る友の来る
卒業式マスク外せたね良かった
少子化はずっと前から言われてた
蕾がふくらむスニーカーを買った

田原 康雄
居谷真理子
栃尾 奏子
新家 完司
水野 黒兎
山田 耕治
木本 朱夏
杉野 羅天
菱木 誠
稲葉 良岩
菱木 誠
大久保眞澄
今井万紗子
中井 萌
萩野 浩子
中岡千代美
山崎 武彦
高杉 力
今井万紗子
長高 俊雄
西出 楓楽
島田 明美
澤井 敏治
宇都満知子
江島谷勝弘
青木 隆一

第40回 渡辺銀雨賞

すずむし全国誌上川柳大会

課題 『昭和』（2句詠で一口・字結び・詠み込み可）

選者 13名共選

高橋みつちよ・高瀬 霜石・竹田 光柳
若林 柳一・松代 天鬼・田中 新一
古谷龍太郎・覧のぶなが・渡辺松風 他

投句料 1,000円で1口（郵便小為替）何口でも可

※ 参加者全員に参加賞呈

投句用紙 所定用紙・便箋用紙・原稿用紙

住所・氏名（雅号・本名）・郵便番号・電話番号明記

賞 大賞（1名）入賞句入りブロンズ像・すずむし誌

6か月分・自然薯うどん特大

準賞（2名）入賞句入りブロンズ像・すずむし誌

6か月分・自然薯うどん大

50位まで賞あり

締切 4月30日（日）（消印有効）

発表 「川柳すずむし」誌6月号

投句先・問合せ先

〒018-1724

秋田県南秋田郡五城目町東磯ノ目一丁目7-11

すずむし全国誌上川柳大会係 宛

電話018-852-2430

主催 川柳すずむし吟社

女性の方は日と手遅れながら気付き
冬の便座この冷たさが堪らない

住

腎臓ひとつ痛でなくした弟よ
飾り棚三年寝てるナポレオン
藻掻いても半径二メートルの中
重い日がつづく花屋の前に佇つ
ぐうたらな僕にも春がやってきた

島田 握夢
伊達 郁夫
矢倉 五月
森田 旅人
木本 朱夏
新家 完司

裏表のない人味もなさそうだ
モーイカイと土筆マーダヨと蓬
天 逢えぬ子に十五センチの靴を買う
軸 父の齢をはるかに越えて来たいのち
島田 明美



毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようお願いします。
編集部

川柳塔打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

ざわざわさし携帯鳴って聞こえない
貴恵
ざわざわと雑魚をはき出す地引網
重忠
上下する株価ざわざわ蚊帳の外
三津子
人間が来るとざわつく山の木々
完司
何の因果で梨泰院のハロウィンに
芳光
ニユース見て情報掴み世間読み
悦子
幸運を掴むチャンスは皆平等
滋
リハビリで妻の手掴み歩く日々
清
エキサイトするバーゲンの掴み取り
紀の治
命綱掴んで一世紀生さる
石花菜
聴診器に胸も背中も掴まれる
美ツ千
瞬間に言葉のシャワー驚掴み
紀子
ほろ酔うて掴みたくなる朧月
節子
コロナ禍へせて門松華やかに
芳江
日本人横網の門固そうだ
陽之助

天国の門の前には閻魔様
門札に亡き夫も居て二人住む
門柱も門扉も無いよ通りゃんせ
校門を出たら暮れまで帰らない
泥棒も神も等しく通す門
新春に我が家一門そろい踏み
小悪魔がざわざわと左胸

南大阪川柳会 松岡 篤報

頼らない上司のおかげ独り立ち
おい誰か揺らすのやめろかずら橋
いつからかサーピス残業あてにされ
バンクシーうちへ落書き許します
いびつさが手作りだよと誇らしげ
絶筆となった作品人気でる
駄作だと思いが師匠の作である
提出後傑作な句が出来上がる
命ある川柳いまだ出来ません
モノリザも疲れましたと言うてはる
クレパスのママの似顔絵ヒゲがある
カルトとの縁切り誓う五枚舌
宣誓の声凜凜と涙が湧く
誓うのは素面の時にして欲しい
子供には伝えていない誓約書
書き初めに誓った文字が光つてる
愛の鐘鳴らした頃のシルエット
富隆
久米代
宣子
義人
重利
照彦
くにこ
篤報
国和
東風
常男
航平
大子
弘子
実
克己
一歩
蕉子
力
敏治
志華子
いさお
加お里
千鶴子
柳伸

消えそうな火きつと真赤に灯す会
サーピスも味も良いから長い列
旅行支援感染者を増やすだけ
サーピスエリア男トイレにおばちゃんら
サーピス品着せ食べさせて子は育ち
接客後手足のばして露天風呂
お元気に新年参賀みとせ振り
だけれども折れたらこわい一本気
人間の愚かさですか武器に武器
美味いなあ無口な夫ひいと言う
一から二へ苦勞知らずのドアが開く
死となりあわせ悲しいウクライナ
無駄話心がはつと暖かい
柳石子
楓楽
まゆみ
柳石子
直子
篤
ばつは
ルイ子
峰子

竹原川柳会(広島) 古田比呂子報

空気は読まぬいつも通りの自然体
思い切り肺まで空気野良仕事
重苦しい空気漂う選挙戦
野良仕事の空気一変戦闘機
ありがとう空気のごとき妻と居る
妻の言うかうかすれば槍が飛ぶ
老い独りうかうか取れぬ詐欺電話
うかうかと入院出来ぬクラスター
うかうかと引き受け責任取らされる
指切りもうかうかできぬ歳になる
うかうかへふるさとの輪が美しい
和子
白狐
栄香
夢香
敬子
日出夫
慶子
輝恵
節夫
節生
蘭幸

うさぎのふくきてる妹うれしそう

小二 沙 弥

コロナ禍でうさぎの鳥もピンチです
うさぎよりてくてあるくかめがすき

小一 央

とても元気で兎とかけっこしてますね
戯れの孫と兎と潮の香と

弘 子

ある時は兎時には亀になれ
三兎を追う負けず石段かけ上がる

宣 之

特ダネをウサギの耳が逃さない
ふわふわの兎を抱いて夢を見る

步 美

衰える脳へレモンを一しほり
ワインにお節箱根駅伝ゆるると

昭 紀

ジグソーパズル最後のピース愛でした
青竹の猪口で新年の祝酒

比呂子

母さんの味だよレモンケーキ焼く
はびきの市民川柳会(大阪) 藤原 大子報

厚 子

今年まだ白いさざんか残る家
軽々と嘘の白をさせるデカ

幸 子

白日は事件真相暴かれた
白黒はいつもつながっているのです

白は白言えるお国か日本は
うまい手だと感心しきり白紙デモ
白紙委任命は妻に預けてる
再審白けれど世間の目はグレー
白紙デモ抑え切れない赤い国
ゼレンスキー辞書に白旗ないという
引き出しに青春詰まる文机
どきどきでお節料理の蓋開ける
こっそりと財布あけますへそくりの
公園の片隅子猫入ったダンボール
新しく開ける八十路の初日の出
群青のカーテン開けて新世界
ときめいて開けた手紙が今もあり
瓶の蓋まだ開けられない大丈夫
ごめんねが心を開けるバスワード
満月に仏間を開けてあげました
陽光へ自肅の窓を明け放つ
胸襟を開いた奴の聞き上手
十六歳親の知らない窓を持つ

和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

ベテランは口も動かし手も動く
頼られて忙しさにもある笑顔
宅配で届くふるさと去年今年
忙しい時は眠っている邪心
十二月歳をとっても胸騒ぐ

さくら まつお 久仁雄 楓 楽 勝 久 一 歩 ひとみ 正義 千鶴子 こみつ 大子 理 恵 ちづる みつこ 憲 彦 瑠 美 子 いさお ダン吉 扶美代 宏 枝 起世子 昭 枝 碧 一 雄

大羽雄大 選

身の丈に暮らして笑顔忘れない
いい話今日いちばんのご馳走だ
日向ぼこセカンドラブです老い二人
この先の風を読んでる懐手
愛込めてオデコにこつん指パンチ
酒二合そろり本音が顔を出す
飲み仲間一声だけで五六人
点滴は余命の脈に似たテンポ
野に咲いてどんな風とも響き合う
読み聞かせ想像力の玉手箱

純 子 一 歩 千 賀 いさお じゅん子 富 子 勝 弘 (藤) 則 彦 桂 子 規 子

佳句地十選

(3月号から)

徳山 みつこ 選

休むこと知らぬ水車の如き母
食べるのにお金いるのが人間だ
ミサイルが引き裂く飢餓の青い空
座ったら眠たくなってくる机
朝刊の音は夜明けのプロローグ
滑らかな口の女に御用心
黒には黒と叫び続ける太いペン
夕焼けの空に負けじと野火走る
産道ぬけてさあ人生のスタートだ
リニアが越すに越せない大井川

椒 子 ばっは 星 雨 (書) さくら 克 己 石花菜 敏 治 芳 山 いさお 万 彩

焦る帰路つるべ落しの陽に追われ

子育ての日懐かしむ朝の音

メモをとり付箋もつけて老い多忙

張り切ってみても踏み台二段まで

気忙しき抜け切れない定年後

歳月の渋味重ねたベアカップ

自粛して読み返してる古い本

十二月だから解決できること

ベテランと呼ばれて越える八十路坂

歳の功ボケを上手に隠してる

皆勤賞受け掃除機の忙しさ

この腕で家族支えた自負がある

ベテランを追い越す人待っている

ベテランは余裕を隙に見せもする

ベテランになって肩の荷重くなる

ベテランの指導で登る急斜面

ベテランの道具一つでわかる腕

ベテランは秤使わず目分量

年末の街が競歩の足になる

忙中に閑あり第九染み渡る

ベテランの勲章だろう座りダコ

ベテランも初めて泣いた優勝旗

脇役の異彩を放ついぶし銀

古いだけそれを取り柄の人もある

だんだんと忙しくなる医者らしこ

忙しい文字が消えゆく年の暮れ

まき

倅子

菜摘

和子

敏照

純子

ひろ子

保州

准一

彦弘

あき子

明子

和美

悦男

眞智子

八重子

和男

さやか

澄夫

幸

智三

辰治

剛

康則

俊介

與一

息を継ぐ間もないほどの椀子蕎麦
子供には忙しくても耳を貸す
忙しい時ほど人は生き生きと
強かに叱った後は抱き締める

城北川柳会(大阪) 近藤

若田家の留守電告げる「今宇宙」

雑談にヒントをもらう明日の地図

孫の部屋開けるとまるで宇宙船

凹んだらプラスの方へ風が押す

雑草に遣る気貫った意気地無し

酒のない宇宙旅行はゴメンだね

フイリピンの刑務所金と女でパラダイス

子に貰い孫に渡したお年玉

幸せは健康プラス金少し

喫茶店名前銀河で狭かった

変屈を個性だと言ひ張る意固地

手料理にビタミン愛を我が家流

い加減雑でなんとかやってきた

北風の口笛聞いて急ぐ帰路

バタバタと貧乏雑用が追い駆ける

世渡りにプラスになるか見極める

ほろ酔いの脳の遊泳する宇宙

宇宙って誰のものかと気がもめる

はやぶさ2健気に52億キロ

かかりつけ検査もせずに加齢です

義泰

明美

よしこ

千鶴

正報

洋志

野鶴

一步

万紗子

北舟

宏造

こみつ

郁夫

榮子

隆一

ゆきみ

福貴子

峰子

満知子

克己

賢子

朝子

捷二

俊雄

実

宇宙一好きや言うたんアンタやで
北極星探して見たのいつの日か
困るほど呆れるほどのまた値上げ
ウオッカを足せばスクリュードライバー

榮養は満点まずい宇宙食

宇宙の隅のたたみ半畳が天下

美しく誇れる星であれ地球

若者に託す戦無き平和の世

卒寿すぎもういいのですポツクリ死

懐に入れば人は温かい

七草の器の中の早春賦

人間の知恵が麻痺してまた戦

古都の冬阿闍梨の温いお説教

ころあいの火加減大事人育て

日本丸コロナの重荷積んだまま

富柳会(大阪) 山野 寿之報

注がれた愛をあなたに倍返し

AIに注ぐ配慮というカード

命の弧まだからもうへ砂時計

饒舌で注ぎつ注がれつ探る腹

フェルメール真似て牛乳注ぐ朝

もてなしに帰りそびれた太郎さん

注ぎ合うて肝胆照らし合う

電池注入さあ春の出番です

移住地の里の空気と干し柿と

千恵子

章

五月

博

久美子

星雨

恭子

信子

ルイ子

廣光

千賀

黒兎

和夫

義明

篤

一文

武人

幹和

高鷺

由夏

文重

欣之

かこ

あかり

頂上が見えて来ましたやれやれだ
すねかじりやれやれ旅に一人旅
菜の花にゴマの香添えておもてなし
ありがとう言えない人の淋しい瞳
さわやかな目覚めいつもの朝がある
お料理に梅一輪がかしこまる
汚染処理底に溜まった愚痴不満
デジタルで財産消えたパスワード
不安でも素顔がいいな脱マスク
ガラス越し陽射し温か春隣
咳が出る今日は何飲む注射器で
合わせる手に仏陀の慈悲が生きて
ジェルニカの悲劇再びウクライナ
美酒こぼすもつたいないが身にしみる
光り物五本の指に認知母
注ぎ方新入社員イロハから

正 義
きみ子
寿之
奏子
恵
和子
涼子
和雪
章子
きよみ
正 邦
常 男
隆 充
由 子
義 明

愛しても犬に介護は頼めない
朝八時告げるサイレン心地よい
かあさんに逢いたいこんな寂しい日
ひとみ
智恵子
照 代
ひとみ

長 柳 会(大阪) 大浦 福子報

緩やかに脈わい戻るインバウンド
フェミニズム夜明けの気配一歩ずつ
夜明け前名残の笑みの白い月
夜明け前富士に登って初日の出
唐突に眠りを破る明烏
コンビニの灯やけに明るい雪の夜
祈るより努力大事と神が言う
賽銭をはずむピンチの神頼み
刀鍛冶その神業に凄み見る
孫たちの脈わい済んで寝正月
ロスタイム早く終われと勝ちゲーム
酌み交わすうちに十八番の花が咲く
百病とつきあいながらもう米寿
体内の連絡網が乱れ合う
感染止まずマスク不要と言われても
人生は後半戦が面白い
笹を手に境内走る巫女の声
荒波を見事乗り切る夫婦舟
夜目遠目美人に見えるマスク顔
山道を枯葉踏む音鈴の音
席譲り降りた若者前車内

関々と知恵を巡らせ白む空
風吹かぬ先が読めない風見鶏
川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

川柳ささやま(兵庫) 北澤 綱民報

お喋りの家電と妻に指図され
小さな芽いつか花咲く夢をみる
我家にも趣のでる雪化粧
南国へ移住したるか寒い冬
積もる雪氷結晶怖い路
戦中派八十路になっても甘えない
寒波にはゆっくり寝間で雪見酒
年忘れ孫と作った雪だるま

日々無駄に過ごしているが生きている
二刀流ケーキ片手に缶ビール
お前もかつて卵の値上がりだ
幕引きの支度毎日やっている
今までは過去今から未来です
元旦の寺のお参り猫二匹
年かさぬ枚数減って年賀状
眼がかすむこれも加齢の勲章だ
愛犬と同じ病気になるました
生きづらい世の中だけど歩かねば
はじまった我が家のメタカ当てごっこ
仮病だと判っていても休みたい
「アラボー」と言いながら行く下校の子
子育ては死ぬまで続く肩の上
帰ったらいのに帰るそぶりなし

主 常 男 隆 充 由 子 義 明

孝 代 幸 子 淳 司 由 夏 和 子 直 樹 ヒロ おくみ 正 博 孝 たけし くにお 由 子 規 之

まみ子 かつ子 三樹夫 遡 行 美千代 日枝子 久 直 令位子 紀の治 千 代 美 穂 菜々 恵 子 美 緒 宣 子 雨 奇 ひろし 瑞 枝 俊 久 宏 之

きよみ 正 邦 常 男 隆 充 由 子 義 明

登美子 克 巳 正 美 孝 代 幸 子 淳 司 由 夏 和 子 直 樹 ヒロ おくみ 正 博 孝 たけし くにお 由 子 規 之

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

主 常 男 隆 充 由 子 義 明

孝 代 幸 子 淳 司 由 夏 和 子 直 樹 ヒロ おくみ 正 博 孝 たけし くにお 由 子 規 之

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

主 常 男 隆 充 由 子 義 明

孝 代 幸 子 淳 司 由 夏 和 子 直 樹 ヒロ おくみ 正 博 孝 たけし くにお 由 子 規 之

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

主 常 男 隆 充 由 子 義 明

孝 代 幸 子 淳 司 由 夏 和 子 直 樹 ヒロ おくみ 正 博 孝 たけし くにお 由 子 規 之

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

主 常 男 隆 充 由 子 義 明

孝 代 幸 子 淳 司 由 夏 和 子 直 樹 ヒロ おくみ 正 博 孝 たけし くにお 由 子 規 之

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

主 常 男 隆 充 由 子 義 明

孝 代 幸 子 淳 司 由 夏 和 子 直 樹 ヒロ おくみ 正 博 孝 たけし くにお 由 子 規 之

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

とんどさん八十路の願い火の中へ
過ぎ去れば苦勞話も笑つてゐる
治代 多美子

倉吉川柳会(鳥取)

大羽

雄大報

あつとろし餅にねじられ救急車
あつとろし喧嘩と思う漁師小屋
あつとろし(因幡方言)恐ろしい怖い

蟹郎 節子

黒を白へ手品のように変える闇
勉強家脳が疲れて麻痺してる
使用期限あるのか脳が動かない
大ニュースアルツハイマー治療薬

紫陽 菊江 真理子

孫からの嬉しいカードクリスマス
ウイリスも塵も引き連れ孫が来る
探しもの急ぐ時ほど出てこない
今日の幸予感させるか朝の虹
わが歴史と思えば芥捨てられず
三三九度神のカードもうわの空
新聞の切り抜き貯めてゴミとなる
こぜり合い皆宇宙の「ゴミ」同志
そのうちに拾うベッドの下ゴミ
九十を迎える朝だ元氣出す
閃きは急ぐ時ほど浮かぶもの
カードローンこわくて出来ぬじとば
急げブーチン和解ボタンが側にある
塵芥まとめてエネルギー源とする
好カード競う野球がおもしろい
朝な夕な追善供養お題目
買物に現金出さずカード出す
朝いちの水が五体呼び起こす

智恵子 日出子

無知恵を絞り絞つて生きてます
大器晩成待ちくたびれた父と母
万難を排し約束破ります
笑うても泣いてもひとり自由席
幸せであつたか自問する米寿
潤おした喉へ夕陽を沈ませる
へそくりを座布団の下見え見えだ
みえみえの世辞が皮肉にも聞こえ
みえみえの嘘を見逃す神もいる
みえみえの世辞を闇魔はもう見抜き
字の乱れ嘘がはつきり見えている
露天風呂みえみえですかお月様
みえみえの嘘はつきたくない返事
手品してふやしてみたい札の束
嫁が来たこれも手品のお陰かな
小説は言葉使いの手品箱
オミクロン手品みたいに变化する
マジシャンのように赤字をさばく妻
マジックで今年はウサギ飛び出すか
いくつもの修羅場くぐってきた手品
鏡台の前で毎朝する手品
地球から手品で消して欲しい武器

欣之 稲佐嶽 蛙鳴

悪知恵はわたしも好きと脳が言う
黒塗りの脳が付度ばかりする
物忘れ行きつく先は認知症

洋子 回春子 賢悟

大鯨 凱柳

道春 由紀子

みえみえのお世辞が皮肉にも聞こえ
みえみえの嘘を見逃す神もいる
みえみえの世辞を闇魔はもう見抜き
字の乱れ嘘がはつきり見えている
露天風呂みえみえですかお月様
みえみえの嘘はつきたくない返事
手品してふやしてみたい札の束
嫁が来たこれも手品のお陰かな
小説は言葉使いの手品箱
オミクロン手品みたいに变化する
マジシャンのように赤字をさばく妻
マジックで今年はウサギ飛び出すか
いくつもの修羅場くぐってきた手品
鏡台の前で毎朝する手品
地球から手品で消して欲しい武器

宏章 昌鼓 茶人

今切に生きねば明日はわからない
明日食べる米があるなら大丈夫
明日から変わるつもりで書く日記
明日は明日今日の仕事は残さない
明日でよい頼まれごとが気にかかる
何んだって明日かホントか助かった
ちっぽけでも明日には明日の夢がある
明日で終る恋ですレモン囁んでいる
今日は今日明日もきつと陽は昇る
明日まで待つて見ようか福来そう
自販機が律儀に毎度アリガトウ
礼節のことは薄れて世は乱れ
美しい立ち振る舞いに見る礼儀
おはようが二人暮らしのプロローグ
テーブルマナー緊張しすぎ味忘れ
言い訳は後からまずスミマセン

朝子 里子 満作 廣子 富夫 久仁雄 瑠美子 志津子 光雄 五月 佳子 萌

完司 醉芙蓉 照彦 紀美恵 節子 鬼一 重忠 風露 雄大

道春 由紀子

みえみえの世辞が皮肉にも聞こえ
みえみえの嘘を見逃す神もいる
みえみえの世辞を闇魔はもう見抜き
字の乱れ嘘がはつきり見えている
露天風呂みえみえですかお月様
みえみえの嘘はつきたくない返事
手品してふやしてみたい札の束
嫁が来たこれも手品のお陰かな
小説は言葉使いの手品箱
オミクロン手品みたいに变化する
マジシャンのように赤字をさばく妻
マジックで今年はウサギ飛び出すか
いくつもの修羅場くぐってきた手品
鏡台の前で毎朝する手品
地球から手品で消して欲しい武器

宏章 昌鼓 茶人

今切に生きねば明日はわからない
明日食べる米があるなら大丈夫
明日から変わるつもりで書く日記
明日は明日今日の仕事は残さない
明日でよい頼まれごとが気にかかる
何んだって明日かホントか助かった
ちっぽけでも明日には明日の夢がある
明日で終る恋ですレモン囁んでいる
今日は今日明日もきつと陽は昇る
明日まで待つて見ようか福来そう
自販機が律儀に毎度アリガトウ
礼節のことは薄れて世は乱れ
美しい立ち振る舞いに見る礼儀
おはようが二人暮らしのプロローグ
テーブルマナー緊張しすぎ味忘れ
言い訳は後からまずスミマセン

朝子 里子 満作 廣子 富夫 久仁雄 瑠美子 志津子 光雄 五月 佳子 萌

完司 醉芙蓉 照彦 紀美恵 節子 鬼一 重忠 風露 雄大

道春 由紀子

みえみえの世辞が皮肉にも聞こえ
みえみえの嘘を見逃す神もいる
みえみえの世辞を闇魔はもう見抜き
字の乱れ嘘がはつきり見えている
露天風呂みえみえですかお月様
みえみえの嘘はつきたくない返事
手品してふやしてみたい札の束
嫁が来たこれも手品のお陰かな
小説は言葉使いの手品箱
オミクロン手品みたいに变化する
マジシャンのように赤字をさばく妻
マジックで今年はウサギ飛び出すか
いくつもの修羅場くぐってきた手品
鏡台の前で毎朝する手品
地球から手品で消して欲しい武器

宏章 昌鼓 茶人

今切に生きねば明日はわからない
明日食べる米があるなら大丈夫
明日から変わるつもりで書く日記
明日は明日今日の仕事は残さない
明日でよい頼まれごとが気にかかる
何んだって明日かホントか助かった
ちっぽけでも明日には明日の夢がある
明日で終る恋ですレモン囁んでいる
今日は今日明日もきつと陽は昇る
明日まで待つて見ようか福来そう
自販機が律儀に毎度アリガトウ
礼節のことは薄れて世は乱れ
美しい立ち振る舞いに見る礼儀
おはようが二人暮らしのプロローグ
テーブルマナー緊張しすぎ味忘れ
言い訳は後からまずスミマセン

朝子 里子 満作 廣子 富夫 久仁雄 瑠美子 志津子 光雄 五月 佳子 萌

完司 醉芙蓉 照彦 紀美恵 節子 鬼一 重忠 風露 雄大

道春 由紀子

みえみえの世辞が皮肉にも聞こえ
みえみえの嘘を見逃す神もいる
みえみえの世辞を闇魔はもう見抜き
字の乱れ嘘がはつきり見えている
露天風呂みえみえですかお月様
みえみえの嘘はつきたくない返事
手品してふやしてみたい札の束
嫁が来たこれも手品のお陰かな
小説は言葉使いの手品箱
オミクロン手品みたいに变化する
マジシャンのように赤字をさばく妻
マジックで今年はウサギ飛び出すか
いくつもの修羅場くぐってきた手品
鏡台の前で毎朝する手品
地球から手品で消して欲しい武器

宏章 昌鼓 茶人

今切に生きねば明日はわからない
明日食べる米があるなら大丈夫
明日から変わるつもりで書く日記
明日は明日今日の仕事は残さない
明日でよい頼まれごとが気にかかる
何んだって明日かホントか助かった
ちっぽけでも明日には明日の夢がある
明日で終る恋ですレモン囁んでいる
今日は今日明日もきつと陽は昇る
明日まで待つて見ようか福来そう
自販機が律儀に毎度アリガトウ
礼節のことは薄れて世は乱れ
美しい立ち振る舞いに見る礼儀
おはようが二人暮らしのプロローグ
テーブルマナー緊張しすぎ味忘れ
言い訳は後からまずスミマセン

朝子 里子 満作 廣子 富夫 久仁雄 瑠美子 志津子 光雄 五月 佳子 萌

完司 醉芙蓉 照彦 紀美恵 節子 鬼一 重忠 風露 雄大

道春 由紀子

みえみえの世辞が皮肉にも聞こえ
みえみえの嘘を見逃す神もいる
みえみえの世辞を闇魔はもう見抜き
字の乱れ嘘がはつきり見えている
露天風呂みえみえですかお月様
みえみえの嘘はつきたくない返事
手品してふやしてみたい札の束
嫁が来たこれも手品のお陰かな
小説は言葉使いの手品箱
オミクロン手品みたいに变化する
マジシャンのように赤字をさばく妻
マジックで今年はウサギ飛び出すか
いくつもの修羅場くぐってきた手品
鏡台の前で毎朝する手品
地球から手品で消して欲しい武器

宏章 昌鼓 茶人

今切に生きねば明日はわからない
明日食べる米があるなら大丈夫
明日から変わるつもりで書く日記
明日は明日今日の仕事は残さない
明日でよい頼まれごとが気にかかる
何んだって明日かホントか助かった
ちっぽけでも明日には明日の夢がある
明日で終る恋ですレモン囁んでいる
今日は今日明日もきつと陽は昇る
明日まで待つて見ようか福来そう
自販機が律儀に毎度アリガトウ
礼節のことは薄れて世は乱れ
美しい立ち振る舞いに見る礼儀
おはようが二人暮らしのプロローグ
テーブルマナー緊張しすぎ味忘れ
言い訳は後からまずスミマセン

朝子 里子 満作 廣子 富夫 久仁雄 瑠美子 志津子 光雄 五月 佳子 萌

完司 醉芙蓉 照彦 紀美恵 節子 鬼一 重忠 風露 雄大

道春 由紀子

みえみえの世辞が皮肉にも聞こえ
みえみえの嘘を見逃す神もいる
みえみえの世辞を闇魔はもう見抜き
字の乱れ嘘がはつきり見えている
露天風呂みえみえですかお月様
みえみえの嘘はつきたくない返事
手品してふやしてみたい札の束
嫁が来たこれも手品のお陰かな
小説は言葉使いの手品箱
オミクロン手品みたいに变化する
マジシャンのように赤字をさばく妻
マジックで今年はウサギ飛び出すか
いくつもの修羅場くぐってきた手品
鏡台の前で毎朝する手品
地球から手品で消して欲しい武器

宏章 昌鼓 茶人

今切に生きねば明日はわからない
明日食べる米があるなら大丈夫
明日から変わるつもりで書く日記
明日は明日今日の仕事は残さない
明日でよい頼まれごとが気にかかる
何んだって明日かホントか助かった
ちっぽけでも明日には明日の夢がある
明日で終る恋ですレモン囁んでいる
今日は今日明日もきつと陽は昇る
明日まで待つて見ようか福来そう
自販機が律儀に毎度アリガトウ
礼節のことは薄れて世は乱れ
美しい立ち振る舞いに見る礼儀
おはようが二人暮らしのプロローグ
テーブルマナー緊張しすぎ味忘れ
言い訳は後からまずスミマセン

朝子 里子 満作 廣子 富夫 久仁雄 瑠美子 志津子 光雄 五月 佳子 萌

川柳ふつもん吟社(鳥取)山下
十兩へスピード出世あつとろし
あつとろし生命線が消えて無い
月満 八千代

鏡台の前で毎朝する手品
地球から手品で消して欲しい武器

由紀女 勝 無一

今切に生きねば明日はわからない
明日食べる米があるなら大丈夫
明日から変わるつもりで書く日記
明日は明日今日の仕事は残さない
明日でよい頼まれごとが気にかかる
何んだって明日かホントか助かった
ちっぽけでも明日には明日の夢がある
明日で終る恋ですレモン囁んでいる
今日は今日明日もきつと陽は昇る
明日まで待つて見ようか福来そう
自販機が律儀に毎度アリガトウ
礼節のことは薄れて世は乱れ
美しい立ち振る舞いに見る礼儀
おはようが二人暮らしのプロローグ
テーブルマナー緊張しすぎ味忘れ
言い訳は後からまずスミマセン

朝子 里子 満作 廣子 富夫 久仁雄 瑠美子 志津子 光雄 五月 佳子 萌

川柳塔さかい(大阪)

内藤

憲彦報

万紗子 憲彦

庭の花先ず真つ先に仏様

扶美代

ルファイ事件うやむやにならないうやむやの上にあぐらをかく平和

美津子

貸したカネ忘れられては困ります

進

2類を5類に落とし自己責任

憲

白黒を時がグレーに変えてゆく

(江)勝弘

うやむやの最たる言葉遺憾です

満知子

礼儀良さこの子はきつと偉くなる

蕉子

表札に一札をして雨宿り

清

お互いに傘傾ける狭い露地

和夫

ポケットの手を出さないお供でしよ

ひろ子

髪切った訳を聞かないのが礼儀

敏治

難聴を無礼者だと誤解され

玄也

礼儀などかなぐり捨ててハプニング

時雄

月あかりバラの花東君のもと

楓楽

束の間の場末のバーで気を休め

じゅん子

罪ひとつばらし和ます今日の酒

(田)勝弘

月の地に万国旗立つ近未来

世紀子

恙無く馬齢重ねて喜寿の初春

恵子

いさお

筆初め三日坊主の抱負書き

鶴なら

吉報とわかる明るい声がする

美智子

スタートは母の生真面目笑った句

爽也

はどほどを酔うてここから面白い

次郎

婆ちゃんの可愛い声もしわがある

恵

天国の出発便に乗り遅れ

よしみ

和男

政夫

ひな祭り内裏様だけ飾る今

景子

おとほけの顔した羅漢きつと亡父

一彌

おとほけも磨きかければ芸の内

弘光

とほけないでと亡母叱った深い悔い

淳司

サザエさんいつも愉快に都合ボケ

園子

団塊世代昭和支えた自負がある

清乃

軍事化に戦時の昭和よみがえる

克三

川柳de遊ぼう会(大阪) 石田

孝純報

神様はいると信じる初日の出

(阪)恵子

スタートはコーヒー ゴールは熱帯

晋一

もし明日逝つてもいいとふと思う

幸徳

はばかりと思うマスクのない世界

喜美子

へそくりはもしもの時の手切れ金

敏郎

久々の新年会の恵比須顔

はるみ

産声をあげれば待つていた格差

雅美

「ごめんね」と言った背中が坂に消え

えみこ

スタートはしたけど先に道がない

てるひこ

リスタート団塊世代よく走る

満知子

筆初め三日坊主の抱負書き

康雄

鶴ならと言いつくばかりするアヒル

美智子

吉報とわかる明るい声がする

爽也

スタートは母の生真面目笑った句

次郎

はどほどを酔うてここから面白い

恵

婆ちゃんの可愛い声もしわがある

よしみ

天国の出発便に乗り遅れ

和男

政夫

和男

泣けるだけ泣けばいいよと母の声

のり子

コロケもパンも小さくリニューアル

(岡)恵子

未練たらたらたればの食あたり

孝純

川柳塔なら

大久保眞澄報

ブレゼント値切り孫から総すかん

行久

見返りがなければつき合いはしない

すみれ

不祥事にトップにわかに失言症

よう子

エコエコこの寒いのにせこすぎる

恭昌

詰め放題破れたところ手で隠す

隆一

もつともつとせこくしなさい防衛費

楓楽

空つ風わたしの財布縮ませる

みつこ

健診の度に身長が縮む

いさお

冬の雨冷えた身縮め傘の下

弘子

寒波到来寢床の中で縮こまる

羅天

手洗いを忘れ形見のカディガン

武人

雨宿り弾む会話に縮む距離

和郎

うっかりとセーターまわす洗濯機

朝子

身長測定縮んだ分は背伸びする

げんい

影までも縮む私になつて

ダン吉

6Bはちっちゃくなるの早すぎる

勝弘

生き延びて縮む大志に活を入れ

富子

縮み込む明るく生きて悲なし

昭

縮んだ手握りあつて同期会

敬子

伸び縮み自由にできる心持つ

ゆきみ

ぎくしやくに大なた振るう者居らず

和夫

和夫

和夫

ぎくしゃくも縄のれんから戻る笑み
知事さんとぎくしゃくしてるリニアカー
ぎくしゃくと我もドアも油切れ

ふりこ
定生

自由化で客奪い合うガス電気
バトルした息子優しいパパとなる

貫一

ミサイルのバトル句わす北のドン
嫁姑バトルにならぬ冷めた距離

ひろ子

もう一人の自分とバトルする自分
バチバチとマスク美人の目が交差

江里子

骨肉のバトル醜い遺産分け
従順だった妻の仕掛けてくるバトル

則彦

四天王バトルの邪気を取り押さえ
生きがいと今日もバトルの嫁姑

良岩

老い二人たまのバトルはボケ防止
薫

寿之

崇明
克己

理恵

負けてこそこの憲法とこの自由
大好きよだつてあなたはお金持ち

元氣

優しさを拒む野生の猜疑心
イメージ通りにならない事が人生や

藤浪

天国で高倉健と腕を組む
初詣で願いのあとに愚痴少し

葉う

おだやかに毎日暮らすだけでいい
日銀さん下取りさせて印刷機

独裁者

二十八年前の今日のレクイエム
想像を絶するウクライナの冬

ブラボー

プーチンよ「戦争と平和」読んでくれ
三ツ代

純子

のんびりの時間探した子育て期
古稀過ぎて徐々に日向のネコになる

洗濯物

のんびりと過ぐす夫のおさんどん
のんびりと暮らせた筈の預金高

直子

ローカル線旅のお供は文庫本
春代

蟹柳

お爺さん気楽すぎると呆けまっせ
するしないご自由ですと寄付をさせ

弁当

何しよう妻に聞いたらどうでもしい
負けてこそこの憲法とこの自由

雄太郎

健二
廣光

宗鉄

哲夫
修平

喜久子

正和
真桜子

祐康

和郎
ひとみ

洋一

博
美津子

千賀子

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見
柳歩報

柳歩報

針の毛のブラシで妻を洗おうか
曇天をブラシで刷いて逃す鬱

小鹿

大空にワタシの夢を描くブラシ
山ガール今は眺めるだけで良い

美智子

そのままでいいよ自然な脚線美
不自然に流れるダリの砂時計

奏子

グータラは自然のままの常溫酒
混乱の生身一夜でニット帽

知恵子

一波乱あつて互いの事情知る
温暖化地球を乱し人が泣く

柳歩

おさむ
勝弘

敏夫

義徳
徹

重男

俊昭
俊修

一子

重男
俊昭

俊修

俊修
武彦

好文

玲子
几代

美智子

美智子
奏子

知恵子

柳歩
芳山

徳利

徳利
とも子

豊仙

あきら

乱気流果敢に向かうプロジェクト
ママの乱三日続きのノーマイク
カミさんの乱かも知れぬ酒が無い
情熱が冷めそう初心思い出す
熱が冷め後に残った拗けネジ
淋しいと買物したい病になる
特賞が出るまでガチャガチャを回す
「ワタクシ」は優雅に泳ぐ熱帯魚

川柳花の輪(大阪) 川本 信子報

昭和史の動画を見ては憂う今
じいばあが孫の動画で年を越す
スノボの若い動きに見惚れてる
辛いときかはってて惚れなます
爺さんが席をゆずって胸を張り
かわいね人より犬に惚れてます
戦争も動画を見ればゲーム感
世界まるごとリアルタイムで見る動画

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

取りあえず優勝願う虎ファン
共白髪うさぎと亀の時を生き
平和な世夢みて跳ねる月うさぎ
ロシアへは飛びたくないと渡り鳥
結局はご縁人との良い出会い
持ち歌は昭和名残りの古い歌

ビル モナカ 弘 充 青 帆 吹 喜 武 人 雪 代 泰 子 やすの 和 織 亜 成 博 泉 笑 子 正 太郎 信 子 新 録 盛 夫 恵 美子 恭 子 敏 子 富 次

指一本さりと飛ばすかるた取り
満願日おいづる見事朱に染まる
勢いで諭吉を入れたお賽銭
自衛隊災害救助平和です
阪神の岡田が願うのは「アレ」や
八百万の神も寿ぐ初日の出
諷刺画をさらりと書いたパンクシー
道を聞くのはイケメンと決めている
雪解けて土砂も崩れる年明けに
南天の赤で仕上げる雪ウサギ
人生の最終章はまだ白紙
美味しいと言うまで酒が出てこない
処理をしたさらさら砂で子は遊ぶ
耳を立てしつかり世相見てくらす
おみやげはかわいい方言孫帰省
兎ほど跳ねる足腰ほしいです
新雪に足跡残しコンビニへ
新年の抱負ひとつを抱きしめる
お茶入れてくれる夫にまず感謝
お友達のままでとさらり躲される
ふるさとと兎のいない山となり
大阪人雪が降ったと騒いでる
いつの間にさらりと増えた防衛費

柳 柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

黒星のあとと白星きつと来る

野 鶴 ばっは 野 薫 正 良 種 和 宏 宏 造 利 子 みよし 真 桜子 廣 光 靖 夫 ゆきみ 千 賀子 邦 男 隆 一 敦 子 紀 乃 ひとみ 武 彦 勝 弘 宗 鉄 博 泉

孫ひ孫十三人のお元旦
鈍にんを脱ぐ少年の目の光
生きがいは小さい庭の二三輪
円座編むあなたのそばにいたいから
くす玉がシナリオよりも早く割れ
恵まれて感謝の花が咲いている
重篤の病完治の退院日
白星で結果を見せた猛稽古
白星白星とブレッツシャーWBC
僕の人生七勝八敗御の字だ
白星は一つと決めて初詣
白星が金星となる初土俵
この人生白星の日もあるだろう
寝坊して中天の初日を拝む
年賀状あいつこいつの顔に見え
老婆とたつた二人で祝う屠蘇
元日に縁組み吉を引く米寿
初詣みんな生きてとウクライナ
老いの愚痴焦点ずらし餅を焼く
心して暮らし生命線延ばす
少子化対策無園児を先ず救え
どんな夢見てもいい国平和です
剪定の松に生きてくる父の息
蛭梅の香の連れてくるちさい春
当たらない予感するけどくじを買う
友情にもメンテナンスは必要だ

一 歩 欣 之 かすみ 千 鶴子 武 人 高 志 壽 峰 高 鷲 信 子 勝 弘 美 砂子 千 賀 銀 杏 かずお 篤 いさお 鈍 甲 ルイ子 郁 夫 賢 子 亜 成 常 男 あかり 朝 子 泰 子 順 子

断捨離をしたものばかり探してる
いっぱしの論ありげなり曲げわっぱ
みな元気が一番いい流れ

わかやま吟社

松原 寿子報

楽な道遊びばちばち生きている
断捨離をしようお空が近くなる
朗らかな百まで生きるばちばちと
正論がその他の中で眠ってる
居心地が良くてその他に甘んじる
その他多数にご油断召されるな
本業の他で稼いでいるらしい
風を読み予備の選択しておこう
ロボットが愛想笑いをするまさか
終章の老いはまさかの粗大ごみ
平均点私が下げておりますの
夫婦です平行線を交差させ
妥協という形へ海が風だした
平仮名のやさしさついに騙される
月並みの挨拶心響かない
武器供与世界平和が崩れ去る
才能なし平らな道を歩きます
あつさりとその他扱い一括り
その他から光る原石見極める

川柳藤井寺(大阪)

鈴木いさお報

ストープにあたたためて出すラブレター
瑠美子

寒い夜はストープ囲み国自慢
逃げ道を見つけておいてから勝負
言い出せずストープ弄ってばかりいる
不正見つけ糺す勇気をふり絞る
ふんわりと春を見つけた露の臺
物価高練炭ストープ見直され
ストープ列車きつと治も乗っている
いい店を見つけた秘密基地にする
ストープに熱燗が待つ急ぎ足
君子蘭の蕾見つけて春近し
イヤな奴誤字だ誤字だと言いたがり
常日頃無口な人の暖かみ
山頂の薪のストープほつとする
ストープのするめが旨い北の旅
へそくりの隠し場所なら冷蔵庫
散歩道岸を見つけた帰り道
豪雪にストープ列車悔しがる
天神様の絵馬に見つけた誤字脱字

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

着弾に空しく散った戦火の子
大当たりだったと思う妻選び
年金が二倍になった夢を見た
浅い眠り暗いニュースの続く夜
七人の敵を倒してニヤリ白昼夢
当たりそう笑顔で車すり抜ける

夢破れ敗残兵が帰る里
浅はかな考えいつかだめになる
あれも夢これも夢では味気ない
知恵袋浅くてすぐにこぼれ出る
初夢は郵便局で転んでた
浅知恵がずばりと的を射る不思議
浅知恵を知られたくない口チャック
ささやかな幸せ夢で会いましょう
土俵入りの稽古もしてるちゃんこ番
歳なのか五時間寝れば目が覚める
ほめ言葉真に受けるのもまだ浅い
ヒロインは私夫婦というドラマ
ヒロインもヒーローも居る保育園
ヒロインも今じゃ持ちのお母ちゃん
ヒロインになれぬ蹟きタイエット
すべて白紙この一年にかけてみる
定年と留年我が家大当たり
傷浅いうちに撤退する勇氣
ヒロインを娶って主夫に甘んじる(矢)五月
我が家に来て来た婿殿は大当たり
女子マラソン明日はどなたがヒロインに
ヒロインも老いの首筋隠せない
潮が引くチャンス逃がさず貝を掘る
ご近所の浅い付き合い会釈する
幸せは続きましたかシンデレラ
若い日は夢見る夢子さんだった

志津子
いさお
一歩
里子
真桜子
龍

克己
廣子
さくら
満知子
憲彦
久仁雄
宏造
芳香
まつお
勝弘
俊雄
萌
寿之
敏明
ふりこ
美籠
ばつは
直子

年末は億万長者の夢がち
いい夢の真つただ中で妻が呼ぶ
親の氣を読めぬ私は罰当たり

陽 一
猛 裕 之

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

「香り」より「かほり」が似合うシクラメン
香水が悲しい過去を匂わせる
馳走あとにはご飯と香の物
移り香のしみたハンケチ返せない(松)
石鹸の香りが隠す罪ひとつ
土の香が一杯無人販売所
夏の香がほのかに残る麦帽子
大の字で嗅ぐ張り替えた量の香
鍋肌にトロリ仕上げのゴマ油
ストックが香る窓辺のビバルディ
残り香に顔を埋めて泣いた日よ
命令はイヤお願いなら聞きます
動け足! 動け指よ! と揉み叩き
妻命令素直に聞ける歳となり
軽く命令もパワハラと騒ぎ立て
コロナ禍の自分に課して日々散歩(長)
免許返納家族全員下知をされ
上意下達令和の世にも吹き抜ける
車内ですこは楽屋じゃありません
命令に叛いた果ての杉の死
命しても猫も娘の馬耳東風

いさお 千代 洋二 敏子 常男 保州 和郎 北朗 蕉子 里子 灯子 志津子 心平太 郁夫 麻也 敏子 高鷲 緑 穴道 紀子 勝久

命令に叛いて国を捨てました
ノーマイクの方がきれいな娘さん
岡田はんメイクドラマを頼みます
反戦の眉チャップリンのメーキャップ
エンディングメイクで母にありがとう
長嶋のメイクドラマもセピア色
金出せば子供増えると思つて
正月はおせち高くてカップ麺
コロナ禍はきつと人災だと思ふ
連立も宗教絡み金絡み
太陽光パネル破損で汚染米
これ以上増やしたくない献花台
強盗の求人欄もあるネット
武器供与終りが見えぬウクライナ

命 己 克 己 康 信 栄 子 寿 子 (川) 信 子 (河) 正 直 子 善 之 文 擴 正 康 冬 の ト 公 輔 眞 澄 福 貴 子

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

無作法にネットの世界絡みつく
激化する世界どうする国連は
お祈りすると心が凧いでくる
最大の祈り千人針と言う
広島は世界に知らず義務がある
華やかな恋の末路は塗れ落葉
ご祈祷に神妙な顔七五三
鎮魂の灯はゆらゆらと神戸の夜
世界中仲よくしたい鮎あげる
ダリの絵の中で音符が踊つて

英 夫 あさ子 珠 子 ダン吉 英 夫 義 泰 節 子 親 典 政 雄 香 代

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

口上を考えている花の道
ボケ防止今日も元氣に口喧嘩
口あけて無痛を折る歯科治療
なんべんでも災い起こす俺の口
乳飲んだ口が物言う反抗期
災いも慰めもある口ひとつ
ヘンクリの口座はゼロが乱高下
口惜しいがお迎えがくる歳となる
口上もむなし陥落二大関
おちよは口きつとオペラは無理だろう
ため口を男氣という勘違い

恵 子 航 太 郎 和 美 辰 美 明 敦 己 恭 子 智 三 喜 代 志 五十美 規 子 子 タカ子 ひろ子 ヨシエ 楓 華 れい 香 勝 弘 新 録 初 音 龍 柳 明 修 平 (入) 紀 華 真 桜 子

口数の多い者から逃げていく
非常口見つけて眠る旅の宿
億や兆政治家軽く口にする
口紅を落として女から母へ
平和は戦争の愚かさを知る
言論の自由認める性差別
チャイム鳴り出ればやんちゃが逃げて行く
ユタンポをだいて孤独を温める
久々に和む女子会紅茶の香
売りの笑顔を消したマスク顔
あれほどの物議の五輪でも不正
ケチな奴人に内緒で寄付続け
適当に妻は作っているらしい
この指輪実は阪神質流れ
実は俺CIAと言いつた
じつはボク人と強調できません
妙齢の美人が隠す喉仏
大豪邸借金のカタ入ってる
七日目の子の救出に涙する
一期一会の縁で済まぬ人だった
逃げて出た筈の故郷が懐かしい
八十歳お医者さんから逃げられず
逃げ道を残して叱る母心

大山滝句座(鳥取)

新家

完司報

幸子

大雑把に笑ってすんだいい昭和
そう言うが上手に貼れぬカットパン
雑巾を絞るように値上げラッシュ
夢と野望振り振って解けない
休脳日大仏さんと浮雲と
人間を振り潰したのは戦
錆びた脳支えてくれる電子辞書
たるんでる脳に激辛キムチ鍋
眠れない右脳は推考が続く
挨拶は簡単にして下さいネ
簡単にもうすぐ死ぬと言わないで
認知とは脳の休息と考え
天才の遺伝子移植無いものか
脳の丘すみれタンポポさくら咲く
脳はいま半熟卵状である
ミサイルをオムレッツに入れ廃棄する
まだ死んでいないと告げる脳波計
テニス戦足を振じって球追えず
昭和の子胸を痛めるフードロス
順調に縮んでいると脳ドック
遮断機が上がり脳から記憶出る
悪いけど俺の根性ねじれてる
老い独り廃棄もできぬ客布団
世を捨てて生きた放哉山頭火
鬱の字を春一番に投げ棄てる

紫陽 順子 寿代 七七 紀子 楓花 八千代 由紀子 くにこ けいこ 久子 稀楽良 コスモス 熊四郎 芳山 寛 正人 ゆたか 余光 紀の治 小鹿 清明 重忠 規雄 完司

六甲川柳会
翫平は称賛浴びて尚謙虚
のどかな日もあって人生どまん中
一・二七浴びた炎を語り継ぐ
放射能浴びせた国と友でいる
銃殺犯密かな称賛浴びており
共白髪たまに喧嘩も悪くない
日の暮れぬうち生きてるうちと好きな事
おはようの返事で測る今朝の距離
連れ添うて後姿があたたかい
ころがけ迷惑かけずに生きること
母になる娘こんなに美しい
視線浴びあの子綺麗になりはった
夢で会う亡母は白い割ぼう着
決めませんいつか自然に決まるから
買ってでもする苦勞もう売ってない
飲み放題浴びる程飲むウーロン茶
お寒い思わず背すじシャンとする
ほつというて妻が選んでくれました
嫁さんが好んで息子変えたらし
三代ともポッチャリ型を嫁にする
まだ行ける免許更新せよと妻
容姿より優しい人が僕は好き
浴びるほどオンザロックで森伊蔵

和郎報 正美 迪 千賀子 廣光 洋次郎 盛夫 美恵子 次郎 栄 克美 ひとみ 利恵子 真桜子 和宏 祐一 隆浩 崇史 健二 すみ子 和郎 勝弘 宏 博

やしろべえだつて好みに加担する
悲しいと小さくなつてゐる姿

恭子 敦子 武彦

白無垢を自分の色に染めた妻
別れ来て日記の面は白いまま
旨い寿司動画でもめて不味くなる

健二 玲子 憲央

喜怒哀楽分け合つて来た金婚譜
緑児の産声ころもな白い

いさお 玲子

老いたは言うな突張り生きて楽しんで
夫婦共好みが似てて平和です

弘子 利子 道子

保護色で獲物を狙うカメレオン
赤白黄黒でも食べる洗濯機
春風に乗つてわたしを解き放つ

野鶴 敏昭 ヨシエ

始まりは君の笑顔の一撃で
揉め始める気配階段上がる音
鯨へと叩く冬の涙雨

道子 恭子 義明

青い空青田の中を飛ぶ燕
ウインドーに写る姿に背を伸ばす

美津子 邦男 狸月

SNS 騙しの手先になつてゐる
胃と口は心技体より元氣です
白寿超えまだいけそうと祖母げんき

英旺 満作 哲男

伸びる芽のカットに迷う花鋏
冬の日も君の傍なら春になる
ここだけの話ほかでもするおばちゃん

美恵子 敦子 義明

梅薔日毎のどかに花開く
昼下りのどかな音色ハーモニカ

憲央 弘華 正和

気がかりなコロナ五類でいいのかい
へアドネーション頼みます待つてます
白銀も時には牙を剥く雪崩

敏治 美津子 勝弘

飛びなさい蝶糸は切りました
頼むことだんだん増える初もうで
涙腺も弛み始める老化かな

隆浩 千賀子 崇史

春の足音のどかな音でやつてくる
一文にもならぬ喧嘩はしないこと

公輔 光久 哲男

小手毬の白出合いの日別れの日
恵方巻君のいる方見て食べる
いいことがありそう今日は遠回り

奏子 眞澄 正彦

ゆるりゆるり老々介護ことはじめ
まだまだと我慢した辞書買い替える
若いのにいつも控え目聡太くん

次郎 武彦 和宏

会心の一句選者に恵まれず
豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

哲男

会話にも余白を入れた良いリズム
真つ白な歯からこぼれるいい話
常節の値札アワビと書いておく

則彦 洋志 武人

終活を彩る他人のため少し
認めたらこんなに息が楽になる
始めたら止めれなくなる五七五

弘子 ひとみ 利子

立ち往生ホワイトアウトの怖さ知る
染められて疑心暗鬼になる白地

多美子 眞理子 勝久

何もかもちゃんとふたつに分けました
今になって母を騙した悔いがある
哀楽を半分こして尉と姥

ひとみ 則彦 洋志

居るだけで家に温もりつくる母
月は未だ神秘なままで見上げたたい
初めて分かる君と釦の掛け違い

洋次郎 すみ子 弘子

知つたよそれでも許す白い月
定年は道程半ば鞭打つて

英三 武彦 晴子

乙女座を支配しながら生きている
幸せのふりなら私演技賞

黒兎 きらり すゞ代

お迎えはまだまだ不要まだ白寿

美津子 和郎

マスクなし互いの顔を二度見する

晴子

幸せのふりなら私演技賞

すゞ代

初めて分かる君と釦の掛け違い

和郎

藤井君ブーチン詰める手はあるか
 カットした妻に気付かず一週間
 困ります仏みたいにはやられて
 後期です今日も正午あふくります
 今年こそA R Eに期待のタイガース
 五日から新年会行ききました
 気持ちだけはまだまだ若いつもりです
 独特の切り口で語る評論家
 食費カット協力します腹八分
 まな板にキャベツカットのいいリズム
 ステーキも一口サイズにして貰い
 パソコンを妻が始めて通じ合う
 初えびす人のお尻を拝んで来
 今年こそアレを頼むよ岡田さん
 徒歩10分近場で済ます初詣

岸和田川柳会(大阪)(前月分)石田ひろ子報

お祈りをする心が風いでくる
 仏像に両手をそえて祈るまね
 鎮魂の灯はゆらゆらと神戸の夜
 ご祈禱に神妙な顔七五三
 華やかな恋の末路は濡れ落葉
 最大の祈り千人針と言う
 激化する世界どうする国連は
 広島は世界に知らず義務がある
 無作法にネットの世界絡みつく

盛夫 邦男 祐一 健二 正美 勝弘 弘華 利恵子 狸月 正和 光久 哲男 洋一 博

英夫 英夫 あさ子 ダン吉 義泰 節子 親典 辰美 珠子

井笠川柳会 第21回笠岡大会

と き 5月27日(土) 9時開場

投句締切 11時30分

と ころ 笠岡市保健センター(ギャラクシーホール)

開 会 式 13時～

◎第1部 事前投句「水」(2句)

選者 北川拓治 鴨田昭紀 恒弘衛山

賞 品 3選者の選んだ天位句の内から句碑獲得句

1基を決定

応募方法 住所氏名柳名(ふりがな)電話番号所属柳社
 を明記して、投句料1000円と共に送付。
 未発表作品に限る。

投句締切 4月28日(金)

投 句 先 〒714-0081 笠岡市笠岡2289

井笠川柳会宛

TEL・Fax 0865-62-6200

◎第2部 当日投句(各題2句)

「妻」 矢沢和女 選 「色」 新家完司 選

「鏡」 西出楓楽 選 「神」 小島蘭幸 選

席題 高木勇三 選

参 加 費 2000円(弁当・発表誌・記念品呈)

欠席投句拝辞

主 催 井 笠 川 柳 会

フレッシユに心根高く八十路往く
 故郷に昔の音を聴きに行く
 建前と本音が違うやさ男
 ダリの絵の中で音符が踊ってる
 幸せの音色聞く為耳そうじ
 どの地にも軍靴響かぬよう祈る
 二人から一人になった水の音

敦己 恭子 香代 恵子 航太郎 智三

久し振りみんなで歌う音たのし
 キッチンに母の世界が半世紀
 靴音で誰かとわかる母でした
 無事折り千人針を縫った日も
 新成人羽織袴でフレッシユに
 こだわりを捨てれば世界中和

五十美 和美 規子 喜代志 タカシ ひろ子

柳界展望

化祭誌上大会。同人・誌友成績。
大竹市教育委員会賞

永見 心咲

★第六十九回 葉（ひこばえ）句碑獲得者・年間賞成績発表。同人成績。

大竹市文化協会会長賞

句碑獲得者 永井 松柏

村上 和子
出て行けと言えは本当に出て行つた

らせる

石板獲得者 居谷真理子

★第63回全国鉄道川柳人連盟・岡山大会。同人成績。

兼題「ワンマン」

課題「今日」

上野悦子選

天 小島 蘭幸

終電車とても豊かな日であつた

★令和4年度 大竹市文

石市文芸祭。同人成績。

新同人紹介

〒799-12209

今治市大西町別府630

安野のかか志

— 松柏・忠士推薦

議長賞

富永 恭子
大らかに許すあなたに負けました

▽訂正とお詫び△

取市）2月22日逝去。享年83。
京田辺市 加山 勝久
紹介者 鈴木いさお
高石市 田原 勝弘

神戸新聞社賞 穂谷 和郎

透き通る青空嘘はもうつけぬ

▽出版△

『合同句集 ろっこうみちⅢ』（B6判、128頁）。六甲川柳会15周年記念として3月31日発行された。

▽新誌友紹介△

大阪市 桑原すゞ代

大阪市 山下じゅん子

大阪市 田中 爽也

大阪市 平井美智子

④定例確認事項
次回常任理事会4月10日（月）AM10

令和5年度きぬうら川柳大会

誌上の部 課題と選者（2句詠）共選
『新』 相田 柳峰 選
木本 朱夏 選
新家 完司 選
猫田千恵子 選

投句締切 5月19日(金) 必着

投句料 1000円

投句方法 所定用紙または便箋などに郵便番号・住所・氏名・電話番号・当日の部の出欠を明記。投句料共にご送付ください。（清記選）

投句先 〒475-0828

半田市瑞穂町4-3-17

木原 恵子 宛

TEL・FAX 093-621-6570

発表 川柳きぬうら 7・8月号誌上

問合せ先 猫田千恵子

TEL 0569-21-4399

主催 川柳きぬうらクラブ

ひらた川柳会 会報150号記念川柳大会

日時 5月7日(日) 11時半開場
会場 平田コミュニティセンター
 出雲市平田町911
兼題 (各題2句吐)
 「舞 う」 眞野 吞舟 謝選
 「吞 気」 門脇かずお 選
 「時 代」 長谷川博子 選
 「パラダイス」 新家 完司 選
開演 12時50分
講演 13時
 「出雲を彩る作家たち」 岡部 康幸
会費 500円(発表誌呈)
投句 お手持ちの句箋の右上に兼題を書いて作品を記入。別紙に住所、雅号(ふりがな)、本名、電話番号を明記。切手600円(120円切手5枚)を同封。
投句締切 4月24日(月) 必着
投句先 〒691-0002 出雲市西平田町191-4
 眞野 吞舟 宛
 電話 0853-63-1907
主催 ひらた川柳会

第19回 鈴鹿市民川柳大会

日時 6月25日(日) 午前10時開場
会場 津市新町1丁目6-28
 プラザ洞津
 (近鉄津新町駅より西へ徒歩2分)
 会場ではマスク着用
会費 1500円(発表誌呈・昼食は各自で)
欠席投句 2000円
 (鈴鹿川柳会会員と誌友に限る)
兼題 各題2句・締切12時・開会13時30分
席題 共選「当日発表」 鈴木 順子 選
 共選「同上」 丹川 修 選
宿題 「ランチ」 小川 加代 選
 「無 念」 原 雄一郎 選
 「狙 う」 岩田 明子 選
 「自由吟A」 新家 完司 選
 「自由吟B」 青砥たかこ 選
 自由吟は、共選ではない。別の句を出句。
問合せ先 059-380-0303 吉崎 柳歩
 059-387-6234 青砥たかこ
主催 鈴鹿川柳会

全日本川柳鳥取大会記念 第23回春はくろぼ川柳大会(誌上開催)

★宿題と選者(各題2句まで・共選)
 「祝 う」 青砥たかこ・藤村 亜成 選
 「嫌 う」 北山まみどり・片野 晃一 選
 「誘 う」 猫田千恵子・梅崎 流青 選
 「違 う」 福本 清美・長谷川酔月 選
 「自由吟」 雫石 隆子・赤井 花城 選
★投句締切 4月28日(金) 消印有効
★投句方法 所定の用紙(コピー可)または任意の用紙に郵便番号・住所・氏名(雅号・本名)・電話番号・所属柳社を明記。
★投句先 〒689-0343
 鳥取市気高町飯里84-4
 鈴木公弘方 大会事務局 宛
 電話 0857-84-2886
★投句料 2000円(定額小為替)
 発表誌『川柳いのちの詩』
 (7月号予定) 呈
★主 催 川柳同友会みらい

第33回 時の川柳交歓川柳大会

日時 5月13日(土) 10時30分開場
会場 兵庫県中央労働センター
 神戸市中央区下山手通6-3-28
 電話 078-341-2271
会費 2000円(記念品・発表誌呈)
 昼食は各自お済ませ下さい。
出句締切 12時
兼題 各題2句 席題なし 欠席投句拝辞
 「月 」 大和 旅愁 選
 「火 」 平井美智子 選
 「水 」 森 茂俊 選
 「木 」 前中 知栄 選
 「金 」 木本 朱夏 選
 「土 」 赤井 花城 選
 「雑 詠」 矢沢 和女謝選
特別課題 1句
 「神 戸」 安部 美葉 選
問合せ先 電 話 090-7340-5956
 矢沢 和女
主 催 時の川柳社

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
あかつき 川 柳 会	14日(金) 並・彗星・ミラクル・時事吟	会場 大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
岸 和 田 川 柳 会	15日(土) 14時締切 囁目吟・輝く・弾む	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川 柳 たちばな	15日(土) 13時45分締切 印象吟・箸(互選)・好き 自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川 柳 塔 みちのく	15日(土) 17時締切 運・冴える・優しい	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 藤 井 寺	16日(日) 14時締切 ダンス・味わい	会場 パールホール4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南 大 阪 川 柳 会	17日(月) 15時締切 手紙・助ける・ラッキー・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊 中 もくせい 川 柳 会	17日(月) 14時締切 ペット・通う・やれやれ・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 ねやがわ	18日(火) 13時締切 欠席・さっぱり・暖かい 重い・自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川 柳 さ ん だ	18日(火) 13時30分締切 忠告・恐い・レディ・遊ぶ 自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1324 三田市ゆりのき台3-14-9 上田ひとみ
川 柳 塔 すみよし	22日(土) 14時締切 声・ずらす・アナログ	会場 住吉区民ホール集会室4 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和 歌 山 三 幸 柳 会	22日(土) 13時15分締切 桜・花見・猫	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 会 川 柳 会	23日(日) 14時締切 桃・遊ぶ・べろり・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	30日(日) 13時から 自由吟・時計・無事・旅行 席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

4 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
城 北 川 柳 会	1 日(土) 14時締切 囁く・プライド・王手・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	1 日(土) 14時締切 新米・やっぱり・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200 m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉 吉 川 柳 会	1 日(土) 14時締切 桜・便利・含む・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川 柳 塔 ま つ え 吟 社	1 日(土) 13時40分締切 光・顔・笑う・水	会場 雑貨公民館 投句先 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
川 柳 塔 な ら	6 日(木) 14時締切 馴れる・きっと・迷子	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅奈良駅③番出口徒歩5分 投句先:奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
おりひめ☆ ひこぼし 川 柳 会	7 日(金)消印有効 自転車・あおい・希望	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
六 甲 川 柳 会	8 日(土) 14時締切 席題・追加・ずるずる 泣く・自由吟	会場 灘区民センター 5階 E 室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川 柳 塔 打 吹	8 日(土) 13時30分締切 業・揺れる・こつこつ・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川 柳 塔 わかやま 吟 社	9 日(日) 14時10分締切 兼 題=無駄・しっかり・マーク 課題吟=猫	会場 和歌山県JAビル11階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 楽原道夫
西宮北口 川 柳 会	10 日(月) 13時30分締切 席題・視線・甘える・きゅん 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほ たる 川 柳 同 好 会	11 日(火) 13時30分締切 川・古い・折句 は・わ・い	会場 豊中市立蛸池公民館 阪急・モノレール蛸池 蛸池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川 柳 塔 さ か い	11 日(火) 14 時締切 安心・ローカル 折句:さ・く・ら	会場 東洋ビルディング(堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
川 柳 あまがさき	11 日(火) 14時締切 運ぶ・壁(連記)・ 折句 す・い・た・自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造

編集後記

★1、2月の劇場通いは次の通り。

★1月4日、初夢で「見たよ、聞いたよ」浪花節（阿倍野区民センター）。

トリの松浦四郎若は77歳だが、衰えを知らない声

と節に驚く。7日、桂文

珍兵庫大独演会（兵庫

県立芸術文化センター）

客の投票で決まったネタ

を三席したが、「老婆の

休日」が一番。27日、大

阪落語祭初日（NGK）。

落語六席と口上。桂福團

治の久しぶりに聞いた

「蜆売り」が一番。

★2月3日、根本宗子

作「宝飾時計」（ピロティ

私がいま好きな東京の落

語家の三位が二之輔、二

位が立川談春、一位が柳

家喬太郎。「ガマの油」普

段の袴」「寝床」の三席。

どれも良かったが、「寝

床」が一番。（道夫）

♡日本で初めて世界遺産

に登録された法隆寺は今

年で30年の節目にあた

る。先日、「世界文化遺

産法隆寺」というテーマ

で、いかるがホールで歴

史講座が開かれた。1部

は法隆寺管長の「法隆寺

と聖徳太子」のお話。2

部は1958年に制作

川柳の虜

私が川柳を始めたのは、橘高薫

風先生のお人柄とその作品に魅か

れ、先生の門を叩いてからである。

胃半分肺半分の湯呑かな

恋人の膝は檸檬のまるさかな

私は食欲に先生の作品を読み、

作句に励んだ。先生は妥協を許さ

ず厳しく私の作品を指摘された。

私は怯むことなく食い下がった。

俳句が「自然を詠む」のに対し、

川柳は「人間を詠む」と言われ、

俳句は「モノを写す」のに対し、

川柳は「コトを述べる」とも言わ

れる。川柳は創れば創るほど奥深

く難しいが、また易しくもある。

こんな川柳に癒されながら今では

川柳の虜になっている。

薫風先生は、平成十七年四月に

黄泉へと旅立たれた。瘦身の先生

の面影が今でも脳裏から離れるこ

とはない。先生が最期に枕元に残

された句。

昼寝覚めボトリと極楽へ壁ちる

般若心経なぞり御師の息を吸う 昭

（太田 昭）

された。

♡そして雅楽の笙、箏、

龍笛を紹介してからの演

奏は会場からざわめきが

出るほど圧巻。その宇宙

を感じさせる音色に呼び

起こされて飛天が空間を

舞っているようでホール

にはいにしえの風が吹い

れる。胸像は、路郎師の

川柳生活50年を記念して

約200人余を募って贈

呈されたものである。

贈呈式は、1951（昭

和26）年11月3日文化の

日、大阪市立大宝小学校

（現中央区）で開催。除

幕は西尾葉師の長女蕉子

（現在は古今堂蕉子）さ

んがテープを引いたそう

です。先日、蕉子さんに

お尋ねしましたら、「まっ

たく覚えていない」との

ことでした。

♣『川維』No.295より

胸像 麻生 路郎

胸像も主張をまげぬ面

ラ構え

胸像にしつかりやれと

云われそう

子に譲るものに寿像が

一基あり

今日からは寿像が留守

居してくれる

夜は長し寿像の影と僕

の影

（勝弘）

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

「発表(6月号)

地名

市都
道府 姓雅号

きりとらせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにご利用いたします。

檸檬抄投句用紙

「しつこい」(4月15日締切)

6月号発表

永見 心咲 選 — 共選 — 江島谷勝弘 選

B A

--	--

地名

市都
道府
姓雅号

B A

--	--

地名

市都
道府
姓雅号

切らないで下さい

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい

川柳塔誌新規購読申込書

きりとらせん

年 月 日

○ ○ 年 年 月 月 から から 一年 半年 9800円 5000円 } 該当の方に○をつけて下さい	紹介者	電話	住所	氏名
	(無記入でも可)		〒	フリガナ
ー				

川柳塔のホームページアドレス

<https://senryutou.net>

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

6月号発表(4月15日締切)

川柳塔(8句)	小島蘭幸選
水煙抄(8句)	木本朱夏選
愛染帖(2句)	新家完司選
檸檬抄「しつこい」(2句)	江島谷勝弘共選
インスピレーション・ナビ(2句)	永見心咲選
一路集「あきらめる」	大西泰世選
「そろそろ」	鈴木公弘選
「本」	森田旅人選
初歩教室「本」(3句)	水野黒兎担当

初歩教室「本」は7月号発表

7月号

檸檬抄「サイズ」

一路集「救う」「目移り」

初歩教室「乗り物」

本社4月句会

とき 4月10日(月) 13時開場・13時40分締切

ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間

天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441

おはなし「川柳つれづれ草」

兼題「片方」「あきれる」「とろり」「自由吟」

席題「自由吟」

会費 1000円

投句料 1000円(切手不可)

稲葉良岩氏

枇杷谷和郎選

野口真桜子選

平賀国和選

鈴木いさお選

小島蘭幸選

(各題2句以内)

本社5月句会

8日(月) 午後1時から

兼題「通す」「バランス」「湿る」「景色」「自由吟」

本社句会欠席投句のお薦め

- * 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
- * 投句料1000円(切手不可)。
- * 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

振替 〇〇九八〇四一九八四七九番

電話 (〇六)七七九一三四九〇番

発行所 川柳塔社

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一七

花野ビル201号室

印刷所 美研アート

編集人 小島和幸

発行人 小島和幸

二〇一三年(令和五年)四月一日発行

定価 八百円(送料100円)

半年分 五千円(送料共)

一年分 九千八百円(同)

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

ホームページ <https://www.bikenart.com>

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



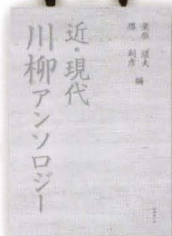
消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>

近・現代 川柳 アンソロジー



川柳愛好者の座右の書

各作家作品 25句と
プロフィール収載

定価（本体 2,700 円 + 税）

A5 判ハードカバー / 320 頁

ISBN 978-4-8237-1071-1

お求めは新葉館出版、オンライン書店まで

来原道夫・堺利彦 編

編者・来原道夫と堺利彦が約3年をかけて選定した明治から現代にいたる著名川柳作家とその代表作が集成された、近・現代を通じた最大の川柳アンソロジー。

《主な収録作家》

・川柳中興の祖・井上剣花坊と阪井久良伎
・昭和黄金時代を築いた六大家（川上三太郎・前田雀郎・村田周魚・麻生路郎・岸本水府・楳元紋太）
・昭和後期から平成までカリスマ的存在で一時代を築いた時実新子・尾藤三柳・斎藤大雄など
・現代の川柳界を率いる大野風柳・森中恵美子、小島蘭幸、新家完司、高瀬霜石、やすみりえなど多数